
S C 学園物語

ゼロディアス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SC学園物語

【Nコード】

N7343Q

【作者名】

ゼロディアス

【あらすじ】

ウルトラマンゼロシリーズ、リリカルなのはヒーローズシリーズ、ダークデイクイドシリーズ、その他のキャラ達が登場して学園生活を送るドタバタコメディー話。

注意・キャラ崩壊する恐れあります。

また、バカッフル描写等がありますのでご注意ください。

（後、他の原作名は増える度此处に更新いたします。／銀魂／リリカルなのはシリーズ／フェイトステイナイト／平成仮面ライダーシリーズ／ぬらりひょんの孫／スパー戦隊シリーズ／ひぐらしのな

く頃にノゼロの使い魔ノらき　すたノソウルイーターノとある魔術
の禁書目録ノボボボーボ・ボーボボノコードギアス反逆のルルーシ
ユノ魔法少女まどか　マギカノDOG　DAYSノSTAR　DR
IVER輝きのタクトノ天元突破グレンラガンノカードキャプター
さくらノレジェンズ　甦る竜王伝説ノまよチキ！ノタユタマノ僕は
友達が少ない）

第1話 『いきなり無茶苦茶じゃね?』

此処はSSC学園

そのある教室では・・・。

K組

(何で、こんな所来たのだろう)

志村新八は席に着きながらそんな事を思っていた。

「お妙さん!!!!!!!!!!」

「うるせえこのバカゴリラ!!!!!!!!!!」

近藤という男子生徒が新八の姉の志村妙に飛びつくこととするが妙は近藤を殴り飛ばした。

「ぎゃああああ!!!!!!!!!!!?!」

「死ねーい土方!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

仮面ライダーG3-Xの装着者でもあり、風紀委員の一人、バズーカを持った沖田という男子生徒が土方という同級生を撃った。

「うおおおお!!!!!!!!!!?」

土方は回避したがバズーカの弾は仮面ライダーカブトこと上条当麻に向かって行き、直撃した。

「ぎゃ ああああ不幸だあああああ……!!!!!!!!?」

「私のハンバーグを勝手に食べましたね神楽あああああ……！！！！」

仮面ライダーブラックウガこと女子生徒の一人、セイバーは早弁していたが神楽という女子生徒にハンバーグを盗られてしまいセイバーは神楽に怒鳴る。

「ていうか早弁すんな!!!」

すかさずセイバーの彼氏の仮面ライダークウガこと衛宮士朗がツツコム。

「ハンバーグならまた俺が作ってやるからさ」

「はい士郎」

「死ねえええ土方あああああ！！！！！！！！！！」

沖田がバズーカで土方を撃ちまくり、教室がエライ事になっている。

「テーマ総悟！！　こんな事してただで済むと思うなよおおお！！！！！！」

「おいしい！！！！！誰か沖田さん止めろおおお！」

仮面ライダーキバこと平賀サイトが叫ぶ。

「アンタが何とかしなさいよ!!」

「無茶言つなよ!!?」

ルイズがサイトに言うがサイトは無理だと言う。

「キバで何とかなんないの!!?」

「キバットがあゝの二人の間入るのは御免だつて言つてタツロットと一緒に何処か行つちまつたよ」

「おい!! 近藤さんじゃ止められないのか!!?」

仮面ライダー響鬼こと前原圭一が言うが・・・。

「みゝ、近藤はお寝んねなのですゝ」

そう答えたのは仮面ライダー歌舞鬼こと古出梨花であり、近藤は先程の妙の一撃で気絶していた。

「使えねええええ!!!!!!!!」

「全く、騒がしい連中だな」

仮面ライダー龍騎ことルルーシュ・ランペルージが呟く。

「ルルーシュ、何とかならない?」

仮面ライダーリュウガこと枢木スザクがルルーシュに聞くが・・・。

「俺でも思いつかん」

さらに、この争いは沖田と土方だけでは済まなかった。

「今日こそお前を倒す!!」

「やれるもんならやって見やがれ!!」

諸星ランの変身したウルトラマンゼロと、諸星零夜が変身したダイクゼロが（両者等身大で）戦っていたのだ。

「シユア!!」

「デヤアア!!!!!!」

「外でやれええええええ!!!!!!」

これにはさすが新八もツツコミを入れた。

「ちょ、ホンマ誰か止める事出来へんのん?」

女子生徒の一人の八神はやてが呟くが・・・。

「いや、『あの二人』じゃないと駄目だと思う」

そう言ったのはウルトラマンネクサスで仮面ライダーナイトであり、はやての彼氏の秋山カズキ。

そして『あの二人の内一人』が現れた。

「じゃあ私はランちゃんと零夜くん止めるね?」

「「え?」」

はやてとカズキは振り向くとそこにはランの彼女の魔導師姿の高町なのはが黒い笑みを浮かべて笑っていた。

「「.....(大汗)」」

「ランくん、零夜くん.....」

「あ、なのは!!」

「何い!!!?」

ゼロとダークゼロはなのはに気付く。

「教室で暴れたら駄目じゃないのかな？ 二人とも、少し、頭冷やそうか？ スターライトブレイカー！！！！！！！！！！」

「ぎゃあああああ……!?!?!?!?!?」

すると大爆発が起きてゼロもダークゼロもぶっ飛んだ。

「ていうか余計悪化してんじゃねえかあああああ……！！！！！！」

新八がツツコムのもごもつとも、スターライトをなのはが放ったせいで教室の大半が無茶苦茶。

それでもまだ土方暗殺をバズーカを持って実行する沖田。

すると、二人の男女が入って来た。

「おはようございます」

「おはよう、ってあれ？」

「何これ？」

それを言ったのはこの作品の主人公でもある風上光とフェイトテス
タロツサである。

「くたばれええええええええええ！！！！！！！！！」

沖田はバズーカで土方を撃つが土方は交わす。

バズーカの弾はそのまま光とフェイトの方に向かって来るが光はフェイトを押し退かす。

「きゃあ！！？ 光！！！！」

そして光にバズーカの弾が直撃したのだが・・・。

「痛い・・・」

服が汚れた程度でほぼ無傷。

『えええええええ！！！！！！！！！！？』

「お前は何だ！！？ アンデッドか！！？」

士郎がツツコムのだが・・・。

「まあ、鍛えてますから」

「光、それ俺のだと思う」

と圭一。

「ていうかフェイトが怪我する所だったろうがあああああああ！！！！！！！！！！」

光は沖田に一気に詰め寄り、沖田にバックドロップを喰らわせた。

「うごおお！！！！！！！！？」

そのまま沖田は気絶した。

因みにさっきカズキが言っていた二人の内もう一人は、光である。

光には死神騎士という不名誉なあだ名があるが、もう一つ、もっと不名誉なあだ名がある。

『大魔神』という不名誉なあだ名が・・・。

取り合えず半壊した教室は光の変身するディケイドによって何とか直した。

すると教室に一人の男性が入って来た。

仮面ライダーアギトであり、このクラスの担任坂田銀八である。

「おい、テメー等、ぎゃーすかぎゃーすかやかましいんだよ。思春期ですかコノヤロー？ 席につけ」

銀八がやる気無く言い、生徒は全員席に着く。

「うーし、それじゃ出席とんぞ衛宮」

「はい」

「セイバー」

「はい」

「新ば・・・メガネ」

「いやちよつとおおおお！！！！！！？ 何で僕の名前メガネなの！！？ そのまま言えば良かったじゃん！！ 新八ってそのまま言えば良かったじゃん！！」

「神楽」

「無視すんなああああ！！！！！！！！」

「ほいアル！！」

叫ぶ新ば・・・では無くメガネはほっておいて銀八は生徒の名前を

呼ぶ。

「作者もワザと僕の名前間違えてるし!!」

「ヅラ」

「先生、ヅラじゃありません桂です」

「あつそ、つつかヅラ、お前髪邪魔だからいい加減取れ」

「先生、取れません」

「じゃあ外せ」

「先生、訴えますよ?」

「つつかテメー今他の作者さんのキャラと異世界旅してる途中だろ
うが」

「あつちの僕とこつちの僕とは違うので問題ありません」

銀八と学級委員長のアナザーアギトこと桂とのやり取りは取り合えず流す。

「志村妙」

「はい」

「ストーカーゴリラ」

「先生!! もしかしてストーカーゴリラって俺の事ですか!!?」

と近藤。

「オメー以外に誰がいるんだよ?」

「ゴリラかどうか兎も角、俺はストーカーじゃありません!! 俺
はただ、お妙さんが好きで好きで付きまってるだけです!!」

「それがストーカーつつんだよ!!!!!!」

「ぐべら!!?」

妙はドロップキックを近藤に決めた。

「前原圭一」

「はい」

「猫被り婆・・・じゃなくて古出梨花」

「ちよつと！！ 猫被り婆って言いかけたわよね！！？ どういう意味よそれ！！？」

キレる梨花だが銀八はスルー。

「無視しないでよ！！」

「平賀」

「はい」

「ツンデレ王女ルイズ」

「誰がツンデレ王女だああああ！！！！！！」

「え？ お前ツンデレ星の第一王女だろ？」

「何じゃそりゃああああ！！！！！！」

ルイズはエクスプロージョンで銀八を攻撃した。

「ぎゃああああ！！！！！！？」

ボロボロになりながらも銀八は何とか続行する。

「えーっと、土方」

「はい」

「沖田」

「へーい」

「ランペルージ」

「はい」

「体力バカ」(スザクの事)

「はい」

「あ？ それ普通に答えちゃうの？ 体力バカって認めてんの？」

まあ、良いや、次い諸星零夜」

ん?

「キジャー！！」

「キジャー!!」

零夜は何か手に得体の知れない化け物、目が六つもあるタコとかフ
エイ○ハガーみたいな気持ちの悪い生物を両手に持つて黒い液体が
グツグツ煮えたぎつてゐる鍋に放り込もうとしていた。

「お前は何してんだああああああ！！！！！！！！！！？」

「いや、新しい合成怪獣を作るのに必要な材料を……」

「学校でするんじゃないよ!! いや、ホントにやられても困るけど」

銀八は零夜にツツコム。

「上条当麻」

「はい……」

当麻はボロボロながらも返事をする。

「諸星ラン」

「はい」

「高町」

「はい」

「テストロツサ」

「はい」

「
八神
」

「はい」

「ツナシ・タクト」

「あの、僕確かにタクト似ですけど秋山カズキです」

「あ、ごめん、似てるから間違えた。次は、風上光」

「はい」

「以上だ」

「「「ちよつと待ったあああああ！！！！！！！」」」

剣崎一真と火野エイジとアंकが叫ぶ。

「あ、お前等いたの？」

「最初からいました！！」

とエイジ。

「それは良いんだけどさぁ・・・お前、何でパンツ一丁なの？」

何故かエイジはパンツ一丁だった。

「寒そうにしてる犬がいたのであげました」

「ああ、そうなんだ」

「というか、俺を無視するな！！」

「ウエーイウエーイ！！」

アंकと一真が叫ぶ。

一真に至っては何言ってるか解らないが・・・。

「わーったわーった、鳥とオンドウル星人」

「誰が鳥だ！！俺はアंकだ！！！！」

「オデハケンジャキダー!!」(訳・俺は剣崎だ)

「アंकは良いとしてお前はもう何言ってるか解んねえよ」

するところでフェイトが・・・。

「この小説の主人公光なのに光の出番少なすぎるよおおおお!!
!!!!!!!!!!」

とまあ、光の彼女のフェイトが叫び、作者にプラズマザンバーブレ
イカーを放ってつてぎゃあああああああ!!!!!!!!!!!!!!!!?

「光の出番増やしてね?」

ジ、G I G。

「ウルトラマンメビウス!!?」

それから休み時間になり、新八立ち上がって呟いた。

「転校しよ」

第1話 『いきなり無茶苦茶じゃね?』 (後書き)

何故、オリジナルライダーの一真だけがクラスにいるのか、それは平成ライダーで結構気に入ってるキャラだからです。

第2話 『授業の様子を見てみよう!』（前書き）

今回はロムス力王さんと龍の骨さんとのコラボです。

作品は何かは本編に書いてあります。

本当はもう一つコラボ要請があっただんですが出す暇が無く、次回出そうと思います。

第2話 『授業の様子を見てみよう!』

K組

「はい、今日は『BSAA学園』の零斗とアックスと蔡ボウ、そして『仮面ライダークロス』の دونالد が来てくれました」

気ダルそうな声で銀八が零斗、アックス、蔡ボウ、Donald を生徒達に紹介した。

「「よろしくお願いしまーす!!」」

「よろしくな!!」

アックスと蔡ボウと零斗は挨拶する。

「ランランルー!!」

Donald は「ランランルー」と言って挨拶(?)すると爆発が起こり、当麻とサイトがぶっ飛んだ。

「「ぎゃああああ!!!!!!」」

「何でー!!!」

新八のツツコミが炸裂する。

「Donald は嬉しくなるとついやっちゃった」

「嬉しい事あったんですか?」

光が言うがDonald は無視した。

「おー、おもしれえなお前!!」

零斗はドナルドに興味を持っていた。

「そんでもって、お前等は今日一日か二日、此処の授業を受けて貰うぜ」

「「はい!!」」

「うーっす」

「ランランルー!!」

ドナルドのランランルーのせいで何故か近藤と新八の席が爆発した。

「「ぎゃああああ!!!!? 何で!!!!!!?」」

「良いわよ、もっとゴリラに殺ってくださいドナルドさん」

妙は笑顔でとんでも無い事を言う。

「お妙さああああん!!!!(泣)」

「ランラン「やるなあああああ!!!!!!!!!!」」

一時間目

社会

社会の教師は仮面ライダーアクセルこと照井竜。

「先生、この意味が解りません」

零斗が竜に質問するが・・・。

「俺に質問するな」

「・・・」

「アックス様」

「んっ／／／／」

「んっ／／／／」

蔡ボウとアックスはキスする。

「んあ！ んっ／／／／」

「んんっ！！／／／／」

しかも大人キス。

殆どの生徒が顔を赤くする。

「俺の授業を聞け貴様等」

「アンタ人の質問聞かないでしょ？」

ルイズが言う。

「俺に質問するな！！」

「じゃあどうやってこれの意味とか解れば良いんですか！！？」

圭一が聞くが・・・。

「俺に質問するなああああ……!!!!!!」

「零斗、あいつにお前のマイティ真拳ってやつ喰らわせて」

ランが零斗に頼む。

「おう!!」

という訳で零斗は竜を懲らしめた。

「良いのか？ 教師にそんなことして？」

*

2時間目家庭科

「と言う訳で、僕と」

「私と」

「我が家庭科をする」

家庭科には教師が何と三人いる。

雷刃の襲撃者ことライハ、星光の殲滅者ことセイナ、闇統べる王ことネーナである。

「光〴〵〵〵んっ〵〵〵〵」

「んっ／＼／＼フェイト／＼／」

光とフェイトはキスしていた。

光とフェイトだけでは無く、はやてとカズキ、ランとなのは、蔡ボウとアックスでもある。

「何でキスしてるの!!?」

「はあ、はあ／＼／＼先生が遅いからですよ」

光とフェイトは一旦キスするのを辞め、光はそう答えた。

「御免ね、途中で龍夜に会っちゃって、そしたらいきなり龍夜キスしてくるんだもん／＼／＼」

ライハは同じ教師である龍夜と付き合っている。

「我もな、ミガトに引き止められていきなりキスされて・・・／＼／＼抵抗しようとしたんだが・・・／＼／＼」

因みにミガトという男性も教師。

「私は・・・フツ！ この人達をフツ！ 何とか連れて来ようとフツ！ しましたフツ！」

「何してんですかセイナ先生？」

新八が聞く。

セイナは壁を殴りまくりながら遅れた理由を話していたのだ。

「何で、私だけマテリアル三人娘の中で彼氏がいなのかな？と・
」

ガンガンガンツと壁を殴りまくるセイナ。

「vivid&HEROの方の私なら好きな人ならいるんですけどね、私一応二人の光の巨の方の私で成長した方ですが二人はvivid&HEROの二人、何分アホとワガママツ子に先越されたのが・
」

「何だとセイナあああ！！！！！！」

「何ですか？やる気ですか？」

「上等だ！！」

「やってやるう！！」

「授業やれお前等あああああ！！！！！！！！」

土方が声を大きくしてツッコんだ。

*

3 時間目

理科の実験

「俺が理科の教師のボボボーボ・ボーボボ！！　ボボボーボ、ボボボ！！　ボボボーボ・ボーボボなのかあ？」
「いや、聞かれても」

生徒の殆どがそう答えた。

「えー、今日の実験は・・・首領パッチの解剖です」

「んー！！んー！！」

ボーボボは縄で首領パッチを縛りつけ、口をガムテープで張り、身動きを取れなくしていた。

「あの人（？）大丈夫なんですか！！？」

光も心配になったが・・・。

「まあ、大丈夫じゃね？」

愉快そうに見てる零斗が答えた。

「しゃあー！！！！！！行くぜー！！！！！！」

ボーボボが首領パッチを刀で真っ二つに切裂いた。

「どっから刀出した！！？」

土方のツッコミは置いておき、斬られた首領パッチは・・・。

「いてーなこのヤロー！！」

「何すんだこのアフロおおお！！！！！！」

真っ二つにされた状態で何と生きていた。

『ええー！！！！？』

*

取り合えず他の授業は飛ばし・・・。

昼

食堂

この食堂には値段が安いコース、中くらいのコース、高いコースと
いうのがある。

そして生徒が高いお金を払って弁当を買ったのだが・・・。

「何だ？ お前みたいな貧乏人がそんな勝ち組の飯を食べるな」

と言ったのは仮面ライダーレンゲルのムツキ。

因みに金持ち。

生徒はムツキを睨むが・・・。

「何だよ？ やるのか？」

するとそこへ・・・。

「コラー!!」

睦月の変身したムツキと同じ仮面ライダーレンゲルがレンゲルラウザーでムツキの頭を思いっきり叩きつけた。

「ギャアアアア!!!?」

「全く、同じレンゲルとして恥ずかしいよ。 来い!! 君の根性を橘さんと一緒に直してやる!! 橘さーん!!」

「ん?」

橘は彼女のシャマルが作って来た弁当、ダークマターを美味しそうに食べていた。

「何食べてんですか橘さあああああん!!!!!!!!!!!!?」

変身を解いたレンゲル、睦月は精一杯叫んだ。

因みにムツキは気を失ってる。

「「卵焼き」」

シャマルと橘がハモって答えた。

「卵焼きじゃありません!! それは可哀想な卵です!!」

「いやー、意外とイケるかもしれないよ」

Donaldも普通に食べていた。

「アンタはホント色んな意味で無双だなあああああ!!!!!!」

「!?」

睦月が叫ぶ。

「いやゝ、カオスだなゝ」

零斗が呑気にそんなこと言ってる。

「うん、まあそうなんだけど・・・」
「どうしましたアックス様？」

蔡ボウがアックスに聞く。

「此処いたら危ない気がしてきた」

因みに橘もシャルも此処の生徒。

「無理あるでしょ!!?」

とアックス。

「誰が無理あるって?」

「え?」

橘とシャルが黒いオーラ放ちながらアックスを見ていた。

「すみません」

＊

翌日

「実はな、志村妙と高町なのはリコーダーが誰かに盗まれた。取り合えず適当に犯人見つくるう事にした。盗んだ奴は正直に手えあげろ、嘘でも良いぞ。今なら妙も盗んだ奴のケツにリコーダー突っ込んで翼をくださいをフルコーラスするだけで許してくれるってよ。高町はスターライトの刑で許すって」

と銀八。

「嘘じゃ駄目じゃね？」

サイトが言う。

「しゃーねーな、おい、誰かリコーダー持ってねえか？俺が吹いて手本見せてやる。誰か貸せ、出来れば女子」
「嫌でーす、タバコ臭くなりそうだから」

銀八はタバコと思われるものを口に加えていたが・・・。

「だからこれはレロレロキャンディーだって言ってるんだろ？」
「キャンディーから煙は出ません」
「だからものすごくレロレロしてるから煙が出るんだよ」

すると銀八は口からタバコと思われたレロレロキャンディーを出し

た。

「・・・」

「先生、良かったら私のどうぞ、壊れてファの音しか出ませんけど」
「僕のも良かったらどうぞ、僕のも壊れてファの音しか出ませんけど」

神楽とスザクは穴のあいたちくわを出し、ファファファと吹く。

「壊れてるのはお前等の頭だー」

するといきなり鏡から巨大なヘビ、ベノスニーカーが現れて当麻をぶっ飛ばした。

「だから何で毎回俺ー！！！！！！？」

「不幸体質だからじゃね？」

「てか何でベノスニーカーが！！？」

「あれだろ？ 笛を吹くと蛇がニョロニョロと出てくるあれ」
「ちくわでかあああああ！！！！！！！！？」

銀八と新八がそんなやり取りをしている間に光がベノスニーカーを蹴り飛ばしてミラーワールドに戻した。

「良いから貸せって女子」

『絶対嫌です！！』

女子全員が嫌だと答えた。

「いい加減にしろよ女子！！ 先生は犯人探そうと必死なんだぞ！！」

「そうだ!!」

近藤と零夜が立ち上がり、言い放った。

「あれの何処が必死なんでしょうねアックス様？」

「さあ？」

「先生!! 俺の使って下さい!!」

「もしくは俺の!!」

「大丈夫です!! ヤニ臭くなくても俺二本持ってるんで!!」
「何でお前等二本持ってたんだよ？」

「え？ あ・・・」

零夜と近藤は振り返るとそこには黒いオーラを放った妙となのは、そしてランである。

「零夜あ、テメーがなのは好きなのは知ってたが、ストーカーになりかけてたとはなあ・・・」

「いや待て!! 話を聞け!! 俺は最初はそんなつもりは無かったんだが、近藤にそそのかされてしまって・・・!!」

「「問答無用!!」」

なのはのスターライト、ランの変身したゼロのワイドゼロショットが零夜に炸裂した。

「ぎゃああああ!!!!!!!!!!?」

「え？ ちょ、お妙さんマジでやんの？ ぎゃああああ!!!!!!!!!!?」

それから零斗、ドナルド、アックス、蔡ボウは自分達の世界へ帰っ

て
行っ
た。

第2話 『授業の様子を見てみよう!』（後書き）

零夜・・・（笑）

零夜は本当に近藤にそそのかされただけです。

因みに零夜はなのはの事好きです。

光の巨人の零夜はなのはの事好きになりませんが。

此処のセイナはある人とフラグを立てます。

ムツキは睦月を見習わせたかったのでちょっと悪い奴にしました。

第3話 『人の恋路を邪魔するのは駄目』（前書き）

今の所キヤラ崩壊を一番してる人・・・。

それは零夜です。

今回は矢部野さんの「魔法少女リリカルなのはANOTHER
AGITO STORY」から木野さんが来ます。

そちらもお願いします。

第3話 『人の恋路を邪魔するのは駄目』

学園

ある部屋

そこには零夜を始めとし、仮面ライダーガタツクの美琴、当麻の相棒のガルナ、当麻、仮面ライダーネガ電王のこなた、その相棒のネガタロス、アナザーアギトであり、保健室の先生の木野、そしてかがみが集められていた。

「で？ 俺達を集めた理由は何だ？」

当麻が零夜に聞く。

このメンバーは零夜が集めたメンバーである。

「今日みんなに集まって貰ったのは他でも無い。 奴が動く・・・」
「奴が！！？」

こなたはそれを聞いて驚く。

「ああ、あの野郎等々行動を起こしやがったよ。 決戦だ。 奴も奴の企ても全て潰す」

「そう、それじゃ少なくとも私も全力で協力する」

とこなた。

「そうか、頼りにしてる」

零夜はそう言って部屋を出て行った。

「ねえ、かがみ」

「何こなた？」

「奴って誰かな？」

「知らねえーのかよおおおお！……！！！」

*

翌日

ある遊園地

そこにはヴィヴィオという少女が入り口前で誰かを待っていた。

「ヴィヴィオ！！」

そこへ一人の青年、李ツバサがやって来た。

「御免待った？」

「ううん、全然」

「それじゃ、行こうか？」

「うん！！」

少し離れた草むらの影では・・・。

「野郎、ふざけやがって、ヴィヴィオはテメーが来るのを五分も待ってたんだぞ？ ツバサ、テメーの残りの人生で償って貰おうか？」

サングラスをかけた零夜がライフルを構えてツバサに狙いを定めていた。

「おい、かがみか美琴、お前等ちよつと土台になれ」

「待たんかいいいいい！！！！！！！！」

「零夜くん、もしかしてヴィヴィオさんのデート邪魔する為だけにみんなを此処に呼んだんですか？」

「その通りだ木野先生」

「しかし、何故そんな事を？」

ガルナが零夜に聞く。

「いずれはヴィヴィオはウルトラマンゼロシリーズでランの娘になる筈だ！！ ならばヴィヴィオは俺の娘でもある！！」

「ああ、そういう事」

「え！！？ じゃあ何！！？ 俺達ヴィヴィオの彼氏のツバサ抹殺する為に来たの！！？」

「当麻、あいつは彼氏じゃねえええええ！！！！！！ 認めんよ！！ あんな奴パパは絶対認めんよ！！」

「やかましいわ！！ 俺もお前が『二人の光の巨人』のラスボス何て絶対認めねえよ！！ つうか誰がパパだ！！ ヴィヴィオもツバサもこつちじゃ俺達と同じ高3なんだぞ！！」

少しネタバレを言う当麻・・・。

「付き合つてられないな、美琴、ガルナ、行こうぜ」

「ええ」

「ああ」

「全く、ヴィヴィオのデートの邪魔するなんて御免だよ」

当麻は美琴とガルナを連れて帰ろうとした。

「待て、誰がそんな事言つた？ 俺はただツバサを抹殺して欲しいだけだ」

「もつと出来るかああああ！！！！！！！！」

当麻と美琴とガルナは帰って行ってしまった。

「木野先生、このバカ止めてください」

「私で止める事が出来るでしょうか？」

上から順にかがみ、木野が喋る。

するとそこへ……。

「話は聞かせて貰つたぜ」

「あ……松平先生！！」

体育教師の松平がやってきた。

「松平先生、丁度良い所に……私では止められそうにないので手伝つて貰えませんか？」

「木野先生……断るぜ！！」

「ええ！！？」

「零夜、お前の気持ちよく解る。俺も娘がいるからな」

「松平先生、解ってくれるか、俺の気持ちを!!」

「おう!!」

「まあ、俺もな、娘が好きになった奴なら認めてえさ。それで考えて・・・それで抹殺しかねーなと結論が出た」

「お前は考えて過ぎなんだよおおおお!!!!!!」

最後にネガタロスが全力でツツコム。

「よし行くぞ松平のとつつあん!!」

「おう!!」

松平と零夜はツバサとヴィヴィオの後を追って行った。

「はあ、ネガタロスくん、かがみくん、こなたくん、私達も後を追いましよう」

「そうですね、あのバカ共が何かやらかさない内に」

「ああ」

「誰がこなただ」

「「「ん?」」」

「こなた13と呼べ!!」

こなたはサングラスをしており、ライフルを構えている。

「面白そうだからいつてきまーす」

こなたもそのままツバサとヴィヴィオを追いに行った。

「おいいいいい!!!!!! 何か前にも見た事あるぞこれ!!」

「またこなたが変なのになっちゃったわよ!!」

「取り合えず、私達も追いましよう」

木野、かがみ、ネガタロスはバカ三人を追いかけて行った。

*

その頃

「当麻、美琴、折角なんだから遊園地で二人で遊んで来たらどうだ？」

「そ、それもそうだな／＼／＼」

「まあ、良いけど／＼／＼」

ガルナの提案で当麻と美琴も遊園地で遊ぶ事になった。

その様子を見てる人物が何人かいた。

「お姉さま何処に行ったかと思えば・・・やっぱりあの方とのデートでしたの、平賀さんか前原さん土台になってくれませんか？」

「待たんかいいいいいい！！！！！！！！」

サイトと圭一がサングラスをしてライフルを構えた黒子にツツコム。

因みにそこにいるメンバーはこの三人以外で一真、スザク、ルイズである。

「お前、朝早くから呼び出し喰らったと思ったら当麻と美琴のデイト邪魔する事だったのかよ!!」

とサイト。

「そうですわ」

「そんな事の為に私達呼ばないでよ!!」

「何か文句がありますの？ ツンデレ星第一王女ルイズさん」

「それ辞めんかああああい!!!!!!」

「ぷっ」

サイトが黒子の言った台詞に少し吹いてしまった。

「サイト〜!!」

「ぎゃあああああ!!!!!!!!?」

「ご愁傷様サイト」

*

遊園地

メリーゴーランド

ツバサとヴィヴィオはメリーゴーランドに乗っていた。

それを後ろからライフルで狙うバカ三人の零夜と松平とこなた。

「奴等やるなとつつあん」

「ああ、まさかこれを選ぶたあ、馬が上下になって狙いが定まらねえ」

「ていうかさ、とつつあん、零夜、そんなことよりこれ何時距離が縮まるんだろうね？」

「縮まるかああああ！！！！！！」

後ろの方にいたかがみとネガタロスがシンクロしてツツコミを入れた。

因みにこの世界じゃ怪人と人間が共存してるなんて日常茶番字の様なものだからネガタロスの事を見ても誰も驚かない。

「此処メリーゴーランドだぞおお！！！！ 土台ごと廻ってんだよ！！」

ネガタロスがすかさずツツコミを入れる。

「メリーとバンド？ 何だそれ？ 大人の遊園地しか俺が行った事ねえからわかんねーよ」

と松平。

「貴方はホントそういう事しか考えてませんね」

「「何い!!?」」

「間違いないね、チューする気だよあの二人」

「何だと!!!? それは本当かこなた!!!?」

「そりゃ観覧車って言ったらチューする場所でしょ、チューする為だけに作られたんだよあれ」

「「マジでか!!!?」」

「「んな訳あるかあああああ!!!!!」」

かがみとネガタロスのツツコミが炸裂する。

「まあ、恋人同士ならそうかもしれないが」

木野が言う。

「こうしちゃいられねえ!! 行くぞ!! とつつあん!! こなた!!!」

「「OK!!!」」

*

観覧車

「今日は楽しかったよツバサ／／／／」

「また、デートしようね?／／／／」

「うん!!!／／／」

ヴィヴィオはツバサに寄り添う。

そして二人の顔が互いに近づこうとした時、急に何か大きな音が鳴り、外を見るとそこにはヘリに乗ったバカ三人がいた。

三人はライフルを構える。

「「殺し屋13、お命頂戴する」」

「「えええええ!!!!!!」」

するとその時、ネガタロスの乗ったネガデンライナーが現れた。

「ネガタロスう!!?」

「いい加減にしろやお前等あああああ!!!!!!」

ネガデンライナーはヘリを攻撃し、撃墜した。

「「ぎゃあああああ!!!!!!」」

こなたは大した怪我は無かったが、零夜と松平は全治一カ月の入院生活を送ったとか。

ツバサとヴィヴィオは一緒に歩いて帰っていた。

「じゃあねツバサ」

「うん、ヴィヴィオ」

ツバサはヴィヴィオを家に送り、ヴィヴィオは家に入ろうとしたが・
・。

「ヴィヴィオ」

「ん？ ツ／／／／」

「んっ／／／／」

ツバサはヴィヴィオにいきなりキスしたのだった。

「じゃ、じゃあなヴィヴィオ／／／／」

「うん／／／／」

*

因みに

黒子は当麻と美琴のデートを邪魔しようとしたが美琴に気付かれレールガンを発射し、黒子はレールガンを喰らい吹き飛ばされとばかりを一真とスザクが受けたとさ。

第3話 『人の恋路を邪魔するのは駄目』（後書き）

銀八

「え、今回から質問受けつけようと思います。質問は1人につき三つまで、またマイナーな質問は一切受けつけません。」

次回はまたある人のキャラが来ます。

第4話 『ヤンデレというのは怖いもの』(前書き)

セイナが、キャラ崩壊してしまいました。

第4話 『ヤンデレというのは怖いもの』

朝。

光とフェイトは何時もの様に仲良く学校へ登校していたのだが・・・。

扉の前に光が立ち止まる。

「・・・」

「光？」

「フェイト下がって」

フェイトは言われた通り下がり、光は扉を開けるといきなり野球のボールが光に向かって飛んで来たが光は片手で受け止め、さらに光の右と左からまた野球ボールが飛んで来たが光はしゃがんで交わした。

「またですか？ 沙都子さん？」

光は呆れ顔で何故か此処にいる別のクラスの生徒の沙都子に向かって言った。

「むっ、悔しいですわっ！！！！ どうして毎回光さんには私のトラップが効きませんの！！？ 圭一さんはよく引っ掛かるのに！！」

圭一の方を見ると圭一は何故か墨まみれだった。

「タコとでも遊んでたのか？」

とサイトが圭一に言う。

「んな訳ねえだろ、沙都子にやられた」

「みく、次こそ光をぎゃふんと言わせるのですよ」

梨花が沙都子の頭を撫でる。

この沙都子は別のクラスなのだが、時々こうやって光や圭一を罾に
はめようとするのだが、光には一度も沙都子の罾に掛かった事が無
い。

「ねえ、光、たまには負けてあげたら？」

とフェイト。

「まあ、そうなんだけど流石に黒板消しで粉塗れになったり墨だら
けになったりしたら嫌だし・・・今回はそれは無いけど・・・」

それから沙都子は自分の教室に帰って行ったのだが・・・。

「ルシフェリオン・・・」

セイナが零夜に向かってルシフェリオンブレイカーを放とうとして
いた。

「いや待て待て待てええええええ！！！！　なんでルシフェリオン
ブレイカー放とうとしたんだお前はあ！！？」

「ゼロSTSでは私と付き合う事になったじゃないですか！！　だ
からさっさとこっちでも私とくっついてください！！」

「嫌待てやああああ……！！！！　俺とお前の立場考えろ！！　生徒と教師……！！」

「知るかああああああ……！！！！！！　なのはばっかり見てないで私を見るおおお……！！！！！！　ルシフェリオンブレイカー……！！！！！！」

「ぎゃああああああ……！！！！！！……！！？」

セイナはルシフェリオンブレイカーを零夜に放った。

それを見ていたランが一言。

「ヤンデレ」

そしてセイナは零夜を引きずって何処かへ行ってしまった後、零夜の悲鳴が聞こえたとか。

「セイナがヤンデレになってる」

「何やってるのあれ？」

上から順にランとカズキ。

「ヤンデレって、怖いよね」

なのはが言う。

「いやお前も九歳の時からなりかけだったから……！！」

ランがなのはにツツコム。

「えー？　そうかなあ？」

そこで光が口を開く。

「そう言えばさ、ヤンデレで思い出したんだけど、以前作者は僕とフェイトがゼロ魔の世界にルイズさんによって召喚されるっていう話を考えた事があつたらしいんだ」

「へえ、私が・・・」

ルイズが話に加わる。

「で、話し的にはこんな感じ」

*

トリステイン学院

ルイズがサイトでは無く、光とフェイトを召喚してしまった。

「此処、何処？」

「光・・・」

「大丈夫だからね、何かあつたら僕が守るから」

「うん／＼／＼」

「ちよっと、アンタ達誰？」

目の前にいるルイズが偉そうな態度で光とフェイトを見て聞く。

「えっと、僕は風上光」

「私はフェイト・テストロッサ」

「何処の平民？」

「平民？」

その後、その場にいたルイズと同じ様な格好をした少年少女達がルイズをバカにする様に笑っていた。

「流石ゼロのルイズ！！」

「平民を呼び出すなんて！！」

「うつさいわね、ちよつと間違えただけよ！！」

「あなたは何時もそれよねえ」

ルイズは頭のハゲた男性、コルベールに向かって行き・・・。

「つつか誰がハゲだああああ！！！！！！」

コルベールが怒鳴るが、実際ハゲてるじゃん。

「ミスタ・コルベール！！ もう一度やらしてください！！」

とルイズはコルベールに頼むが却下され、ルイズは光とフェイトの元へ戻って来た。

「アンタ、感謝しなさいよ！！ 平民が貴族にこんなこととして貰えるなんて一生無いんだから！！」

「え？ 何で僕に言うの？」

ルイズは光に顔を近づけ、唇を重ねようとしたが・・・。

『プッチーン!!』

何かが切れた音がした。

見ればフェイトがバリアジャケットを展開し、バルディッシュを構えてルイズに斬りかかってきたのだ。

「私の光に、触れるなああああ!!!!!!!!!!」

「ちょ、わああああ!!!!!!!!!!」

ルイズはすぐさま光から離れ、フェイトに追い回される羽目に・・・。

「ちょっとアンタこいつを止めなさい!!!!!!」

「さっき僕にキスしようとした?」

「だったら何よ!!!!」

「さっき君は感謝しろって言ってたけど、感謝出来ないな。むしろ逆。僕はフェイトとしかキスしたくないし」

「解ったから助けるやあああああ!!!!!!!!!!」

「はいはい」

光はフェイトの腕を掴み抱き寄せてフェイトと光は唇を重ねる。

「んんっ / / / / /」

「んっ / / / /」

「んあっ / / / / ふあっ / / / /」

「んぐっ / / / / んむっ / / / /」

光とフェイトは大人のキスをしていた。

もちろん周りの皆は顔を赤くしている。

「光は／／／／／ん／／／私のものだ／／／／／」

「んはっ／／／／／そうだよ／／／／／んっ／／／／／」

「いやまあ、止めるとは言ったけど・・・そんな止め方するなああああ！！！！！！」

*

「とまあ、こんな感じで僕が他にもゼロ魔の女性とフラグを立ててしまい、フェイトがヤンデレになってしまふという・・・」

「何恐ろしいもん考えてんのこの作者あああああ！！！！！！」

ルイズが叫ぶ。

「でもルイズと光をキスさせたくないし、だからと言って百合的方法も取りたく無かったのでそうしたら話が進まなくなってしまふのを書くの辞めたんだけどね。まあ、サイトさんも含めて召喚って方法もあったんだけどやっぱり書く気無くなったから辞めたという」

「いや、百合的方法って何？」

「聞かないで」

そこでなのはがある事を疑問に思い・・・。

「その時の光くとフェイトちゃんって幾つ？」

「うーん、14か15くらいかな？」

その頃。

理事長室。

そこに銀八、それに他の教師達が集められていた。

「えーっと、何の用すか理事長？」

銀八が理事長の「ぬらりひよんの孫」のぬらりひよんに言う。

「つつかアンタが理事長かよー!!」

V組の担任の石黒明がツツコム。

「まあ、なんじゃ、街で鬼ごっこしたら面白えんじゃねえの？
と思つて・・・それでお前等ん所の生徒ではV組とK組が逃げる
役で教師全員が鬼の役になつて鬼ごっこしようと思つての、なんか
面白そうじゃろ？ 因みになんでこの二クラスかつて言つと流石に
全クラス無理じゃからワシの独断で決めた」

「ただ単に面白そうつて理由だけ？」

「だけ、やるのは今度の土曜じゃからな」

「つつか鬼ごっこつて・・・」

「後お前等、これ参加しなかつたら・・・命落とすぞ？」

ぬらりひよんは刀を構える。

「いやどんだけ鬼こっこしてえんだよ！！！！　　つつか命って大げさだろうが！！！」

*

「つつ訳で、V組の連中とウチのクラスが逃げる役で、次に俺達教師が鬼だかな。　捕まった奴は鬼になってそのままだ。　そして鬼になった奴は鬼じゃねえ奴追いかける。　以上だ」
「いや待てえええええ！！！！！！」

そこで新八が叫ぶ。

「つつ訳ってどういう訳！！？　ちゃんと説明して下さいよ！！」
「んだよお、ちゃんと前の文章読めよ。　だからお前は新一じゃなくて新八なんだよ。　なんだ『八』って？」
「どういう意味だテメえええええ！！！！！！！！」
「所でさあ、さっきから気になってたんだけどアンタ何してんの？」

銀八が見る方向には気を失ってる零夜に抱きついてるセイナがいた。

「文句あるんですか？」
「いや、ねーけど教師と生徒でそれは・・・」
「文句あるんですか？」
「いや、だから生徒と教師・・・」
「文句あるんですか？」

「いや、あの「文句あるんですか？」もういい！！ もう解った！
！ もう俺は何も言わん！！ だがこれだけは聞かせる、なんで零
夜気絶してんの？」

「ルシフェリオンブレイカーざつと50発当てたからでしょうか？」

間違いなくそれが原因です。

「零夜生きてるか？」

「ええ、生きてます。 死んだら困りますから」

「そっいつ問題？」

*

その後、銀八は理事長室へ向かい、セイナの事を話していた。

「良いんすかね、生徒と教師がああいう感じになっちゃて」

「うん、別に良いよ」

ぬらりひょんはあつさり別に良いと言っ。

「良いのかよ！！！！」

「だってこの学園カオスじゃし、こうした方がもっとカオスじゃろ
？」

「はあ・・・」

銀八はため息をついた。

第4話 『ヤンデレというのは怖いもの』（後書き）

銀八

「取り合えず、忘れてるかもしれないんで質問コーナーは受け付け中です。マイナーな質問は除きます。」

ライハ

「ちょっと、セイナのキャラぶっ壊れてるんだけど」

龍夜

「ゼロSTSで零夜とくつついたからな。こっちでもくつつきたいんだろ。」

当麻

「イメージの中だけだとフェイトもヤンデレ(?)になってキャラ崩壊してねえかあれ？」

光

「作者もあいうフェイトもありかな?って・・・」

銀八

「まあ、次回は街で鬼ごっこしちゃいます」

第5話 『これもある意味リアルな鬼ごっこかもしれない』 (前書き)

今回長い、かもしれない。

第5話 『これもある意味リアルな鬼ごっこかもしれない』

土曜日

街では作者権限によりK組、V組以外の生徒、そして教師達がある場所に集められていた。

「えー、それではルールを説明する」

ぬらりひょんがルールを説明しだす。

ルールはこういうものだ。

鬼役は教師全員。

逃げる役はV組、K組。

鬼に捕まった人はその人も鬼の役となり、逃げる役の人を捕まえる。捕まえる為ならどんな方法を使っても構わない。

制限時間は3時間。

生き残った者には優勝賞品があるという。

「理事長!!」

カズキが手を挙げる。

「優勝賞品ってなんですか？」

「ハワイ旅行」

それを聞いた生徒達は燃える。

「理事長!!」

今度は沖田が手を挙げた。

「土方をぶつ殺すのはありますか？」

「理事長、こいついますぐ斬って良いですか？」

上から順に沖田と土方。

「まあ、取り合えず、始めるぞ。教師共は生徒達が逃げるまで一分間動くな。それじゃ・・・始め!!」

ぬらりひよんの合図で鬼ごっこが開始され、生徒達が逃げる。

「ん？」

そこで明がある事に気付く。

「アンタ等いかないのか？」

沖田と沙都子は逃げなかった。

「いやあ、ワザと序盤から捕まって土方を無き者にしようと思いやして」

「皆さんをわたくしの罠にかけようと思ひまして・・・」

「ああ、そう・・・」

沖田と沙都子はどうやらハワイよりそっちの方が良いらしい。

*

あるビルの屋上で・・・。

街中に設置された監視カメラを使い、鬼ごっこの様子を美琴とガルナ、ゴークイジャーのアイムが見ていた。

「ねえ、何で私達は此処なの？」

「実況とツツコミと解説役らしいです美琴さん」

「いや、ツツコミ役って何！！？」

と美琴。

「私が実況で」

「わたくしが解説」

「で、美琴がツツコミ役」

「何なのその役割！！？」

「取り合えず様子を見るぞ」

「ええ」

ガルナ、美琴、アイムは監視カメラで鬼ごっこの様子を見ていた。

*

その頃。

「ほら、捕まえた」

教師の一人のデカマスターのドギーがV組の生徒の一人のゴーカイレッドのマーベラスを捕まえて手に手錠していた。

「おいしいいい！！ 犬！！ このネタ次回のゴーカイジャーのだろ！！」

「これでお前は鬼だからな」

ドギーはマーベラスに手錠したまま何処かへ行ってしまった。

「おいしいいい！！！！！！ 手錠外せこのワンコおおおお！！！！！！」

するとそこへ序盤から土方を抹殺する為にワザと鬼になった沖田が通りかかった。

「あ、沖田！！ これ外すの手伝ってくれねえか！！？」

「・・・」

マーベラスは何か嫌な予感がした。

そしてその予感が的中したのだ。

マーベラスの両足にも手錠がかけられた。

「おいしい！！！！ 何してんだああああ！！！！？ なんで足に手錠かけんだよ！！ つうか何でお前手錠持ってた！！！！？」

「海賊容疑で逮捕」

沖田はそれだけ言っと走り去った。

「別に此処じゃ海賊やってねえぞ！！ 海賊戦隊はやってるけど！！」

*

ビルの屋上。

「マーベラスさん早速捕まってますね」

「ていうかいたんだドギーさん」

「しかもマーベラス手にも足にも手錠されたまま放置された」

上から順にアイム、美琴、ガルナが喋る。

「そう言えばアイムもV組じゃなかった？」

「わたくしは参加せず此処にと・・・」

「ふうん」

*

「零夜く、捕まってくださいよー！！！！！」

セイナがブラストファイヤーを零夜に放ちまくって零夜を追いかけていた。

「だったら砲撃を撃つなあああああ！！！！！！！」

しかしセイナは何故か撃つのを辞めず、とうとう零夜に直撃してしまった。

「ぎゃああああ！！！！！！？」

倒れこんだ零夜にセイナは抱きつく。

「零夜／＼／＼捕まえました／＼／＼」

「きゅう・・・」

零夜は目を廻していた。

別の場所では・・・。

光とフェイトは一緒に逃げていたのだが泥団子が上空から幾つも振って来たのだ。

「えええええ！！！！！！？」

光は驚きながらもフェイトを抱えて高くジャンプし、回避した。

ただ、光とフェイトの近くを走っていた圭一には泥団子が幾つも直

撃していた。

「ぎゃあああ！……！！？」

「おーっほっほっほ！！ 見ましたかわたくしのトラップを！！」

そこへ沙都子が現れた。

「沙都子！！ またお前の仕業か！！ 一体何処から飛んでくるだこの泥団子！！？」

「圭一さん、それは秘密ですわ。 ていうかまた光さんには当たりませんでしたの！！ 悔しい！！」

「つつか沙都子、お前鬼なの？」

「そうですわ」

「チツ！！」

圭一はすぐさま逃げだそうとするが……足に何かを引っ掛け転んでしまう。

「はい捕まえました」

沙都子は圭一を捕まえた。

「響鬼なんですから鬼の役びつたりじゃありませんか」

「まあ、そうかもしれないけどさ……」

サイトの方では……。

「待ちたまえ！！」

「あ、お前……」

サイトとルイズは一緒に鬼から逃げていたのだが、途中目の前に薔薇を加えたキザな少年ギーシュが現れた。

「あれ？ ギーシュお前K組にもV組にもいなかった様な・・・」
「まさか・・・」

此処でルイズがある事を思った。

「フフ、そう、僕は教師だ!!」
「んな訳あるかああああ!!!!!!」

サイトは何処からかザンバットソードを出し、ザンバットソードを握り、ガンダールヴの力で高速で動きギーシュを思いっきり殴り飛ばした。

「ぎゃああああ!!!!!!?」
「まったく、油断も隙もねえ」
「行きましょサイト」
「ああ」

別の場所では・・・

ラン、なのは、アंक、新八、土方が逃げていたのだが・・・。

「ふう、何だね君達は？ そうか、私を手に取り勇者になろうとする若者達だな？」

五人の目の前には「ソウルイーター」のエクスカリバーがいた。

（（（何こいつウザッ!!!!）））

ラン、新八、土方は同じ事を同時に思った。

一応エクスカリバーも教師の一人なのだが、授業を受けた者は誰一人いない。

「おい！！ そのヘンテコ！！ 邪魔だから「バカめ！！」あ？」

アंकが喋ってる途中で杖をアंकに向けるエクスカリバー。

「良いか？ 私の武勇伝を聞かせてやろう」

「まず杖を向けんな！！」

アंकは杖を退かすがすぐ戻って来た。

「バカめ！！ 人の話を最後まで聞かんか！！」

「「テメーは聞いて無いだろうが！！」」

ランとアंकが同時に言う。

「私の伝説は12世紀から始まった・・・」

そんな事は無視して話を進めるエクスカリバー。

「もう無視して行こうよ」

「そうだな、なのは言う通りだ」

一同はエクスカリバーを無視して他の鬼達から逃げる事にした。

「む、何処へ行く？ 私の話は終わっていないぞ！！」

「ウゼーから黙れ!!」

*

美琴達がいる屋上。

「今思っただけどさ」

「はい？」

「ん？」

「ウチの学園ってロクな教師いない!!?」

と美琴。

「確かに」

だがガルナはある事を思い出す。

「だが、石黒先生は別に大丈夫じゃないか？」

「教室で普通に生徒のみんなとおでんよく食べてますよ?」

「エクスカリバーとかよりマシ」

「木野先生が一番まともだな」

*

光はフェイトを抱えた状態で相変わらず沙都子の仕掛けたトラップを次々避けていた。

ランの方では・・・。

鬼になった零夜と実際に鬼かもしれないセイナがラン達の前に現れた。

「零夜」

「セイナ」

零夜はダークアイを出し、目に付けてダークゼロに変身した。

「シュア!!」

ランもウルトラゼロアイをブレスレットから出し、目に付ける。

「デュワッ!!」

ランはウルトラマンゼロに変身した。

「デュア!!」

「シュア!!」

ゼロとダークゼロが激しく戦闘を開始した。

因みに二人とも等身大。

「私も、レイジングハートエクセリオン！！ セーットアープ！！！」

なのははバリアジャケットを着て、レイジングハートを構える。

セイナもルシフェリオンを構える。

そしてなのはVSセイナ、ゼロVSダークゼロの戦いが始まった。

「おい！！ なんか別の小説になってねえか！！？」

「これギャグだから！！ 真面目なバトルとか無いから！！」

上から順にアंकと新八が叫ぶ。

すると・・・。

「くたばりな、土方！！」

背後に沖田が現れバズーカで土方を撃つたのだ。

「うおおおおお！！！！！！？」

土方は何とか避けたが衝撃で新八とアंकも吹き飛び、そのせいでアंकはクジャクコアメダルとコンドルコアメダルを一枚ずつ落としてしまった。

「ああ！！ 俺のコアー！！！！」

「あ、ラッキー♪ アंकのコアメダル見つけ♪」

そこへ別に教師でも生徒でも無いのに何故か此処へやって来れた力ザリがアंकのコアメダルを持って逃走した。

「俺のコアアアアアアア！！！！！！！！！！」

アंकは血の涙を流して腕を伸ばした。

すぐに追おうとするが先程のダメージで中々動けない。

「おいおい！！！！！！ ちょ、大丈夫なのアंकさん！！？」

「俺はアंकだダメガネええええええ！！！！！！！！！！」

それからゼロvsダークゼロ、なのはvsセイナは引き分けの結果で終わり、他にも生徒達がどんどん教師に捕まり鬼の役になっていった。

そして残ったのは・・・。

「追い詰めたぜ光！！」

「マーベラスさん」

通りかかったジョーにゴークサイベルで手錠を斬って貰い、解放されたマーベラスが未だにフェイトを抱きかかえている光を追いかけていた。

そして現在いる場所はかなり狭い所で逃げ場が無い。

「ふう、仕方ないですね」

光はフェイトを降ろす。

「中学の時から付き合いだからって手は抜かないぜ！！ 豪快チ
エンジ！！」

マーベラスはモバイレーツを取り出し、レンジャーキーを差し込み
ゴーカイレッドに変身した。

『ゴーカイジャー！！』

「ゴーカイレッド！！」

光はディケイドライバーを腰に装着し、カードを装填する。

「ふう、変身！！」

『カメンライド・ディケイド！！』

光はディケイドに変身した。

ゴーカイレッドはゴーカイサーベルとゴーカイガンを構えてディケ
イドに向かつて行くがディケイドは素早く交わり、親指を立てて、
ゴーカイレッドの首筋に当てる。

「笑いのツボ！！」

「ブハハハハ！！！！？ テメーそれなに！！？ フハハハ！！！」

「何でそれ使える！！？ ダハハハ！！！！」

「夏美さんから習いました」

今さらだが、ぬらりひょんはこれには参加していなかった。

美琴達とは別の所から監視カメラで様子を見ていたのだ。

それから・・・。

優勝者の発表となった。

「えー、優勝者は・・・風上光くとフェイト・テストロッサちゃんじゃ」

光とフェイトが優勝した。

「やったね、光!!」

「うん!!」

「後もう一人」

『え?』

「えーっと、ジミー?」

「山崎です!!」

『ってオメーかよおおおお!!!!!!!!?』

その場にいた山崎以外の全員が山崎に向かって叫んだ。

*

教えて!銀八先生!!

銀八

「はい、じゃあやって参りました質問コーナー」

エクスカリバー

「アシスタントは私がやるう、有り難く思いたまえ」

銀八

「ウツゼー！！！！　じゃあ最初のtokkiiさんからの質問

？当麻、美琴以外のあるメンバーは出ますか？　例えば一方通行

とか打ち止めとか青ピとか土御門とか

？この小説ではイベントとかバトル大会はありますか？

？クラスの名簿を教えてください

ずばりお答えします、まず？の答えですが・・・美琴と当麻以外にも出すつもりです」

エクスカリバー

「2はどうなのかね？」

銀八

「ウゼーから黙ってる。んで、？は・・・イベントみたいなのは今回の様な話です。バトルはあってもバトル大会はやりません。　つってもバトルあっても描写ありません。　ゼロ達が戦ったのが例です」

エクスカリバー

「？は私が答えてしんぜよう。下に書いてある通りだ」

K組

担任

坂田銀八

生徒名簿

風上光

フェイト・テストロッサ

諸星ラン

高町なのは

秋山カズキ

八神はやて

剣崎一真

火野エイジ

アंक

平賀サイト

上条当麻

前原圭一

古出梨花

衛宮士郎

セイバー

神楽

土方十四郎

沖田総悟

志村新八

志村妙

近藤勲

ルイズ

桂小太郎

枢木スザク

ルルーシュ・ランペルージ

諸星零夜

エクスカリバー

「以上だ、よく解ったかな？」

因みにV組以外は新しく考え中だ。

出来たら教えよう」

銀八

「ホントツラ並にウゼーから黙っててくれねえかなお前？ 次力オスさんからの質問

？SSCって何の略ですか？

？石黒明、坂田銀八、風上龍夜、千動ミガトの担当教科はなんですか？」

？K組とV組のメンバーを教えてください」

エクスカリバー

「うぬ、SSCは『スーパーカオス』という意味なのだがもしかしたら間違ってるかもしれん」

銀八

「オメーが答えるのかよ！！ では、？は・・・俺は国語です。

因みに石黒先生は松平のつつあんと同じで体育教師。 龍夜先生は俺と同じで国語、そしてミガト先生が数学です」

エクスカリバー

「次の質問は・・・tokkiiさんの？の質問の回答にK組は書かれている」

銀八

「V組は以下の通り」

V組

担任

石黒明

生徒名簿

李ツバサ

高町ヴィヴィオ

アインハルト・ストラトス

紅光牙

カツミ・ストラトス

リオ

コロナ

マーベラス

ジョー

ドン

アイム

キット・テイラー

レン

ケイス

プライス

ハント

チャンス

門矢士

小野寺ユウスケ

光夏美

山崎退

エクスカリバー

「うむ、幾つかドラゴンナイトのキャラがいるな。
かれて無い者もいるが?」

所で名字が書

銀八

「作者がまだ覚えてねえらしい」

エクスカリバー

「まあ、今回は此処までだ、シークーアゲイン♪」

銀八

「ウツゼー!!!!!!!!!!」

第5話 『これもある意味リアルな鬼ごっこかもしれない』（後書き）

マーベラス

「何だ俺の扱いは？」

ジョー

「こういう扱いは今回だから我慢しろ。」

マーベラス

「チイ・・・」

アイム

「それにしてもマーベラスさんと光さんって中学からの付き合いなんですね」

マーベラス

「ああ、それでフェイトは中2の時からな」

因みにカツミはアインハルトの弟という設定です。

第6話 『七不思議の真相って結構バカな理由だったりする』（前書き）

さて、今回は龍の骨さんのたけしと爆発王さんの進鶴、ハスナというキャラが登場します。

後バカップル描写今回は結構あります。

第6話 『七不思議の真相って結構バカな理由だったりする』

SC学園校門前。

そこには地味眼鏡の新八がいた。

「おいしい！！！！ 地味眼鏡ってなんだ！！？」
「何してんだ？」

そこへ3年R組の左翔太郎とその相棒フィリップがやって来た。

「あ、翔太郎さん達。 実は忘れ物をしちゃって・・・翔太郎さん達は？」

「いや実はさ・・・フィリップが・・・」
「翔太郎行くよ！！」

フィリップは校門をよじ登って学校に侵入しようとした。

「何してんだフィリップうつうつ！！！！？」

その時。

「コラ」

マーベラスがゴーカイガンでフィリップの頭に思いっきり投げつけた。

「うおっ！！！！？」

そのせいでフィリップは落ち、倒れこむ。

「アイタタタ・・・」

「大丈夫かフィリップ！！？」

「ああ、大丈夫だ」

そこへマーベラスがやって来る。

「全く、夜の学校何怪しい行動をしてんだ？」

「「海賊に言われたくねえ！！」」

新八と翔太郎が同時にツツコム。

「ふう、良いよ翔太郎、僕は平気だし」

フィリップは立ち上がり、翔太郎と新八はフィリップの顔を見ると・
・・。

『ドクドクドク・・・』とフィリップは頭から血を流していた。

「「大丈夫じゃねえええええ！！！！！！！！」」

翔太郎と新八がまたも同時にツツコム。

「ちょ、おま、マーベラス！！ お前どんだけゴークイガン強く投げたんだよ！！？」

「いやいやいや！！ 知らねえよ！！ 光じゃねえんだからそこまですべて普通怪我しないだろ！！？」

すると・・・。

「どうかしました?」

木野がやって来た。

「木野先生フィリップが!」

「あ、解りました!」

木野はフィリップの傷の手当てをした。

「ふう、有難うございます木野先生。さあ、翔太郎、行くよ」

「そう言えば翔太郎さん達は何しに学校へ?」

「ああ、何でもこの学園の七不思議にフィリップが興味を持ちま
つてなあ」

新八の問いに翔太郎が答える。

「七不思議?」

「ああ、どうもその真相を知りたいらしい」

「フィリップさんらしい」

「そう言えばマーベラスさんと眼鏡・・・新八くんは?」

「木野先生、今眼鏡って言いましたよね? 眼鏡って言いましたよ
ね?」

そんな新八は無視しマーベラスが答える。

「実は俺はレンジャーキーとモバイレッツを忘れて、ゴーカイガン
だけしか持って帰らなかつたんだよ」

「おい!! なんてよりによってゴーカイジャーの変身アイテムで
一番大事な物忘れてんだよ!!?」

「まあ、私もついて行きますか」

一同は学園の中へ入った。

その時、突然爆発音が運動場から聞こえた。

一同は何事かと思ひ音の聞こえた方に走って行くとそこには……。

「破邪、百獣剣!!」

一人の男性、今回のゲストの一人天王寺 進鶴と光が戦っていた。

そしてその進鶴が百獣剣で光に斬りかかったが光は交わした。

「なんで今回のゲストと戦ってんの!!?」

「大方、光はシグナムやフェイトと同じでバトルマニア的一面があるから、今回のゲストがチートと聞いて戦いたくなったんじゃねえか?」

上から順に新八、翔太郎、マーベラスが喋る。

マーベラスは光とは中学からの突き合いな為か、光の事をよく解っている様な感じだった。

「あいつとよく吊るんでたからな、だから大体解る……ん?」

マーベラスは自分達から少し離れた場所にフェイトとその隣にもう一人女性がいる事に気付く。

「進鶴さん頑張ってください」

「光頑張つてゝ!!」

フェイトの隣にいるのは進鵜と恋仲でもう一人のゲスト、ハスナ・ソウ・エディカシヤである。

「おー、凄いな」

さらに何時の間にかマーベラス達の近くにいた少年、最後のゲスト、竜崎たけしが言う。

「誰だお前？」

マーベラスが問うがたけしは光と進鵜との戦いに目を向ける。

「デীবাসーカ!!」

進鵜は今度はデীবাসーカを構え、光に放ち、直撃したが……。

「イテテ……」

光に少しタンコブが一個出来ただけであつた。

「あれでタンコブ一個おお!!!!?」

翔太郎と新八は驚き、フィリップは……。

「興味深い!! 是非彼等の身体の構造を……」

「何恐ろしい事言つてんだこの検索バカアアアア!!!!!!」

「あ、木野さんに翔太郎さんにフィリップさんにマーベラスさんだ
ああああ!!!!!!」

ハスナは翔太郎達に気付き駆け寄る。

「あの、私あなた達のファンなんです！！ サイン下さい！！」

「あ、ああ、良いぜ」

「私も良いですよ」

ハスナは特撮が大好きな為、マーベラス達特撮組からサインを貰った。

それから光と進鵜の激戦は終了し、たけしや進鵜にハスナ、光フェイを連れて校舎に入って行った。

「あー、楽しかった」

光は何かすっきりした顔をしていた。

「それで、七不思議探しに行くんだろ？ ついでに忘れ物」

とたけし。

「なんで忘れ物がついでになってるの？ 当初は忘れ物が目的だったんだからね？」

新八が言う。

まあ、新八やマーベラスの忘れ物がある場所も七不思議の一つに出てくる場所な訳でどの道行かなくてはいけない訳である。

「まずは職員室ですね」

「なんで木野先生も？」

「生徒の安全の為です」

「そう言えば、職員室の七不思議ってなんだ？」

たけしがそれを言い、フィリップが説明する。

「何でも男と女の声が合わさった様な、うめき声が聞こえるらしい」
「全く、幽霊なんていてたまるか」

翔太郎が言っが、若干手が震えてる。

「手が震えてるぞ？」

進鵜が翔太郎に言っ。

「ば、バカ言っな、怖くねえよ」

そして一同は職員室の前に到着した。

『んっ・・・うっっ！！』

『ぐっっ！！』

確かにうめき声（？）らしき声が聞こえる。

「光、なんか怖くなってきた」

フェイトが光にしがみつく。

「大丈夫大丈夫、僕、前に陰陽師のバイトやった事あるし」

「お前ホント何者だよ！！？」　　つつか陰陽師にバイトとかあんの！

「いや、だからってこんな所ですんなあああああ！！！！！！！」

翔太郎の叫びが響いた。

そして一同はセイナと零夜は放っておく事にし、移動を開始しようとした時……。

『それじゃ、邪魔者もいなくなりましたしそろそろお楽しみと行き
ますか／＼／＼』

『え？ ちよつと……何を……』

というセイナと零夜の声が聞こえた。

『あいつ等何しようとしてんだああああ！！！！！！？』

その場にいた殆どの人間が心の中で叫ぶ。

「おい、あいつ等この小説18禁にするつもりじゃねえだろうな！
！」

たけしが言い、翔太郎が……。

「お、落ちつけ、こういう時こそハードボイルドに……まずはタ
イムマシンを探せ！！」

そう言う翔太郎は職員室の前の近くにあった自販機のカン等が出て
くる所に頭を突っ込んでいた。

「お前が一番落ちつけええええええええええ！！！！！！！！！！」

新八が翔太郎にツツコム。

『んあっ／＼／＼くうっ！！／＼／／』
『ううっ／＼／＼んあっ／＼／／』

職員室。

「ちょっとちょっと！！ 本当に大丈夫なの！！！！？」

ハスナもあわて始め・・・。

「うん、終わったなこの小説」

進鵜は至って冷静だった。

「アンタも少しは慌てろ！！！！」

「ああ、じれったい！！」

マーベラスは職員室の扉を開いた。

皆の「まだ開けるなあああ！！！！」という声を見無視して。

「ブラストファイヤー！！！！」

「え？ ギャアアアア！！！！！！？」

「マーベラスさん！！」

マーベラスにセイナの放ったブラストファイヤーが直撃し、マーベラスは吹き飛んだ。

木野はすぐにマーベラスに駆け寄る。

「大丈夫ですかマーベラスくん？」
「な、なんとか・・・」

セイナは不機嫌な顔でこう言った。

「全く、邪魔しないでくださいよ」

見た所、セイナも零夜も普通の格好、そしてセイナは零夜に向き直り、また零夜にキスする。

今度は大人のキスで。

「んむっ／／／／あんっ／／／／」
「んうっ／／／むぐっ／／／／」
「・・・」

それを見ていた光とフェイトも互いを見て熱い口づけを交わす。

「んんっ／／／／」
「ひか・・・んっ／／／りっんっ／／／／」
「何でアンタ等までしてんだ！！！！？」
「ついっられて・・・んんっ／／／／」
「えへへ、光、んっ／／／／」

それからしばらくしてキスをし終えたセイナに何をしていたのかと光が聞くと・・・。

「普通のキスからディープキスにただけです」
「紛らわしいわ！！　ゼッテー危ない事だけは済んじゃねえぞ！！

！」

上から順にセイナと翔太郎。

「解ってますよ、流石に零夜にだってそれは早すぎる気がしますし」

そこで新八が・・・。

「もう良いから行きましようよ、ホント危ない話してますからね僕等」

次は教室、新八の忘れ物が置いてある場所である。

「そういや、眼鏡は何忘れたんだ？」

「いや、たけしくん、僕新八だから、眼鏡じゃないから。お通ち
やんのCDを忘れちゃって・・・」

「あつそ」

そこでフィリップが次の怪談の説明を始める。

「次は志村新八や風上光にフェイト・テストロッサのクラスのK組
から聞こえるラップ音らしい」

「ラップ音ですか」

そしてK組に近づくと音が聞こえてきた。

K組に一同は到着し、扉を開けるとそこには・・・。

「んふんふつ、お妙さーん!!」

近藤が妙の席の椅子に頼ずりをしていた。

「何してるんですか近藤くん？」

「あ、木野先生に皆までどうして此处に！！？」

「それはこっちの台詞です、女の子の席の椅子に頼ずりつてあなたの青春それで良いんですか？」

近藤と木野が話してる最中、何とか復活したマーベラスはたけしにある事を言っていた。

「今の内にお前の力を見せておけ、そんなもって今の内にあのゴリラ攻撃する準備しとけ」

「ああ、解った」

そして近藤の台詞に戻り・・・。

「違うんです先生！！ 俺、将来、椅子職人になりたくてそれで材質チエツクを・・・」

完全に嘘である、そしてみんなそれを知っている。

「「変身！！」」

『サイクロンジョーカー！！』

『エクストリーム！！』

「あれ？ ちょっと、何でそこの二人変身してんの？」

「豪快チエンジ」

『ゴーカイジャー！！』

「え、何でお前まで・・・」

「モビルアームズ、発動！！ 超力タケシ！！ オーレ！！」

「何そのオーレンジャーロボに似た格好？」

そしてそれぞれ必殺技を発動するW達。

『エクストリーム！！ マキシマムドライブ！！』

『ファイナルウエーイブ！！』

『ダブルエクストリーム！！！！』

『クラウンファイナルクラッシュ！！！！』

『紛らわしいんじゃないああああ！！！！！！』

『ぎゃあああああ！！！！！！！！？』

W達の技を喰らい近藤は窓を突き破って星になった。

「バカも片付けたし、次行くか」

「進夜さん、やりました！！ Wとゴークイレッドの生変身と必殺技見れましたよ！！」

「良かったなハスナ」

「うん！！」

そして新八とマーベラスは忘れ物を取り、一同は次の目的の場所へ向かった。

しかし、どれもこれも七不思議の真相とはバカなものばかり。

まず、『音楽室から聞こえる不気味な歌声』というのは……。

「エックスカリバー ♪ エックスカリバー ♪」

エクスカリバーがただ熱唱しているだけであつたり。

「ウゼーから人の来ない所で歌え！！ そして二度と俺達の前に現

れんな!!」

と翔太郎。

次に家庭科室では魔術師が夜な夜な毒薬を調合する魔術師というのはシャマルがそこで料理を作って橘に食べさせていたり。

「家でやれよ」

新八は冷やかなツツコミをし、次の場所へ向かう。

『体育館に潜む殺人鬼』というのはただ単に生徒の二人、「フェイトステイナイト」のランサーとアーチャーが何故か戦っているだけだったり。

「何で学校ですんだよ? 聖杯戦争無いだろこの世界」

これを言ったのはたけし。

『飼育小屋に現れる巨大生物』というのは・・・「フェイトステイナイト」のバーサーカーと「銀魂」のヘドロだったり。

「いや確かに巨大だけどさ!!」

あまりにも恐ろしい光景な為、殆どのメンバーがこれにはかなりビビった。

「いやあ、最近ウサギの一匹が具合が悪くて、ほら、ウサギは寂しいと死ぬって言うでしょう?」

「うん、そうだね、でも俺達は食べないでね」

上から順にヘドロとマーベラス。

因みにフェイトは腰を抜かしてしまい、光にお姫様抱っこされる形で次の場所へ。

「／／／（ちょっと感謝かなあの二人に）」

とフェイトは思っていた。

（ああ、何かああいうの懂れるかも）

とハスナは思っていた。

そして最後の『深夜に学校の屋上に訪れる男子生徒の亡霊』というのは……。

「く、来るな！！ 来たら落ちるぞ！！」

一人の男子生徒が屋上から落ちようとしていた。

「おい、何してんだ！！？」

たけしが声をかけるが……。

「うるさい！！ 僕は本気だ！！」

「落ちたらいてーぞ」

マーベラスが言うが男子生徒は「うるさい」と答えた。

「バカな真似は辞めてください」

木野も説得しようとするが・・・。

「黙れ！！ 僕は死ぬんだ！！」

「なんで？」

「え？」

男子生徒はマーベラスの突然の質問に戸惑う。

「一応理由聞いておこうか」

「僕は・・・」

男子生徒が理由を言おうとした時・・・。

「話長えよ！！！！！！」

と言って何時の間にか男子生徒の傍までやって来たマーベラスは男子生徒を殴った。

『ええええええ！！！！！！！！！！？』

因みに男子生徒の服をマーベラスが掴んでいた為落ちる事は無かった。

マーベラスは男子生徒をすぐさま安全な場所まで無理やり連れて行く。

「どれだけ長々しく話してんだ！！ お前は校長か！！！！」

「まだ話して無いんだけど！！！！？」

「何があつたか知らねえがな、親から貰った命、無駄にしてんじやねえよ。お前、漫画とかおもしれーと思うか？」

「ま、まあ」

「じゃあよ、おもしれーと感じてる内は少なくとも死なねえ方がいいんじゃないか？ 人生の先なんざ誰にも解らねえ、だから、この先もつとおもしれーことがあるかもしれないねえだろ？ 悩みがありや俺が聞いてやる、力になってやるよ」

「あ・・・」

男子生徒は膝を突く。

「僕、死ねなかった、毎晩毎晩此处に来て、死のうと思ったけど死ねなかった、怖くて・・・」

そこで光が・・・。

「それで良いんだよ。死なんて怖いものだ。それを恐れるのは普通の事だよ、マーベラスさんの言う様にこれからもっと面白い事があるかもしれない、それを見ようよ」

「はい・・・」

そして七不思議ツアーが終わり、各自家へと帰り翌日。

K組

「という訳で、今日から転校してきたハスナ・ソウ・エディカシヤです！！」

「天王寺進鵜です」

「「よろしく願います！！」」

「あ、昨日の人達だよ光」

「うん、転校生だったんだ」

*

教えて！銀八先生！！

銀八

「はい、じゃあ質問コーナーです」

マーベラス

「アシスタントは俺がやるぜ」

銀八

「tokkiiさんからの質問。

？学園には生徒会がありますか？ あつたらメンバーを教えてください
さい」

？学園の生徒で総合成績は誰が一番ですか？

ズバリお答えします。 生徒会は一応あります。 ですが生徒会長
以外メンバーは決まってません」

マーベラス

「生徒会長って確か胸がペツタンコ・・・」

その時、マーベラスの頭に木刀の様な物が突き刺さった。

マーベラス

「ギャアアアア！！！！！！！？」

銀八

「マーベラス！！？」

ヒナギク

「あゝ、すみません手を滑らせてしまいましたゝ」

そこへ生徒会長の桂ヒナギクが現れ、ヒナギクはは木刀の様な物、正宗を倒れこんでるマーベラスの頭から引っこ抜く。

その際マーベラスの身体がビクツと震えた。

ヒナギク

「では失礼しましたゝ」

ヒナギクはそのまま立ち去った。

銀八

「うおゝい、大丈夫か？」

マーベラス

「あ、ああ、大丈夫だ」

銀八

「大丈夫じゃねえだろ、頭から血い出てるぞ、木野先生いませんか
！！！！！！」

木野

「はい」

銀八

「怪我人いるんで手当てをお願いします」

木野

「解りました」

木野はマーベラスに手当てをした後保健室に帰って行った。

銀八

「で、？ですが・・・作者も解りません」

マーベラス

「解んねえのかよ!!」

銀八

「だってルルーシュにヒナギクとかいたら誰が一番なんか解んねえよ。因みに一番下はゴリラと体力バカです」

マーベラス

「まあ、あいつ等ならそうなるだろうな」

銀八

「はい、次い、矢部野 和麻呂さんからの質問。教師は一体何人いて誰がいるんですか？

お答えします。 正確な数は解りませんがAからZまでクラスあり、1から3まで学年がある為副担任を含めると恐らく100以上は行くと思います」

マーベラス

「おい、どんだけ教師いんだよ？」

銀八

「だから解らねえって・・・で、教師が誰がいるだが今の所解ってんのは俺を含めて、龍夜先生、ミガト先生、ライ・・・アホの子、ネーナ先生、セイ・・・ヤンデレ先生、ぬらりひょん理事長、鴻上校長、ドギー先生、石黒先生、ウザいの、くれえかな」

マーベラス

「オイイイイ！！！！　なんか変なの幾つかあるぞ！！」

ライハ

「アホじゃないもん！！」

ライハは涙目で龍夜に抱きつく。

龍夜

（可愛いですライハ！！！！！！／／／／／／）

銀八

「どっから湧いて出た？」

龍夜

「気にせんでください」

龍夜はライハを抱きしめたまま去って行つた。

マーベラス

「後なんだヤンデレ先生って！！？　セイナ先生の事か！！？」

銀八

「そいつしかいねえだろ」

マーベラス

「後、ウザいのって何だ？」

銀八

「エクスカリバー」

エクスカリバー

「エクスカリバ〜♪ エクスカリバ〜♪」

銀八・マーベラス

「「ウツゼー！！！！！！！！」」

マーベラス

「そっぴゃあギ〜シュいたんじゃねえか？」

銀八

「あれはあいつが勝手に言っただけだ。
まででーす！！」

と言っ訳で今回は此処

第6話 『七不思議の真相って結構バカな理由だったりする』（後書き）

マーベラス

「俺の扱い酷くないか？」

ジョー

「前回の様な扱いはやっぱりこれからも続くらしい、キーワードに「不幸なマーベラス」と書かれているからな」

ドン

「いじりやすいんだろねマーベラスは」

因みに光が何者なのか作者自身も解りません。

第7話 『願い事したかったらまず努力をしろ』

ある日の学園のある場所。

「お姉様ー！！！！」

黒子が当麻と一緒にいた美琴に抱きつくこうとしてきた。

「てい！！」

「ぐふっ！！？」

しかし黒子は美琴の廻し蹴りでぶっ飛ばされた。

「お、おい、大丈夫なのかあいつ？」

「大丈夫よ、あんなのでへこたれる子じゃないわ」

「酷いですわお姉様！！ あ夜の出来事はなんだったんですか！！？」

その黒子の台詞に首を傾げる美琴。

同時に美琴はなにか嫌な予感がした。

「あの夜ってなによ？」

美琴が細目で黒子を見ながら尋ねると黒子は少し顔を赤らめ…。

「では回想シーンをどうぞご覧くださいませ」

黒子はカメラ目線になりそう言った。

「いや、カメラとかねえから!!　　つつか誰に言ってるの!!?」

*

回想…。

ある日の夜…美琴と黒子は誰もいない部屋に二人きりであり、美琴は黒子をベッドに押し倒す。

「あ、駄目ですわお姉様…／／／／」

「良いじゃないの…あんたは私のものなんだから…」

そう言つて黒子に顔を近づける美琴…。

「ああ、お姉様…!!!!!!」

*

「って知るかあああああ！！！！！！　勝手な妄想してんじゃないわよ！！！！！！」

そう言つてコインを美琴は親指で弾き超電磁砲レールガンを黒子に放ち黒子は黒子焦げになつて吹き飛ぶ。

「ギヤアアア！！！！！！？」

「なに勝手な妄想を記憶の一部にしてんの！！？　第一、当麻がいるのにそんな事…／／／／」

美琴は少し顔を伏せてそう呟いた。

それが聞こえた当麻は少し顔を赤くしていた。

「／／／」

『ピキッ』

「お姉様に近づくなこの野郎おおおお！！！！！！！！！！」

黒子は持っていたナイフで当麻に投げだす。

「ぎゃあああああ！！！！！！！！？　不幸だあああ！！！！！！」

そこへガルナが偶然通りかかる。

「当麻ー！！　クロックアップして逃げろー！！！！！！！！」

それを銀八と新八が見ており、銀八が一言。

「いつも通りだな」

「これ何時も通りなの！！？」

新八がツツコム。

だが数日後…。

「虎聖杯？」

食堂で黒子とM組の女子生徒のまどかとさやかがなんでも願いが叶うと言う虎聖杯というものについて話していた。

「なんでも願いが叶うんですの？」

黒子がさやかに聞く。

「うん、博物館で展示してあるお宝なんだけどね」

「でも、もう願いとかそういうのは懲り懲りだよね」

まどかが苦笑いしながら言い、さやかも苦笑いする。

「まあ、原作で願いを叶える為に散々な目にあったからね」

するとそこへ白い生物が現れた。

「ねえ、さやかにまどか、いい加減僕と契約して魔法少女になつてよ！ー！」

その生物、キュウベえことインキュベーターはまどかとさやかに言うが…。

「帰れ！ー！」

さやかに頭を掴まれ放り投げられた。

因みにこの世界の「まどか マギカ」のキャラは魔法少女になっていない。

「まあ、それでもあたしは後悔しないけど」

さやかがそう言った時、偶然同じクラスの女子生徒「ほむら」が通りかかった。

「バカの考えね」

とさやかに言った。

「なんだとおー!!!!」

「ふ、二人とも喧嘩は駄目だよ…ってあれ？」

まどかは黒子がいない事に気付いた。

因みに…。

「アイタタ…酷いなあ、さやかは」

そう呟くインキュベーターだが、お前の方が酷いと思う。

「よお」

「ん？」

インキュベーターは誰かに声をかけられ顔を上げるとそこには…。

「ちよいと俺と遊んでくれねえかい？」

ドSスマイルの沖田だった。

数分後…。

「ギャアアアア！！！！？」

誰かの悲鳴が聞こえたとき。

＊

翌日、S組。

「えー、今日は転校生を紹介しま〜す」

相変わらずやる気の無さそうな銀八先生である。

「つつか、また転校生かよ」

なのはにずっと抱きつかれてるランが呟く。

「ラン♪」

「先生！！ 転校生は男子ですか！！？ 女子ですか！！？」

「両方だ」

一人の生徒の問いに答える銀八。

「先生！！ 転校生の女子は可愛いですか！！？」

「先生！！ 銀魂の放送が再開されましね！！」

「『ゼロまど』の続編はなにとクロスさせますか！！？」

「スタドラ終わっちゃいましたね」

なんか途中から全然関係ない事が混じってる気がする。

「うん、途中から全然違う事なってるよな？ その内1つは作者の事情じゃねえか」

取り合えず話が進まないなので転校生が入ってきた。

「始めましてイズミ・シンクです!!」

「始めましてミルヒオーレ・F・ビスコッティと申します」

金髪の少年「シンク」と桃色の髪で頭に犬の耳などがある少女「ミルヒオーレ」通称「ミルヒ」が自己紹介する。

「因みにこのミルヒだけだなあ、ある国のお姫様なんだ」

新八「なんでお姫様なんかがこんな所に?」と思ったが…。

「そこは触れんな、シンクがラッキースケベなのは触れて良いけど」

「ちよっ!! あれは事故です!! 事故!!」

「事故つてお前どんだけあんな事故起こしてんだよ、流石にあそこまで行くと…」

「先生、それにも触れないであげましょう」

光に言われ銀八は黙る。

その後、休み時間。

「ねえ、当麻」

美琴がS組にいる当麻の元に来ていた。

「ん? どうした?」

「今日、黒子見てないんだけど知らない?」

「俺は知らねえけど…」

とその時、S組にあったテレビを生徒の一人がつけると丁度ニュースをやっていた。

『今日のニュース〇？博物館で「虎聖杯」を盗み出すという事件が発生しました。そして犯人の顔なんですが…』

次の映像で黒子が虎聖杯を持ち出しているのが監視カメラに映っている映像が流れた。

「なにしてんだあああああ！！？」

当麻と美琴は当然ながら驚く。

「いや、でもさ虎聖杯なんて盗んでどうすんだ？」

「当麻、アンタ知らない？ 虎聖杯ってどんな願いでも叶うって噂」

「って事は…あいつが願うとしたら…」

「一つしか無いわね…」

次の瞬間、美琴の身体に電撃が走る。

美琴がキレてる証拠だ。

「あいつの事だからただでは見つからない筈よ」

そして黒子の野望を砕く仲間を美琴と当麻は集める。

まあ、ガルナは当然。

他はシンク、光、フェイト、サイト、エイジ、アंक、ミルヒである。

「よし、それで黒子は何処にいるの？」

「ちよっと待ってろ」

アंकが黒子の場所を調べ、そしてあるビルにいる事が確認できた。

「虎聖杯は夜6時に発動するらしい、行くぞ」

一気に飛ばしてそのあるビルに入ると…。

「ゴーカイレッド!!」

「ゴーカイブルー!!」

「ゴーカイエロー!!」

「海賊戦隊!!」

「ゴーカイジャー!!」

「って3人しかいねえじゃねえかあああ!!!!?」

3人しかいないゴーカイジャーに当麻のツツコミが炸裂する。

「おい、アイムとハカセはどうした？」

ゴーカイレッドがイエローとブルーに聞く。

「「さあ?」」

そこで光が手を上げる。

「あの2人なら…」

「よっしゃあ！！ ニキニキのワキワキだあ！！」
「はい師匠！！」

「ゲキレンジャーのゲキレッドのジャンさんの所で修行してます」
「なんだよおい！！ 宇宙最大のお宝より修行が大事なのかあいつ等！！？」

それで何故ゴーカイジャーが此処にいるのかと言うと虎聖杯に願って宇宙最大のお宝を見つける為らしい。

正し黒子の後に使わせて貰える。

「そんな楽しちゃダメだよ」

エイジが言うが…。

「知るか!! お宝の為なら…グフフ…」

「マーベラスさん、なんか悪役っぽくなってます」

光にそう指摘されるマーベラス。

「取り合えず虎聖杯貸して貰う代わりに用心棒にならねえといけねえんだ、そして喰らえナビイショット!!」

『ええ〜!!!!?』

ゴーカイレッドはオウム型のロボット、ナビイを当麻達に投げつける。

「あだツ!!!?」

一同は避けたが当麻の後頭部に当たる。

「当麻になにすんのよ!!」

美琴がナビイを掴みゴーカイレッドに投げつけるがゴーカイレッドはキャッチして投げ返した。

『うわあ〜!!!?』

今度は光の後頭部に直撃する。

「ウギヤア!!!?」

「よくも光を―!!」

フェイトがバルディッシュを構えてゴーカイレッドに向かって行くとした時。

『ピキッ』

「ピキッ？」

ナビィからなんだか黒いオーラが出ていた…。

『ねえ、みんなさ…いい加減にしようよ…』

「な、ナビィ？」

ゴーカイイエローが凄くドスの効いた声にビビりながらナビィを呼ぶ。

『私をさ…そんなボールみたいに使って…少し、頭冷やそうか？』

次の瞬間…。

『ギャアアアアア！！！！？』

複数の人間の悲鳴が聞こえたとか。

「ナビィになのはさんがとり憑いてる…」

エイジが呟いた。

取り合えずなんとか切り抜けてきた当麻、ガルナ、美琴、光、フェイト、エイジ、アंक、シンク、ミルヒ。

「ひ、姫様、大丈夫でした？」

「は、はい、勇者様…」

でも若干ミルヒはまだ震えている。

「流石あのなのと同じ声だ、キレたらこの俺も恐怖を感じる」

とアंक。

美琴に至っては気絶して当麻にお姫様抱っこされてる状態だった。

（上条さん恥ずかしいんですが？／／／）

と思っている当麻。

「う…ん？ なっ！！？／／／」

美琴が目を覚まし今の状況に気付いて赤面する。

そんなこんなで2階では…。

「僕は何処！！？」

アंक（ロスト）がいた。

「お前かいいいい！！！！！！？」

アंकが叫ぶようにツツコム。

「僕は何処僕はどこ僕はどこ…」

「うるせえええ！！！！ つつかウゼー！！ エイジ、あいつ潰せ！

！」

「ええ！！？」

取り合えずエイジとアंकはこの場に残し一同は3階へ。

今度は「スタードライバー」の「ミヤビ・レイジ（本名ツナシ・トキオ）」がいた。

「虎聖杯を使って俺はザメクを復活させて使いタイムトラベラーとなる！！」

そんなレイジの肩を後ろからチョンチョンと誰かが指でし、レイジは振り返ると息子のタクトに顔面を殴られた。

「おぶう！！？」

「いい加減にしろよバカ親父」

タクトはレイジを引きずって去って行った。

「…なに今の？」

取り合えず一同は屋上へ。

*

屋上では、虎聖杯の前に黒子があり、時間を確認していた。

「さて、そろそろですわね…これでお姉様を…グフフ…」

しかし、そんな時扉を蹴破って美琴達が入って来て…。

「くゝろゝこゝ…!!」

「お、お姉様!!?」

黒子一枚のコインを指で弾き「超電磁砲^{レールガン}」を放った。

「ギヤアアア!!?!?!?」

それから虎聖杯は元の博物館に戻され黒子はしばらく牢屋で頭を冷やす事に。

因みに…。

ゴーカイジャーが住まいとしてるゴーカイガレオンでは…。

「おい、お宝探しに行くぞ。 と言う訳で鳥お宝ナビゲー『あ?』
スイマセン、ナビイ様、お宝ナビゲートお願いします」

マーベラスが土下座してナビイに頼んでいた。

『それで良いんだよ』』

()()(ナビイが怖い…!!)()()

他のゴーカイメンバーはしばらくナビイが怖くなったとか。

*

教えて！銀八先生！

銀八

「はい、始めました質問コーナー」

シモン

「アシスタントは俺がやるが・・・質問が1つしかねえからすぐ終わる」

銀八

「tokkiiさんからの質問。

SC学園の生徒、教師でバカップルもしくはバカップル、カップルになる直前のカップルをできるだけ教えて貰えないでしょうか？
ずばりお答えします、バカップル、カップルは下に表示します」

バカップル一覧

光×フェイト

ラン×なのは

カズキ×はやて

零夜×セイナ

龍夜×ライハ

ミガト×ネーナ

光牙×アインハルト

ツバサ×ヴィヴィオ

カップル一覧

当麻×美琴

小狼×桜

シャオラン×サクラ

シモン×ニア

レン×ケイス

ユーノ×知世

シモン

「あれ？ 俺の名前があるしニアの名前があるんだが・・・つつかユーノと知世も付き合ってるのか」

銀八

「だってあいつ此処じゃ生きてるし生徒の一人だもん、カミナも生きてるぞ」

シモン

「マジかああああ！！！！」

銀八

「んで、なりかけは・・・」

キットとスバル

士とティアナ

エリオとキャロ

健とこなた

ユウトとかがみ

銀八

「こんぐらいだな、ほんじゃ今回は此処までだ」

第8話 『コラボキャラが多く出る話』（前書き）

今回登場するコラボキャラ。

コートピアさんの所の「楓」と「終」

ハナトさんの所の「勇樹」と「沙良」と「ゲキリュウ…フアングセイバー」。

????さんの所の「ソラ」「玄野」「ガンツ」

地水さんの所の不幸な「フェイト」
です。

第8話 『コラボキャラが多く出る話』

ある日のこと。

今回は「地水さん」の所の「フェイト」が道を歩いていた時の事。

「この世界の私とその彼氏の光さんを探さないと、折角相談に乗ってくれるって言うてたし」

因みにその頃…。

「やって来ましたね」

「そうだな」

2人の男女、ユートピアさんの所「黒谷終」と「音梨楓」が道を歩いていると…。

偶然5体のグリード達がいるのを目撃する。

『グリード、丁度いいわ…』

「えっ？」

楓は二重人格であり、もう一つの人格「椛」の人格となる。

「グリード達のコアメダルを雀り取ってやるわ!!」

椛は「IS」と呼ばれる「エターナルムーン」を発動し、ゼウスという拳銃型の武器で5体のグリード、アंक、ウヴァ、カザリ、メズール、ガメル達を撃ちまくって襲っていた。

「なんでこんな事に…！！！！？」

「俺のコアは渡さん！！」

上からカザリ、アंक。

「ちょっと風邪気味（カザリの事）」

メズールがカザリを呼ぶ。

「誰が風邪気味だよ！！？」

「黙りなさい、あなたの事は忘れないわ！！」

メズールが水流を放ってカザリはそれに流され椀に差し出された。

「そう、じゃあまずはあなたのコアから頂きましょう…」

「えっ…ギアアアア！！！！！！？」

「風邪気味囃作戦大成功ね」

「大成功」

何故か嬉しそうなメズールとガメル。

「あいつ等絶対『仮面ライダーオーズ』本編の事根に持つてるな…」

「ウヴァ…それは俺も思ったぜ…」

その様子を見ていた終はただ黙ってみてるだけだった。

「あの…助けなくていいんですか？」

フェイトが終に尋ねると…。

「君は俺にあの中に巻き込まれて死ねと？」

すると流れ弾がこちらに向かって来た。

「うわあああ！！！！？」

「うきやあああ！！！！？」

フェイトと終はギリギリ避けられたが突然黒い球がゴロゴロ転がって来てフェイトを跳ね飛ばした。

「キャアアア！！！！？」

「なんだあの球？」

すると黒い球は終に振り返り文字が浮かぶ。

『ガンツと申します』

「「ガンツ！！？」 大丈夫なの出して！！？」」

『まあ、大丈夫だろ。 他の人のキャラだし』

そのまま？？？さんの所のガンツという黒い球は転がりながら何処かへ行った。

その際ガンツがマーベラスを跳ね飛ばしている光景が見えた。

「ギャアア！！！！？」

「ああ、マーベラスさん！！！！？」

一緒にいたアイムとハカセが急いでマーベラスに駆け寄る。

するとガンツに文字が浮かび…。

『海賊なんてやってる暇があるなら真面目に働け』

とガンツからキツイ一言。

「「ひどっ…!!?」」

「こ、この野郎…良い度胸してるじゃねえか、気に入らねえもんはぶっ潰す、それが海賊つてもんだ!! 豪快チェンジ!!」

『ゴーカイジャー!!』

『よし、掛かって来い!!』

「上等だこの野郎!!」

マーベラスとガンツが喧嘩を始め出した。

「ガンツってあんなキャラだっけ？」

「さ、さあどうでしょう？」

すると椀の放った弾丸が偶然通りかかったエイジの持っていたパンツを撃ち抜き、穴が空いた。

『あゝっ…!!』

グリード達はそれがヤバいと感じ、エイジはオースドライダーを腰に装着して紫の3枚のメダルを入れオースキャナーでスキャンする。

「変身…!!」

『プテラ! トリケラ! ティラノ! プットティラーノザウルス!』

エイジは仮面ライダーオーズプットティラノコンボに変身し、斧型の武器メダガブリューを取り出す。

『プットティラーノヒツサーツ!』

「セイヤーツ!!!!!!!!!!」

終やメズールにガメルに椀は避けたがアंक、ウヴァ、カザリ、フエイトがオーズの必殺技に巻き込まれぶっ飛ばされた。

『ウギヤアアア!!!!!!!!!!?』

「ぼ…暴走か…ガクッ」

アंकはその言葉だけを残し気絶した。

そこへ偶然通りかかるハナトさんの所の女性の「犬神沙良」と「日野勇樹」である。

「あ、あれ!!? なんか凄い事になってる…」

「てかオーズの恐竜コンボだろアレ!!? 大丈夫なのか? なんか色々暴走してるみたいけど…」

「よくも俺の明日を!!!!!!!!!!」

オーズは暴れまくって破壊活動をしている。

「あの人の明日って言ったらやっぱ明日のパンツ?」

「だろうね、勇樹、アバレンオーコンボにはバクレンオー&トッブゲイラーコンボだよ、これで無いと多分止められないし」

「いやいや、俺があの人止める事前提!!!!?」

沙良はトウプクス、カスモ、アルバートの3枚のコアメダルを勇樹に渡す。

「理沙から借りてきたのか？ 仕方ねえ」

勇樹はテマリードライバーというオーズタイプのベルトを装着し三枚のメダルを入れる。

「変身！！」

『トウプクス！ カスモ！ アルバート！ トウツスバアアアアッ
ト！！』

勇樹は仮面ライダーテマリートウバートコンボに変身した。

「この状態でも、使えるよなゲキリュウ…フングセイバー？」

『だから名前覚えるよおおお！！！！ 似てるけど覚えよ！！！！？』

ゲキリュウケンに似たフングセイバーを構えるテマリ。

「まだコアを持つてる人が！！」

「いい加減辞めろ！！」

終もすかさず「IS」「ブラックフング」を発動させ楯を止めに入る。

それからハッチャッカメツチャツカな戦いが始まり、それに巻き込まれフェイトとマーベラスが何処かに飛んで行ったとか。

「「ギヤアア！！！！？」」

フェイトはその後もＳＣ学園に向かおうとしたが地面が突然穴が空いて落ちるわ、何故か空からビームサーベルが落ちてくるわ、犬の尻尾を踏んで追いまわされるわで散々な目に会いながらもフェイトはＳＣ学園に到着した。

「はあ、はあ…やつと着いた…」

フェイトはボロボロであり、ＳＣ学園の中に入って光とこの世界のフェイトを探していると…。

「だからいい加減にしろよバカ親父!!」

「うぶっ!!!?」

タクトがトキオをぶん殴り、殴り飛ばされたトキオがフェイトにぶつかってフェイトは吹き飛ばされる。

「キャアアア!!!?」

取り合えずフェイトは光達のいるクラスへと向かい、扉を開けるとタライが落ちてきてフェイトの頭に直撃した。

「ウギヤア!!!?」

「あら、フェイトさん？ 珍しいですわね、光さんと一緒に登校して来ないなんて…」

どうやらあのタライは沙都子が仕掛けた罠らしい。

「うっ、うっ…なんで私はこんな何時も不幸なのかな？」

するとそこへ…。

「あれ？　もしかして不幸なフェイト？」

光とこの世界のフェイトがやってきた。

これから地水さんのフェイトは『』と表記します。

「ああ、やっと会えた〜！！！」

フェイト『』は光に向かって走って行くかフェイト「」にはそれが光に抱きつく様に見えた為フェイト「」はフェイト『』にドロップキックを喰らわせた。

「光に抱きつくなああああ！！！！」

『えええええ！！！！？』

「なにしてるのフェイトオオオオ！！！！？」

フェイト「」はヒシツと光に抱きつく。

そこへ？？？さんの所の「黒崎ソラ」と「玄野計」が通りかかる。

「また桃色空間作り出してな、あの2人」

「あ、ああ…そうだな…（って俺も人の事言えねえ…多恵ちゃんと付き合ってるから俺も桃色空間よく作ってるってジンから言われるし…）」

ジンとはウルトラセブンアックスというウルトラマンに変身する人物だが訳あって現在は玄野と同化している。

そして授業時間、R組で転校生がやって来た。

「はい、それじゃ転校生紹介するぜ」

R組の担任の石黒明が転校生を呼び、その2人が入って来る。

「玄野計です」

「黒崎ソラだ……」

「ああ、それからこのクラスの副担任も決まったぞ、取り合えず玄野と黒崎は席に座って貰おうか」

「はい」

2人はそれぞれ席に座り、明はその副担任を呼ぶ。

『副担任のガンツです』

それはガンツだった。

「いや待てええええええ！！！！！」

玄野が叫ぶ。

「なんでガンツ！！？ てかなんでいんの！！？」

流石のソラも目を見開いて驚いている。

「このクラスに、バカップルいますか？」

「いるよ、ツバサとヴィヴィオ、光牙とアインハルトとか」

「昨日の夜なにしてた？」

ガンツがいきなりとんでも無い事を聞く。

「ブッ！！？／／／／」

光牙、アインハルト、ツバサ、ヴィヴィオは一斉に動揺しまくり顔を真っ赤にさせる。

「別になにもしてないよ！！？／／／／」

「そうだよ、キスくらいしかしてないぞ！！？／／／／」

ツバサとヴィヴィオが反論する。

「僕等もベッドの上でディープキスしかしてないよ…／／／／」
「そんな詳しい説明いらないです光牙／／／／」

光牙とアインハルトも反論する。

すると…。

『あゝたゝらゝしい朝がきた』

突然ガンツからラジオ体操の歌が流れた。

「ッ！！？　おいおい、まさか今から星人狩りに行くとかじゃ無いだろうな？」

「いや、流石にそれは無いだろ」

するとガンツに文字が浮かび、ある画像も浮かぶ。

それにはこう書かれていた。

『首領パッチ星人

好きなもの やっくん、ネギ

特徴弱い、雑魚い

口ぐせ「ちくわ食えやー」』

『ええええええ！！！！？』

それに全員が驚いた。

「よっしゃあー！！ 首領パッチ星人を狩りに行くぞー！！」

何時の間にか何故かガンツスーツと呼ばれるスーツを着用したボーボボがあり、Xガンという変わった銃を構えて首領パッチを探しに行った。

『打ち合わせ通りです、ボーボボ。 それではいつてくだちい』

「打ち合わせってお前等なにしてたんだ…？」

ソラの問いにガンツは答えなかった。

数分後、首領パッチの叫び声が聞こえたのは言うまでも無い。

*

放課後、取り合えずフェイト』の相談は放課後に聞く事にした光

とフェイト「」。

『それで私、本当に不幸で…どうしたらいいんでしょうか?』

「話を聞く限りじゃ…フェイト」、『、まずはシャドームーンに変身しない方がいいよ」

『ええ!?!? やつと見つけた私が変身出来るライダーだったのに!?!?』

「でも確か『ツバサ』の飛王リードとシャドームーンって声と一緒に君がシャドームーンに変身するとそっちのシャオランさんはシャドームーンを飛王リードと勘違いして何時もぶっ飛ばされるんですよ?」

そこへフェイト「」が色々その他のライダーの変身ツールを持つてくる。

「取り合えず他のドライバー試してみなよ、これなんてどう?」

フェイト「」がアクセルドライバーとアクセルメモリをフェイト「」に渡し、早速変身してみる。

『アクセル!』

「変・身!!!」

『アクセル!』

そしてフェイト「」は仮面ライダーアクセルに変身した。

「やった、変身出来た!!」

つい嬉しくなってバイクフォームという形態になるが…。

『こ、この態勢はキツイ……!!』

との事でアクセルは駄目だった。

「じゃあこれとか……」

フェイトに渡したのは龍騎のデッキ。

早速仮面ライダー龍騎に変身したのだが……。

ブランク体であった。

しかもミラーモンスターという怪物、デイスパイダーがミラーワールドという空間に現れ放っておけば人間が食べられる為龍騎はその事を知っていた為急いでミラーワールドに。

「まずはドラグレッダーと契約だねって……」

「あのままミラーワールドに行っちゃったよ?」

「ええええ……!!?」

ミラーワールド、龍騎がデイスパイダーに立ち向かおうとしてカードを左腕のバイザーと呼ばれるものに装填すると……。

『ソードベント』

空から剣が降って来てそれを構えて蜘蛛のモンスター、デイスパイダーに向かって行き斬りかかるが剣は簡単に折れてしまった。

「折れたあ……!!?」

どこぞのアメリカ版龍騎みたく驚く龍騎。

それから「秋山蓮」の変身した仮面ライダーナイトと「城戸真司」が変身した本当の龍騎に助けられフェイト龍騎は元の世界に戻ってきた。

『これも駄目でした…』

「人の話最後まで聞かないからだよ」

若干別世界の自分に厳しいフェイト「」。

それから色々試してみたがどれも失敗した。

『うっ、もうこれでいいです、シャドームーンメモリがあればいいです…』

「ごめんね、フェイト…力になれなくて」

『いえ、相談に乗ってくれただけで有難うございます』

フェイト『』はそのまま帰り、夕方の道を歩いていた時のことだった。

フェイト『』の真上のビルが突然爆発し、その瓦礫がフェイト『』に降り注いだのだ。

『きゃ、きゃあああ！！！？（これもう不幸なんてレベルじゃないよ！！！！）』

その時…。

『ハッリケンジャー！！！！』

ゴーカイレッドの変身したハリケンレッドが現れ高速で動き、フェイトを抱きかかえてその場から離れ瓦礫がフェイトに降り注ぐ事は無かった。

『えっ？』

「あぶねかったな、フェイト…光はどうしたんだ？　こんな所あいつに見られたら殺されちまう」

フェイトは取り合えず事情を説明。

「成程な、俺と一緒にだな、不幸なのは」

ハリケンレッドは変身を解除する。

『あ、あの、マーベラスさん…降ろしてくれませんか？／／／／』

フェイト『は現在マーベラスにお姫様抱っこされており、そのままマーベラスはゴーカイガレオンへと向かっていた。』

「それは出来ねえな、だってお前足、怪我してるだろ？」

マーベラスに言われて自分の足元を見ると確かに血が出て怪我をしていた。

「ゴーカイガレオンで手当てしてやるから辛抱しろ」

「は、はい…／／／／」

その頃…。

「本当に申し訳ありませんでした！」

元の人格に戻った楓がグリード達やエイジに謝っていた。

「良いよ良いよ」

「俺はゆるさな…」「アイス買つてやる」「許してやる」

エイジに言われアंकも楓を許していた。

「あれ？」

すると沙良がフェイト『』をお姫様抱っこしているマーベラスをみかける。

「どうした沙良…んっ？ あれは…」

勇樹も沙良と同じ方向を見る。

（あつ、そっだ！）

沙良は突然座り込む。

「おい、どうした？」

「なんか立てないの、だから抱っこして！」

沙良が上目遣いで勇樹に頼んで来る。

「／／／／仕方ないな／／／／／」

勇樹は沙良をお姫様抱っこして帰って行った。

『お熱いね』

「うっさいゲキリユウ…ファングセイバー」

『だから名前ちゃんと覚えろよおおお！！！！！』

終はそれを見て若干イラッとしたとか。

「俺も彼女欲しい…」

終が呟いた。

*

「マーベラスさん」

「なんだ、フェイト？」

「有難うございます／＼／」

「大したことじゃねえよ／＼／」

フェイトにお礼を言われ照れるマーベラスだった。

第8話 『コロボキヤラが多く出る話』 (後書き)

質問コーナーは此処とは別に連載します。

質問はこちらに送ってくれても構いません。

第9話 『王様ゲームは大人になってから』 (前書き)

あんま面白く無い気がする。

第9話 『王様ゲームは大人になってから』

学園のある部屋で、銀八、龍夜、ライハ、マーベラス、セイナ、士郎、アंक、ウヴァ人間態、玄野、近藤、新八がある部屋に集められていた。

「てか、なんで俺まで？」

「玄野、こういうのは多い方が楽しいんだよ」

「いやいや、銀八先生、今から何するか俺聞いて無いですよ？」

「何ってオメー、あれだよ。 王様ゲーム」

一応王様ゲームのルールを説明しておく、王様ゲームとは王と書かれたクジが1つ、その他は数字で王様を引き当てた人は他の番号を言い当て、その人は必ず王様の命令に従わなければならない。

正し、命令できるのは一回のみ。

「いやいや、俺一応学生つすよ？ 王様ゲームはまだ早い気が…」

「ゴチャゴチャ言ってないでやるぞ」

マーベラスのその台詞で王様ゲームが始まろうとした時、突然扉が飽き、松平が入ってきた。

「おうつと、ちよつくら待ってくれや。 こいつもどうか参加させてやってくんねえかな？」

松平は連れを部屋に入れる。

その入って来た人物は…銀魂の「徳川茂茂」通称…「將軍」である。

（（って將軍かよおおお！！！！！！））

銀八と新八は心の中で叫んだ。

（將軍ってこの世界でも結構偉い人なんだよな？　だったら下手したら俺達の首がねえ！！）

（取り合えず將軍には楽しんで貰うしか無い！！）

因みに銀八と新八以外、茂茂が將軍である事には気付いていない。

「そんじゃ俺は用事があるから楽しみよ将ちゃん……」
「ああ」

松平はそのまま去っていき、將軍も参加することになった。

そして王様ゲームが開始された。

クジは紙切れで片手を入れられる程の穴の空いた小さな段ボールの中にクジである紙切れを入れる。

「さあて、それじゃ始めるぜ……！」

1人ずつクジを取って行き、最初の王様は……。

「あつ、俺が王様だ……」

玄野だった。

「じゃあ命令してくれ」

因みに数字は1、1、2である。

「それじゃ、1番と3番に、8番はエイジのパンツを盗んできてくれ」

[illegible]

玄野の命令にエイジと一番付き合いの長いアंकが叫ぶ。

そして1番、3番、8番は…。

「つて俺1だああああ！！！！！」

「俺は8いいいいいい！！！！！」

1はアंकで8はウヴァ。

そして3は...

「私は3だ」

將軍である。

（やっぱ將軍かよおおお！！！！）

心の中で叫ぶ銀八と新八。

「こうなりやヤケクソだああ！！！」

「うおおお！！！！！！」

アंकとウヴァは將軍を掴み、エイジのパンツを盗みに行った。

エイジの家…、エイジのパンツを盗んだ3人は…。

『プットティラーノヒツサーツ!!』

「俺の明日盗^{パンツ}んだ奴が…、生きて帰れると思うなよゴルアアアア
!!!!!!!!!!」

メダガブリュー・バズーカモードで強力な砲撃、必殺のストレイン
ドゥームをアंक、ウヴア、將軍に放ちぶっ飛ばした。

「ギヤアアアア!!!!!!?」

「ぬおっ!!!?」

銀八達のいる部屋に3人は戻ると3人は黒焦げであった。

「アンコが焼き鳥になった…」

「おー、上手い上手い」

上からライハと龍夜。

「誰が焼き鳥だ!! それと俺はアंकだ!!」

（ヤベーよおい、將軍酷い目に会っちまってるよ…、なんかして楽しませねえと…!!）

そう銀八が考えていると王様ゲームが再開された。

（こつなつたら俺が王様を当てて將軍を楽しませるしかねえ!!）

銀八はそう思い、全員がクジを引いた。

（よっしゃあー!!）

王様を引いたのは銀八であつた。

「俺が王様だ。 それじゃ6番と11番の人はパンツ一丁になって
フェイトとなのはに抱きついて来い」

「なんちゅー命令してんだお前はああああー!!!!?」

すかさずマーベラスのツツコミが炸裂する。

「ていうかさつきから死亡フラグが凄く立ってる命令ばっかだし！
」

そして6番と11番は…。

「私だ…」

「俺だ…」

将軍が6で、近藤が11である。

（（つてやつぱ将軍かよおおお!!!!!!））

「いやいやいや!! でも待ってえ!! 銀八先生!! 俺達下手
したら死んじゃうよ!! 光とランに確実に殺されるわ!! そんな
な事したら…!!」

「そうだな…、そんな変更してゴリラ、お前だけ行って来い」
「いや何でえ!!? そんな事したら確実に逝くって!!」

すると士郎が近藤の肩に手を置き…。

「ガンバツ!!」

つとクウガなだけにサムズアップして笑顔で応援。

「いやふざけんなああああ!!!!」

それから近藤は覚悟を決める。

「先生、俺決めました。 やります!! もしも俺が死んだら、お妙さんに伝えてください、勇敢に戦って、死んだと…」

「ゴリラ…」

「いや、そこでゴリラっておかしいよね? 兎に角行きまああああす!!」

近藤はパンツ一丁になり、なのはとフェイトの元へ向かった。

そして結果…。

近藤がまず中庭にいたなのはに抱きつこうとしたが…。

「シュア!!」

ランの変身したウルトラゼロキックを喰らい思いつき蹴り飛ばされた。

「ぎゃああああ!!!!!!?」

「テメー、死ぬ覚悟は出来てんだろうなあ?」

「いや、待つ…!!」

「私に抱きついていいのは、ランだけなの!!」

なのははセットアップし、レイジングハートを構える。

「スターライト…ブレイカー…!!!」

「ワイドゼロショット…!!!」

「ギイヤアアアア…!!!」

2人の合体技を喰らい、辺り一面が大爆発を起こし、近藤は丸焦げになった。

「う…ぐっ…！　だが、俺はまだ諦めん…！」

近藤は今度はフェイトに抱きつくこうとしたが…。

「プラズマザンバーブレイカー…!!!」

「デイメンションバースト…!!!」

「ウギヤアアア…!!!」

フェイトのプラズマザンバーブレイカーと光の変身したウルトラマンディアスの必殺光線デイメンションバーストの合体技を近藤は喰らい、近藤はお星さまになった。

ズタボロになりながらも近藤は王様ゲームをしている部屋に戻ってきた…。

「ぐふっ…、ただいま、戻りました…ガクッ」

近藤は倒れこみ、そのまま動かなくなった。

「う、ゴリラアアア…!!!」

銀八は近藤に駆け寄るが…。

「まっ、いつか」

「あれ!!!? 酷い!!!?」

と土郎。

「1人ダウンした状態だけど続けるぞ」

「というか1つ疑問が…」

そう言い、セイナはマーベラスの顔を見る。

「今回マーベラスさんが不幸な目にあっていません!!!」

「あつ、そう言えばそうだな…。よし、じゃあ今度はマーベラスだけはクジを引いた直後に何が書かれてるか見るって事で…」

「いやいやいや!!! なんでそうなるセイナ先生に龍夜先生!!!?」

「ようし、王様ゲームさいかい」

「勝手に再開すんなああああ!!!!!」

マーベラスの叫ぶも虚しく王様ゲームが再開され、マーベラスが引いたクジは6で、王様は新八だった。

「それじゃ…、6番はお通ちゃんの僕が持つてるグッズ以外のグッズ全て買って僕渡してください!!!」

「な、なんだとおおお!!!?」

マーベラスは興味も無いアイドルの寺門お通のグッズを買い、新八に渡しマーベラスの全財産は殆ど消えてしまった。

「くそ…」

そんなこんなで、命がけの王様ゲームもしばらくして終了し、マーベラスはゴーカイガオレンに帰る途中空を見上げてこう思った。

（明日何処かの星にでもいってお宝を頂くか…）

つと、そして翌日、お宝を盗み出そうとして「デカレンジャー」のデカレッドに連行されてるマーベラス…

では無く「仮面ライダーディケイド」に登場した仮面ライダーディエンドである海東大樹が虎聖杯を盗んだ容疑で逮捕されていた。

「ってオメーかよ!!?」

それにツツコミを入れたマーベラスだった。

第9話 『王様ゲームは大人になってから』（後書き）

近藤ごめん…。

なんというか近藤はどうしてもああいうキャラになってしまっ

第10話 『正式な主人公決定発表と人気投票のルール説明だから今回は短

ある日、マーベラスが学園の廊下を歩いている時の事。

偶然ガンツと居合わせ、ガンツに『海賊王』というマーベラスを呼ぶ文字が浮かぶ。

「いや、俺確かに海賊だけど海賊王になるつもりは全く無いから」

『今日からきみはK組にうつってくだちい』

「はあ!!? なんで!!?」

『それは銀八先生にきいてくだちい』

という事でマーベラスは何故かS組に移った。

「つつ訳で、何故かこっちのクラスになる事になったキャプテン・マーベラスだ。それで銀八先生、何故俺は此処に?」

「いや、実はさあ、今回からお前が正式な主人公になったから出番増やすとしたらS組にいた方がいいなっと思って作者がな…」

銀八の言葉に「んっ?」となるマーベラス。

「えっ? 今何て?」

「だ〜から、お前が今回から正式な主人公、『これもある意味リアルな鬼ごっこかもしれない』からずっとレギュラーとして登場してたろ? それで作者が何か段々マーベラスが主人公になってるなと思って今回からお前が正式な主人公になったんだよ」

しかし、銀八はマーベラスの両肩を掴み。

「けどな、なんでお前が主人公なんじゃー！！！！！」

銀八はマーベラスに頭突きを繰り返した。

「ギャアア！！！？」

「マーベラスさああん！！！？」

頭突きを喰らい、倒れこんだマーベラスに光が駆け寄る。

「だ、大丈夫ですか？」

「なんでこいつが主役なんだよ！！？ 普通俺じゃねえのかよおおお！！！！！」

「いや、俺が知るか！！！ 俺に八つ当たりすんなよ！！ 作者のせいだろうが！！！」

マーベラスも銀八にキレる。

それからその日の午後の授業では生徒達が体育館に集められていた。

「そろそろ人気投票しても良い時期なので、人気投票開始します」
「早く無いですか？」

ハスナが言うが銀八は「気にするな」と答えた。

「取り合えず投票方法はこうだ。 作者、ルール説明」
「結局人任せかよ！！！」

新八がツツコム。

では説明を……。

投票方法は同じキャラを何度投票してもOKです。

投票する時はこの学園で今まで登場したキャラの名前を記入してください。

ただし、投票出来るキャラは今まで登場したキャラです。

限りはありませんので複数のキャラを投票出来ます。

感想、メッセージ、どちらも構いません。

因みにこの世界に住んでいないコラボキャラは色々と問題があるので除きます。

「そんな方法で大丈夫なのか？　またあんまり票来ないんじゃないか？」

「そこは言わないでやれジョー」

「そして是非俺に票をオオオオオ！！！」

叫ぶ銀八。

『いやこのわたくしに票をおおお！！！！』

という文字を出すガンツ。

「なにしてんだガンツ！！？」

と当麻。

「土方を殺すアイテムをおおお!!!」

そんな事を叫ぶ沖田。

「おいぶつ殺されてえかテメー!!!」

土方が沖田に殴りかかったが沖田はヒョイっとかわしてそこから2人の喧嘩が始まった。

という事で主人公決定と人気投票の投票の仕方でした。

投票の期間は今日「5月10日」5月28日」まで!!!

では…。

「てか主人公って光じゃなかったの？」

「主人公交代になったんだよ」

上からルカとハカセがそんな会話をしていた。

第10話 『正式な主人公決定発表と人気投票のルール説明だから今回は短

という訳でSC学園の正式な主人公がマーベラスに決定しました。

第11話 『最初に言っておく、これは夢オチだ!!』

昔々、ある所に「なのは・シンデレラ」という少女がいました。

意地悪な継母と3人の姉たちと共に暮らしておりました。

因みに継母は「メズール人間態」で姉は「ルイズ」と「ルカ」と「梨花」である。

「なんか2人ほど姉って言うより妹って感じのがいるわね」とルカ。

「どういう意味よそれ!!?」

ルイズが半ギレ状態になるが梨花が止めに入る。

「まあ、落ちつくのですよ」

「うっさいわ本当は100年以上生きてる婆!!」

「あ……」

メズールとルカは「ヤバい」と感じる。

何故ならそれを言ったら梨花がキレるからだ。

「婆で悪かったわねえ…、だったら、ガキが舐めた口聞いてんじゃないわよ!!」

梨花は「仮面ライダー歌舞鬼」に変身した。

「覚悟しなさい!!」

「上等よ!!」

ルイズがエクスプロージョンを歌舞鬼に放つが歌舞鬼は素早く避ける。

「ああもう、何やってんのよ、豪快チェンジ!!」

『ゴーカイジャー!!』

「アンタ達辞めなさい!!」

すかさずゴーカイイエローとメズールが止めに入るが…。

「いった!!? 何殴ってんのよ梨花!!」

「そんな所いるのが悪いんでしょ!!」

歌舞鬼がゴーカイイエローの頭を殴ってしまい、ゴーカイイエローが仕返しにと歌舞鬼に襲い掛かる。

事態はさらに悪化し、そこへなのはが駆けつける。

「ねえ、みんな、少し黙ろうか?」

強大な黒いオーラを放つなのはに全員黙りこんだ。

ある意味虐めは受けていないのかもしれない。

そんなある日、お城から舞踏会の招待状が届いた。

「なんでも色んな国のお姫様や王子様がくるらしいわよ」

（王子様…、この流れだろ、サイトが…／／／って私はなに考えてんの！！）

ルイズはサイトの顔が浮かぶ。

「ああ、みんなで楽しんで来てね…」

しかし、なのはは全く羨ましそうではありません。

「いや、そこは行きたそうにするもんじゃないの？」

とメズール。

「だって興味ありませんし」

「いやでも王子様いつぱくるのよ？ 舞踏会よ？」

「ただの王子様と舞踏会には興味ありません！！」

「ハルヒ！！？」

そんなこんなで舞踏会に行く事になったルイズ、ルカ、メズール、梨花はドレスに着替えて舞踏会へ向かった。

なのはは留守番で自分の部屋にいと…。

「ういーっす、なのは」

1人の魔法使い「諸星ラン」が突然現れました。

（なっ…！！／／／）

なのははランの顔を見た瞬間顔を真っ赤にした。

だがなのはは冷静に対処。

「もしもし？ 警察ですか？ なんだか人の家に勝手に入ってきた人がいるんですけど…」

警察に電話し始めました。

「いや待てえ！！ 話聞いて！！ ドロボーとかじゃないから！！
チャイム壊れてたからこうやって入って来ちゃったの！！」
「もう、冗談だよ魔法使いさん」

なのはは笑いながらランに言う。

「で、用件を言うと、俺は魔法使いでお前を舞踏会にいざないに来たんだよ」

「ふええ／＼ちょっとそれ早く無い！！？／＼／＼アプローチとか？／＼／＼」

なのははランが自分を舞踏会に一緒に行こうと言ってるのだと思い、顔を真っ赤にする。

「えっ、そんな事は…、ってかアプローチ？ 兎に角乗り物としてかぼちやの馬車出すな。 後お前のドレスも用意するから」

「えっ？ 魔法で？」

「そうだよ、チヨチヨイのチヨイ！！」

「何その適当な呪文！！？」

そして家の外にはかぼちやの馬車が現れなのはは白いドレスを身に纏い、さらにメイクもされた格好となった。

「うわ」

「うおっじゃああああ！……！！」

急にランが叫んだ。

「ど、どうしたの……!?」

*

舞踏会では…。

「な、なんでマーベラスが王子なの？」

とルカは王子姿のマーベラスに尋ねる。

「知るかあ……！」

その頃舞踏会の外では…。

「はあ、此処まできたわ良いけどドレスとかが無くて困るわ……」

何故かボロイ服を着た首領パッチがあり、そこに魔法使いの格好を

したボーボボがやってきた。

「私に任せて頂戴」

「あつ、魔法使いさん!!」

「それ」

ボーボボは杖を振るうと首領パッチの服はドレス…では無く何処からどう見てもヤクザの格好に変わった。

「まあ、素敵なドレス!!」

「ついでに舞踏会が開催されてる場所までこれでお行きなさい」

ボーボボはまた杖を振るうと今度はあからさまにヤクザが乗る様なバイクを出し、首領パッチはそれにまたがる。

「それじゃ行ってくるぜえ…!!」

首領パッチはそれだけ言うとバイクを走らせて舞踏会が行われてる城の最上階へ向かった。

「待ってるヒロ…、テメーの敵はとってやつからなあ…!!」

「ヒロって誰!!?」

そうツッコミを入れたのは偶然通りかかった「戦国乙女」のヒデヨシ。

そして場所を戻し…。

「オラオラオラ!!! 退け退け退け!!!」

バイクに乗った首領パッチが舞踏会の行われてる場所へ来て大暴れおり、首領パッチの乗ったバイクはマーベラスを跳ね飛ばした。

「ギャアア!!!??」

「ちょ、ちよつと、大丈夫マーベラス!!!??」

「あ、あのトゲ野郎…」

そこへ…。

「つたく、騒がしい野郎だな…」

「あんま騒がんとしてくれへん?」

ネクガオの左翔悟とセットアップした八神はやてがやってきた。

「久々の出番やからはりきって行くでえ!!!」

「行くぜ、俺、変身」

『ジョーカー!!』

翔悟は仮面ライダージョーカーに変身。

「おゝ、頑張るでござるよ翔悟〜!!!」

翔悟の彼女の「DOG DAYS」のユキカゼがジョーカーを応援する。

「っしやあ!!! やる気出るぜ!!!」

「ラグナロク!!!」

はやてが巨大砲撃を首領パッチに放った。

「ギヤアアアア！！！！？」

首領パッチが吹き飛んだ後にジョーカーの必殺技が首領パッチに炸裂する。

『ジョーカー！ マキシマムドライブ！』

「ライダーキック！！」

「ウギヤアアア！！！！？」

そのまま首領パッチは外まで放り出された。

「新手の悪霊確認！！」

そこで外で待機していたボーボボがバズーカで首領パッチを撃ち落とした。

「ギヤアア！！！！？ ボーボボテメー絶対殺す！！！！」

因みに…。

「いや、ミルヒと踊るの俺だって…」

「いやいや、だって君は『ネクガオ』で姫様といい雰囲気になってるだろ？ 此処は僕に譲ってよ」

「ネクガオ」の「秋山和音」とシンクがミルヒとどっちが踊るか言い争っていた。

「え、えっと、どうでしょう…？」

当の本人であるミルヒは苦笑いしている。

それと此処では和音はカズキとはやての息子では無くカズキと苗字が一緒なだけ。

「僕、全然人気投票の票来て無い…、はやても。誰か僕とはやてに票をオオオオ！！！！」

カズキがなんか叫んでた。

「大丈夫や、まだ時間あるから頑張ろうで」

はやてがカズキの後ろから抱きつく。

「はやて…／／／／」

*

その頃舞踏会の入り口前では…。

「着いたぞ」

「うん」

ランとなのはが馬車から降りた。

「ていうか、ランはその格好で行くの？」

「いや、俺の役目は此処までだよ。この舞踏会にいる王子様の１人とお前と一緒にさせることが俺の役割だからな」

「えっ…」

「じゃっ」

ランはそれだけ言うと消え去った。

「…」

なのははずっとそこに立っただけだった。

「あゝ、ヒデー目にあつたぜ…。んっ？」

マーベラスが気分転換に外に出るとなのはがいるのに気付いた。

「おい、お前…」

そこでマーベラスなのはが涙を流してる事に気付く。

「大丈夫…か？」

マーベラスがなのはの肩に手を置こうとした時…。

「今の私に…、話しかけないでえ！！！」

なのははレイジングハートを出してそれでマーベラスの頭を思いっきりぶっ叩いた。

「おぶう！！？」

「うわあああん！！！！ 私はランが良いのにいい！！！！ うわあああん！！！！」

なのは泣きながらマーベラスをレイジングハートで叩きまくる。

「ちょ、おまつ、ぐぶう！！？ やめ…べがあ！！？」

「おいしい！！！！ 辞めろなのはああああ！！！！」

そこでランが戻ってきて急いでなのはを取り押さえた。

「あつ…、ラン…」

「お前、俺に惚れてたのか？」

「う、うん…／／／／」

「だったら、最初から、言えよ…／／／／」

なのはを抱きしめるラン。

「／／／／」

「王子様とくつつく事が、お前の幸せだと思ってた。 だけど、お前が俺に惚れてんなら、話は別だな…／／／／」

「ラン、大好き…／／／／／」

*

SC学園K組。

「って夢を見たんだ」

となのははフェイトとはやてに言った。

「なんやその滅茶苦茶な夢は!!?」

「でも、ランと結ばれて良かったね」

「うん!!」

なのはは嬉しそうに頷いた。

「って俺なのはの夢の中でもどんだけ不幸なんだよ!!?」

そこで何故か此处に来てるミガトがマーベラスの肩に手を置き…。

「それが君だからさ!」

笑顔で言われた。

「納得できるかあああ!!!!」

第11話 『最初に言っておく、これは夢オチだ!!』 (後書き)

人気投票まだまだ受けつけ中、今回登場したキャラも含みます。

人気投票結果発表（前書き）

今回台本書きです。

人気投票結果発表

作者

「では『SC学園』人気投票の発表です!!」

神楽

「ふふ、当然1位はこの私ね!!」

首領パッチ

「ふざけんな!! 主人公である俺が1位に決まってるだろうがあああ!!!!!!」

ルカ

「いや、主人公マーベラスだから」

作者

「では、最下位からの発表です!! 最下位は11位です」

最下位（1票）

ドギー、ガルナ、ルイズ、サイト、沖田、翔悟、ネーナ、ロストア
ンク、メズール、ウヴァ、ガメル、フィリップ、翔太郎、ジョー、
ルカ、アイム、一真、橘、ユウスケ

神楽

「ワハハハ！！！！ ドS野郎は最下位アルか！！」

沖田

「んだとチャイナ娘！！」

ルイズ

「なんで私が最下位なの！！」

サイト

「俺もか……」

ルイズ

「納得いかないわ！！」

翔太郎

「くあー！！ 最下位かよ……、まああんまり出番無かったしな」

アंक

「んっ？ カザリだけが唯一あの中にいねえな、まさかあいつ俺達

カザリ以外のグリードより人気が……！！？」

メズール

「もしそうなら全員でフルボッコにしちゃいましょう」

カザリ

「やめてよね！！？」

ユウスケ

「俺名前しか出て無かったのに票が入ってる」

一真

「俺が最下位なんて……ウゾダンドコードン！！」

橘

「現実を認める剣崎」

ウヴァ

「何言ったか分かるのか！！？」

作者

「それでは次に10位〜6位までの発表です」

10位(2票)

ボーボボ、首領パッチ、ユキカゼ、シンク、ハカセ、新八。

9位(3票)

ガンツ、龍夜、美琴

8位(4票)

セイナ、ライハ

7位(6票)

当麻

6位(8票)

ラン

ボーボボ・首領パッチ

「「な、なにiiiiiiii!?!?!?!?」」

ネーナ

「なつ、我がセイナとライハより下だとおおお!?!?!?!? セイナ
は兎も角あのアホよりも!?!」

ライハ

「アホって言うな!!」

美琴

「私より当麻の方が票多いわね」

ラン

「お、俺6位かよ!!」

作者

「では次に5位から2位まで発表します!!」

第5位（10票）

なのは・フェイト

第4位（11票）

光

第3位（17票）

はやて

第2位（18票）

カズキ

ラン

「なん……だと!!?　なのはが5位だとおお!!!!?　1位じゃねえのか!!?」

なのは

「ま、まあ落ちついてラン」

フェイト

「光四位おめでと!!」

光

「うん、有難うフェイト」

はやて

「よっしゃああ!!!!　やったで!!!!　『ゼロSTS』じゃ一票も来なかった私にこんなにも票がああ!!!!!!」

カズキ

「やったああ!!!!　俺二位だああ!!!!!!」

作者

「さてそれでは第1位の発表です第一位はこの人!!」

1位(19票)

キャプテン・マーベラス

アイム

「この作品の主人公で出番が多かったですからね！」

マーベラス

「んっ？」

ボーボボ・首領パッチ

「何故主役である俺が1位じゃないんじゃゴルラアアアア！！！！」

バズーカをマーベラスぶっ放すボーボボと首領パッチ。

マーベラス

「ギャアア！！！！？」

そしてそのままマーベラスは高く吹き飛ばされた。

神楽

「なん……だと……！！？ どういう事じゃゴルラアアアア！！！！
！ なんて私に一票も来て無いねええええ！！！！」

ボーボボと首領パッチに加え神楽までもマーベラスに攻撃を仕掛ける。

マーベラス

「ちょ、俺のせいじゃねえだろ!!」

ひたすら逃げるマーベラス。

アंक

「フハハハハ!!!! 一票も無いとは良い気味だなカザリ!!」

カザリ

「黙れ焼き鳥野郎……」

ジャンボット

『焼き鳥では無いジャンボットだ!!!!』

ラン

「ジャンボット!!!!?」

銀八

「ってか俺に票が1つも入ってないんですけどおおお!!!!!!?」

作者

「それでは、人気投票以上で終了いたしました!!!!」

銀八

「待てやoooooooo!!!!」

人気投票結果発表（後書き）

一応質問コーナーも更新します。

第12話 『モノマネ大会開催したけどモノマネ出来てる奴いる?』 (前書き)

マーベラスファンの皆さんすいません!

今回もめっちゃマベちゃん不幸です。

ですが、僕はマーベラス好きです!

何故不幸なのか、それはマーベラスなんか不幸な体質が似合いそうだな〜って思ったので……。

第12話 『モノマネ大会開催したけどモノマネ出来てる奴いる?』

「という訳で第1回、モノマネ大会やりまゝす」

体育館で静かにマイクを使って銀八が言った。

「ってどういう訳だあああ!!!?」

すかさず新八がツツコミを入れる。

「いやな、ぬらりひょん理事長がさあ、『モノマネ大会やったらおもしろくね?』って言うてよ。それで今回この大会を解散したんだよ」

「理事長の趣味だろソレ!!」

ルールはこうである。

この「SC学園」の生徒や教師のものまねをやり、ぬらりひょん、銀八、龍夜の3人が審査員を務めて1番面白かった人が優勝。

因みに教師、生徒参加可能。

ただし、声優ネタ、中の人ネタは無し。

それから、取り合えずなんやかんやでモノマネ大会をやる事になり……。

「じゃあまずはランからやって貰おうか」

「ああ」

しばらくして、体育館の前の舞台に「スタードライバー」の銀河美少年になったタクトの格好したランが現れた。

「颯爽登場！！ 銀河美少年！！ タウバーン！！！！」

「だから声優ネタはダメって言っただろがああああ！！！！」

ランに向かって叫ぶ銀八。

「先生、大丈夫だ！ 確かに『ウルトラマンゼロ』に変身した俺な
ら声はタクトと同じ宮野さんだが……、人間態の俺は声が違ってから
声優ネタにならないんだよ！」
「何かせいこいなおい！！？」

その後、ランは去って次に舞台上がってきたのは……。

「ゴーカイジャー」の「バスコ・タ・ジヨロキア」だった。

「マベちゃんのモノマネやりまゝす。 よし、お前等、派手に行く

ぜ！！」

すると当然……。

「バアアアスウウウコオオオオ！！！！！！！」

バスコに対して怒りむき出しのマーベラスがゴーカイサーベルとゴ
ーカイガンを持ってバスコに突っ込んで来た。

「甘いねマベちゃん♪」

バスコが指をパチンと鳴らすと何故かマーベラスの頭上からタライ
が落ちてきてマーベラスの頭に直撃する。

「ゴフウ！！？」

そのままマーベラスは気絶した。

「えーっと、次はマーベラスだったんだけど、気絶してるから次だ」

次は……「DOG DAYS」のエクレだった。

「なんだ？ 貧乳はステータスだ、希少価値だとか言うのか？」

と銀八。

「誰が言つかあああ！！！！ 短剣投げるぞ！！！」

そう言うと同時に短剣を銀八に投げつけて額に突き刺さった。

「イギヤアアア！！！！？ もう投げてんじゃねえかああああ！！！！？」

取り合えず頭から短剣を引っこ抜いた銀八なのだが、その際手から短剣を離してしまい、その勢いで目を覚ましたマーベラスの頭に突き刺さった。

「グギヤアアア！！！！？」

「頭に突き刺さってるけど大丈夫なのアレ？」

ルイズが言い、そこでシンクが……。

「ツンデ……、ルイズさん。 この世界は決して人が死ぬ事の無いギヤグの世界だよ？ 死ぬ訳無いよ」

「アンタ今ツンデレって言いかけたわよね！！？」

「エ？ ソンナコトナイデスヨ？」

「片言じゃないの！！！」

すると「DOG DAYS ～銀色の巨人と百獣の戦士～」の南爪が手を上げてエクレの名を呼ぶ。

「前に触った時は意外と結構あったと思うから、胸には自信を持って」

「南爪お前『銀色の巨人』の話を持ち出すなあああ！！！！？」
あからさまに変な誤解生むからその台詞は！！！」

エクレの言う通り、少し変な誤解が生まれ、恥ずかしくなったエクレは南爪を連れてものまねせずにすぐに立ち去った。

（まあ、後で俺やシンクにミルヒが誤解を解いておこう。 それに

してもエクレが誰のモノマネしようとしたのか気になるな……)

と思ってる和音。

そこからも色んなモノマネが続いた訳で、中にはこんなものが……。

オリジナルの「仮面ライダーオーズ」である「火野映司」とオリジナルの「仮面ライダーバース」である「伊達明」の場合だと……。

「悪いけど俺、こっちに転職したから」

「オンドウルギッタンディスカ……!!!!!!?」

遠回しな剣崎一真のモノマネだったり……。

メズールに至っては……。

「良いわよねえ、アंकにウヴァにカザリにガメルにプトティラにタトバのコンボのテーマソング出てるのに私の、シャウタのテーマソングだけ出無い……。シャウタの、シャウタの歌が出て欲しいのよおおお!!!!!!」↑あなたが欲しいのよー的な感じで。

「仮面ライダーオーズシャウタコンボ」のテーマソングだけがオーズ本編に出無くて相当落ち込んでるメズール。

「でもこれモノマネじゃなくね……?」

その時だ……。

「どうせ私なんて……シャウタの歌なんて出無いのよ……。他のグリード達とかは良いわよねえ」

「モノマネつつかあからさまに地獄兄弟の仲間入りしそうな勢いなんですけどおおおお！！！！？」

銀八が叫ぶ。

「ウヴァ、一緒に地獄に落ちよう……」

「よりによって弟候補は俺か！！？ テレビには出て無いがシャウタの曲出ただろうが！」

そして次に銀魂の「高杉晋介」がやってくる。

ただし、この高杉は銀八先生の方だが……。

「別に俺は、モノマネをするつもりはねえが李小狼に1つ言いたい」
「えっ？」

高杉が以外にも「CCさくら」の小狼の名前を出した事に小狼本人は驚いていた。

「俺は仮面ライダーミラージュアギトだ。そしてドッグオルフェノクでもある……。そして小狼、お前は仮面ライダーファイズでウルフォルフェノクだよな？」

「え、まあそうだが……」

「犬と狼って被るだろ、どっちもイヌ科だし、だから被らない様に……変身」

高杉はミラージュアギトに変身した後ミラージュセイバーという剣型の武器を取り出す。

「お前を消す」

「いや、そんな理由消されたくないんだけどおおおお！！！！？」

ミラージュアギトは小狼にまっすぐ向かって行くのだが……、倒れていたマーベラス踏みつけて豪快に転んだ……。

「ぐぼお！！？」

「おぶう！！？」

「なにこのバナナの皮滑つてみたいな感じ！！？」

そのまま変身してるにも関わらず高杉は打ち所が悪かったのか気絶、小狼は恋人の「木之元さくら」を連れてさっさとその場から離れた。

「あんの眼帯野郎……」

踏みつけられた腹をさすりながらマーベラスは気絶した高杉を睨みつけていた。

第13話 『ボーボボ、なにやってんだデメー!?!』

ある日の事、SC学園に「キュアノア」さんの「ナオ」と「つばみ」と「えりか」がこの学園に訪れていた。

「へえ、此处がSC学園ですかあ」

「ねえねえ、えりか」

「んっ? なにナオ?」

「あれ……」

ナオの指差す方には「仮面ライダーグレイブ」と「仮面ライダーG3-X」が戦っていた。

「うおおお、死ね土方あああ!?!」

「お前が死ねえええ」

「えっ? なにあれ?」

「気にしないで入りましょう……」

取り合えず3人は学園の中へ入って行った。

そして学園の中で1番最初に出会ったのは……。

「アニキ!?!?」

「んっ?」

ランとなのはだった。

「えーっと、ヒ○シくん?」

「いや、違うから!! それ怪○くんだよね!?!?」

ナオはランのボケにツツコミを入れる。

「冗談だよ、えっと、お前今回のコラボキャラだろ？ 分かってると思うけど俺はお前のアニキじゃねえんだ」

「あ、うん……」

その時だ、マーベラスや銀八が何故か大勢の人間からこちらに向かって逃げてくるのが分かった。

「おいしい！！ テメー等も早く逃げろおおお！！！」

銀八が物凄い表情でラン達にそう言っ て来た。

「えっ？ って！！」

ランは銀八やマーベラスを追いかけている人達に目をやると全員眉毛が繋がっていた。

「あれってマユゾン！！？ なんで……」

「えっ？ マユゾン？」

マユゾンとは、あるウイルスによって人の眉毛が繋がり、自我を失ってまるでダメなおっさんになってしまうのだ。

そしてマユゾンと化した人達に襲われれば、襲われた人間もまたマユゾンになる。

「と言う訳で逃げるぞ！！」

「はいであります！！」

「つぼみ、それリコッタ!!」

びっくりして中の人ネタを使ってしまうつぼみ。

と言う訳で、ラン、なのは、マーベラス、銀八、ナオ、つぼみ、えりかはマユゾンから逃げる事になった。

「ていうかなんであんなのいるのよ!!!??」

若干涙目のえりか。

「実は、理科の教師のボーボボが……」

「あー、暇だな。そうだ! 暇だから全員まるでダメなおっさんになるマユゾンにしちやおう」
『』

ボーボボのアフロがパカツと割れると黄色いガスが発生、それが原因で今回のマユゾン事件が発生したのだ。

「なにしてんだあのアフロおおお!!!!!!」

「因みにガスを発生させたボーボボが1番最初に感染してた」

「ダメじゃん!!」

ランの連続のツッコミ。

「あ、おい!! あそこにエレベーターがあんぞ!!」

この学園はかなりの広いのでエレベーターがあるのは当然なのである。

「よし、乗り込めお前等!!」

丁度エレベーターの扉も開き、7人は一気にエレベーターにかけ込む。

そして扉が閉まり、一難は去ったのだった……。

「ぜえ、ぜえ、全員いますか?」

つぼみが銀八に問いかけ、銀八は「おお、ちゃんと7人いるぜ」と答える。

「えっ? 7人? ホントに?」

「いるってオメー、俺だろ、ランになのはにつぼみにえりかにナオ、んで、マーベラス」

するとなのはがレンジャーキーとモバイレーツを銀八から取り、レンジャーキーとモバイレーツに差し込む。

『ゴーカイジャー!!』

ゴーカイレッドに変身したなのは。

「俺は此処にいるぜ（なのは裏声）」

「ほら」

「なのはさんが今変身しましたよね!!?」

「なのは、お前とうとうそんなボケを……」

何故かなのはがボケた事を嬉しそうに何故かしているラン。

するとその時『ピンポン』と音が鳴り、エレベーターが止まった。

「あり?　なんで止まんた?」

「あれだろ?　この階で誰かエレベーター待ってる奴いんだろ?」

上から銀八とランが喋った後、全員そこで「えっ?」と声を上げた。

「それってマユゾンだろおおお!!!　開けんな!!!　絶対開けんなあああ!!!」

銀八がそう叫びながら「閉」のボタンを押そうとしたが……。

間違えて「開」のボタンを押してしまった。

「なにしてんだテメー!!!!!!?」

銀八の頭を掴んだランが銀八を壁に叩きつける。

「おぶっ！！？」

そして扉が開くとそこには……。

「いや、こんなに話が合うとは」

「ま、私特撮オタクですし」

「というかエレベーター来たぞおい」

上から順にスーパー戦隊バカの「伊狩鎧」がハスナとスーパー戦隊の話で盛り上がっており、進鵜がエレベーター来た事を2人に伝える。

『なにしてんだお前等あああ！？』

「というか来たぞ！！ マユゾン！！」

進鵜が言い、指を刺す方向にはマユゾンが2体ほどこちらに向かって来ていた。

しかし……。

「「^{です}邪魔」」

クロックアップ並の速さで鎧とハスナはマユゾン2人を殴り飛ばした。

「「グガアア！！！！？」」

「なにiiiiiiii！！！！？」

だがその時……。

「なあ、また来てるんだが……」

進鵜のいう通り、今度は複数こちらにマユゾンが襲いかかって来る。

だがその時……。

「待たせたな！！　こんなウイルス、ワシには効かんからワクチンを持ってきたぞぉー！！」

という男性の声が聞こえる。

「あれ？　なんかどつかで聞いた様な声が……」

「まさか……」

マユゾンの奥の方にかすかに見えた人影は、ゴツイ身体をした男性と思しき人影……。

「まさか両さ……」

「後はワシに任せろ！！」

それは「こち亀」の両津のコスプレをした首領パッチだった。

『ウガアアア！！！！！』

「つてオメーかよ！！！」

「えっ？　ちょ、ぎゃああああ！！！！？」

本物の両さんならば既にダメなおっさんなのでマユゾンの力は通用しなかっただろうが、首領パッチは悪魔で「コスプレ」なので少なくとも影響は受ける。

そしてマユゾン達が首領パッチから離れると……、首領パッチは……。

ネギになっていた。

『なんでだあああああ！！！！！？』

これには全員のツツコミが炸裂。

「なんでネギになるんだ！！？」

「おかしいでしょ！！？」

「うん、まあ進鶴とえりかの言いたい事は分かるけどそれがボーボボキヤラだしなあ」

とその時……。

「退けどけどけ！！！！」

「ギヤアア！！！！？ マユゾンにされるううう！！！！？ テメツ、覚えてろよクソ海賊うううう！！！！」

「うるせえ！！ ところでんなだからマユゾンになる可能性低いだろ！！」

「あ、マーベラスさん無事だったんだ」

とナオ。

しかもよく見るとマーベラスはなにかバズーカを抱えている。

「ワクチン持ってきたぜ、マユゾンの！！」

「おお、やっぱり頼りになるのは主人公！！」

その後、エレベーターに乗って屋上に行き、マユゾンのウィルスを浄化するワクチンのバズーカを空に向かって撃ち、みんな元に戻っ

たのだった。

第14話 『たまには最後の方で真面目なバトルがあつたりする』（前書き）

コラボは、また別の話で、すみません。
今回凄い短い！

第14話 『たまには最後の方で真面目なバトルがあったりする』

銀八は国語の授業でM組とK組とV組に「自分の日常」を題材にした作文を書いてくるようにという宿題を出すようにと珍しく忘れずに生徒達に言い、その3日後にその宿題を生徒全員が銀八に提出して銀八はその宿題の感想文を職員室で見て出来を見ていた。

「おつ、銀八先生宿題のチェックですか？」

明がそこに通りかかり、銀八が今手に持つてる作文を覗き込む。

「えっ？ ああ、まあそうっすねえ、でもあいつ等の事だからなにか嫌な予感がすんだよなあ」

「どれどれ？」

銀八と一緒に明は感想文を読んでもみる。

2年M組 曉美ほむら

まどかに変な虫が寄りつかない様に日々あのインキュベーターとまどかを狙ってそうな変態共を始末しています。

しかしインキュベーターは何度も「僕と契約して魔法少女になってよ！」としつこくまどかに付きまといます。

ふざけるな！！ まどかを魔法少女にさせてたまるもんですか！！ クソウ、あいつの本体さえ見つければ始末出来るのに！！

ある時、まどかに近づいたインキュベーターを銃で殺した時、流れ弾がカツミに当たりましたが特に気にしませんでした。

だってNEVERだし、死なないし、仮面ライダーエターナルだし、地獄を楽しませる人だし。

取り合えず私の日常はまどかの日常を守る事です。

まどかまどかまどかまどかまどかまどかwww

「「なんなんだオメーの作文はああああ！！！！？」」

銀八と明のほむらの作文についてのツツコミが炸裂。

「なんでカツミの所入れた！！？　いらねーだろ別に！！」

「後最後の所なんだ！！？　なんでまどかまどかつて連発してんだ！！？」

「それで最後の『www』が妙に腹立つんだけど！！？　つつかどんだけまどかの事好きなんだよあの娘！！」

銀八↓明↓銀八という順にツツコミを入れる2人。

「次行こう銀八先生」

「あ、ああ……」

3年K組　キャプテン・マーベラス

俺の日常つーと、まあ、こんな感じだ。

学校からの帰り道を歩いてると突然真上からビルの看板が落ちて来てなんとかかわしたがまたガンツに退かれて吹き飛ばされた、沖田の装着した仮面ライダーG3-Xと土方の変身した仮面ライダーグレイブの戦いに巻き込まれて酷い目にあつた。

その後、ボロボロになりつつもガレオンに帰ろうとしたら足を滑らせて近くの川になんやかんやで落ち、身体が傷付いてるせいもあり、

溺れた。

で、気付くと何時の間にか星獣戦隊ギンガマンの「ギンガの森」まで流れ着いて目を覚ましたらライオンみたいな「ギンガレオン」がおり、俺を敵だと思ってギンガレオンに追いかけまわされ、また足を滑らせて川に溺れ、気付くとギンガレッドのリョウマに助けられていた。

というか何故結界があるのにギンガの森に入れたかは分からない。

「なんか読んでて応援したくなるんだけどおおお！！！？」

何故か無性にマーベラスを応援したくなる銀八。

「此処まで来たら、なんか泣ける……。次行こう、あ、次は桂だな」

「あっ？ ツラ？ なんとなく予想つく……。」

銀八は一応桂の作文に目を通して見る。

3年K組 桂小太郎

モノマネの回、ずっとスタンバってました。

アンパンアンパンアンパンアンパンアンパン僕と契約して
アンパンになつてよ！アンパンアンパンアンパンアンパン
アンパンアンパンギツタンディスクカ-！？アンパンアンパンアンパ
ンアンパンアンパンアンパン

「おいしいいい！！！ なんかの呪いかこれえ！！？」

「後なんか途中で変なの入ってるんだけど！？ アンパンになつて
よつてなんだ！？ 後アンパンギツタンディスクー！？ ってオン
ドウルのもりかこれ！！？」

他の作文などでは……。

ランの場合

なのはの『お話』に日々怯えています、でもそういう所も俺はなの
が好きです。

零夜の場合

セイナのヤンデレ化が進むのが怖いです。 でも俺はそういう所も
好き。

「同じゼロだけはあるな、似た様な感想文だな」

M組のカミナの場合

今度こそ、本当にあばよだな。

あばよじゃねえ、一緒だろ。

へっ、そうだったな。

行くぜ、ダチ公！！

「ってこれ『グレンラガン』26話本編の話を書いてるだけで作文になってねーよ!! 因みに作者はこの回が1番好きです!!」

サイトの場合

ルイズによくシバかれる。

フェイトに可愛がられてる光が羨ましい。

「可愛がられてるせいで他の男子生徒から命狙われてるけどな光は」
結局殆どまとまな作文など無かったという結末に終わったのだった
……。

その後、銀八は自分の住んでいるアパートに帰る途中……。

「グルル……」

「仮面ライダーアギト」に登場する怪人アンノウン「パンテラス・ルテウス」がSC学園の生徒を殺害しようと追い回していた。

「アンノウン!!? おいおい、まさかあいつ等出るとは思わねかったぞ」

銀八はルテウスに向かって走り出し、ルテウスを蹴り飛ばす。

「ぐああ!!!?」

「ウチの生徒に、手え出してじゃんねえよ。さっさと逃げな」

「は、はい!」

その生徒はすぐに逃げ、ルテウスはすぐに立ち上がる。

すると銀八の腰に金色のベルト「オルタリング」が現れ、左右の腰を銀八は叩くと金色の龍の様な「仮面ライダーアギトグランドフォーム」に変身した。

「変身！！」

「グルル！！」

ルテウスはすぐにアギトに殴りかかるが、アギトは全てのルテウスの攻撃を受け流し、逆に殴りつける。

「ハッ！」

「グガアア！！？」

「ハアアアア、トリヤアア！！！」

そしてアギトの頭の角の「クロスホーン」が4つ展開し、アギトの足元に紋章が現れ、消えて足にエネルギーを溜めて飛びあがり、ルテウスに必殺キック「ライダーキック」を繰り出し、ルテウスは蹴り飛ばされ、ルテウスは爆発した。

「グギヤアアア！！！！？」

アギトは変身を解き、銀八に戻り一言。

「えっ？ なにこの真面目なバトル？」

第14話 『たまには最後の方で真面目なバトルがあったりする』（後書き）

銀八をアギトにして戦わせたいな〜とこの小説内で前から思ってた。

銀八

「そう言えば作者は昨日アギトのDVD借りてみてたっけな」

此処で少しお知らせ、今来てる2つのコラボ依頼2つが終わったらしばらくコラボは受けつけない事にします、申し訳ありません。これには色々事情があります。

そして少し思った事、自分の書いてる『仮面ライダーディケイド〜異界の旅〜』もカオスだろうか？

銀八

「さあ？ 色んなキャラ出てんのは確かだけどな」

第15話 『海でウイルス大パニック!!』 (前書き)

シグナルマン

「最初に言っておく!! 今回は龍の骨さんの恭介とノブユキにキ
ユウベえ、のらねこさんの所からクオヴレーがやってくるぞ!!
彼等の作品もよろしく!!」

ブライ

「なんだ? 声優ネタのつもりか?」

新八

「なんでアンタいの!?!」

ブライ

「忘れたのか? この作品はなんでもありだ」

ゲキ

「後、今回はロムスカ王さんの「仮面ライダークロス」の登場した
あるウイルスが発生する」

龍夜

「ゲキも来ちゃったよ……」

第15話 『海でウイルス大パニック!』

今日、光、フェイト、マーベラス、まどか、ほむら、光牙、アインハルト「のらねこ」さんの所の「クオヴレー」と「龍の骨」さんの所の「恭介」と「ノブユキ」というキャラが海に遊びに来ていた。

「俺達まで誘って貰って良かったのか？」

クオヴレーが光に尋ねる。

「ええ、折角のコラボなんですから♪」

笑顔でそう答える光。

「そついや俺達の所のキュウベえどうした？」

「そついえば、いないねえ」

恭介とノブユキは自分達の作品の「キュウベえ」を探していた。

「そつ言えばウチのまどかとはむらもいないか？」

ジョーがまどかとほむらの姿が見当たらない事に気付く。

「嫌な予感……」

ある場所で、龍の骨さんのキュウベえがまどかとはむらに……。

「と言う訳で、君達が大人になる為に必要な事を教え……」

「まどかに変な事教えるな」

ほむらがオーズドライバーを装着し、偶然通りかかった本家オーズの映司の体内から紫のコアメダルを奪ってオーズドライバーに装着。

「ぐぼお!!? ってええ!!?」

「どうやって紫のコアメダル盗ったのほむらちゃん!!?」

因みに映司は平然としている。

後、奪い取った時のシーンですが別にグロくはありません、手がすり抜ける様な感じです。

手がすり抜ける様な感じです。

大事な事なので2回言いました。

「変身」

『プテラ! トリケラ! ティラノ! プットティラーノザウルス!!』

オーズ最強形態のオーズプトティラコンボに変身してメダガブリューでキュウベえを吹き飛ばした。

「僕は大切な事教えようとしただけなのに、全く訳が分からないよ」

そして場所を戻し……。

「んっ?」

クオヴレーが海に目をやると、仰向け状態でアインハルトの義理の

弟のカツミが浮いていた。

「もう、死んでもいいや」

「なんで!!? とうかお前はもう死んでるだろ」

「光、どうかな? / / / /」

フェイトは黒いビキニの水着を着て恥ずかしそうにしている。

「おぶうつ!!!?!? / / / / あ、に、似合う……… よっ …… / / / /」

その後、光は鼻血噴射して倒れ、フェイトに膝枕して貰った。

「あ、あのう…… / / / / 光牙、私はどうでしょうか? / / / /」

もじもじしながらビキニの緑の水着を着たアインハルトが頬を染めて光牙に聞いてくる。

「えっと……その / / / /」

何時までたっても「えっと、その」ばかり言っただけでハッキリと言わない光牙にアインハルトは段々イラ付き始める。

「霸王断空拳!!」

霸王断空拳が光牙の頭に炸裂した。

「ぎゃあああ!!!?!?」

「はっ、しまったつい光牙!!」

泣きながらアインハルトは光牙を起こす。

「取り合えずさ、折角海に来たんだから遊ぼうよ」

とノブユキ。

「そうだな」

恭介が海に向かって行こうとしたら、人と偶然ぶつかってしまった。

「あ、すいません……」

しかし、そのぶつかった人の顔をよくみると……。

「ラピユタ」の「ムスカ」だった。

「なんでだああああ！！！！？」

後、周りをよく見るとムスカの顔をした人達が男女問わず、子供大人問わずとムスカの顔をした人達が複数おり、ムスカがムスカで無い人を襲うと襲われた人もまた顔がムスカになった。

「なんか前にも無かったこんな事？」

何時の間にか復活した光が言い、光牙も復活して一同は取り合えず襲いかかるムス力達から逃げる。

「なんでこんな事になってるんだ？」

クオヴレーはそんな疑問を口にする……。

「もしや、本官が拾ったあれが原因なのだろうか……？」

何時の間にかクオヴレーの隣でカーレンジャーのシグナルマンがみんなと一緒に逃げていた。

「なんでお前も逃げてんだよ……！」

マーベラスがシグナルマンに言う。

「つつかなにを拾ったんだ……！」

マーベラスが聞く所によると数時間前……。

海辺の近くに交番「コバーンベース」の前にシグナルマンは立っていたのだが……。

「今日も、誰も通らない……」

そんな事を言っていると上空からシグナルマンの頭になにかが落ちてきた。

「イテッ、なんだこれは？」

シグナルマンがそれを拾い上げると、なにかのカプセルの様だった。そのカプセルには「M・ウイルス」と書かれている。

「M・ウイルス？」

だが、シグナルマンはついっかかりM・ウイルスのカプセルを落としてしまい、ガスが発生しシグナルマンはなんとも無かったがウイルスが空気感染でムスカゾンビ、略してムスゾンを広げてしまったのだ。

「あつ、まあ、良いか……」

そして今に至る。

「オメーのせいじゃねえかああああ！！！！」

恭介が木刀の村雨でシグナルマンを叩きつけようとしたがシグナルマンは白刃取りで見事キャッチ……出来ず頭を叩かれた。

「いたあ！！？」

「ツツコミ後！　まず逃げよう！！」

ノブユキの言う通りである。

しかし、今度は前からも後ろからもムスゾンが迫りくる。

「囲まれた！！？」

だがその時……。

『ジョーカー!!』

「変身」

『ジョーカー!!』

黒いボディをした仮面ライダージョーカーが現れ、ムスゾンを一瞬で倒して行く。

因みに殺してはいない、気絶させているだけだ。

「ジョーカー？」

光はジョーカーはこの世界に2人しかいない「左翔太郎」と「左翔悟」。

「トリヤア!!」

そしてジョーカーはキックでムスゾン……では泣くマーベラスを蹴り飛ばした。

「ギヤアア!!!!?」

「あ、ごめん間違えた」

「大丈夫か？」

クオヴレーがマーベラスの心配をする。

そしてムスゾンを全て気絶させ、ジョーカーが変身を解除し、その姿を現す。

それは……。

龍の骨さんの所のキュウベえ（ロストドライバー付けて）だった。

『なにしてんのおおおお！！！！？』

殆どのメンバーがツツコミを入れ、驚く。

「なんでお前がジョーカーなんだよ！！」

「つつか今のジョーカー完全に人型で大人サイズだったぞ！！？
どうなつてんだ！！？」

「世の中、そんな細かい事をいちいち気にしちゃいけないよ」

「細かくないから言ってるんだ！！」

マーベラスと恭介が同時にキュウベえに言う。

「テメーこの真っ白白助！！　なに人のもんかっばらつてんだ！！」

そこへユキカゼを連れた翔悟がやってきた。

翔悟はキュウベえの頭を掴んで持ち上げ、ロストドライバーとジョーカーメモリを奪い返した。

「それにしても、みんなしてどうしたでござる？」

「実は……」

ユキカゼと翔悟に事情を説明。

「あゝ、なんだかそんなウイルス何処かで聞いた事あるな。　ちょ

つと待つてる翔太郎の所のフィリップに調べて貰うから」

翔悟はフィリップに連絡し、フィリップの調べによるとこのムスゾンのウィルス「M-ウィルス」は感染すれば顔がムスカとなり、自我を失って人々を襲い、襲われた人をムスカにしてしまうらしく、対抗する為のワクチンには「バルス」と呼ばれる特效薬が必要らしい。

「それなら持つてる」

クオヴレーがバルスの入ったカプセルを取り出した。

「なんでお前が持つてんだ!!?」

「いや、落ちてたのを拾ったんだ。 本能がそう告げてな……」

だが肝心のバズーカがない。

「ああ、それなら俺が……」

恭介が取り出したのは、ギガントだった……。

「それ違っぞおおお!!!!?」

珍しくシグナルマンがツツコム。

「それミサイルランチャーだからバズーカじゃありませんよ。 因みにそれは仮面ライダーG4の武器です」

とアインハルト。

「なんだ」

その後、ほむらがバズーカを持っていたのでそのバズーカにバルスを入れて「バルス！」と叫んでワクチンを発射し、全員元に戻った。

その際ムコゾン達は「目がああああ！！！！？」と叫んぷ。

因みに銀八が……。

「女性の下着が見えるメガネをお前は作ってたよな？ あれ俺にも

……」

『頭冷やそうか？』

「えっ？ なんでお前レイジングハート持って……ギャアアアア！！！！？」

何故かそんな銀八を黒いオーラを纏ったナビィがピンクの杖を構えて桃色の砲撃を放った。

因みに、何故あんなウイルスがあつたのかは不明である。

*

ランとなのはの家では……。

「ねえ、ラン、レイジングハート知らない？」

「んっ？ それならナビィが起き手紙で……」

『レイジングハートを少しお貸くださいなのはさん。 b y ナビィ』

と書かれている起き手紙をランがなのはに見せる。

「なにしようとしてるんだろナビィちゃん？」

キャラ一覧（前書き）

作者

「今回は前書き、後書き、名前のみ、本編に登場したキャラ達一覧を載せるだけです。質問コーナーは除きます」

キャラクター一覧

オリジナル

風上光ノ彦／仮面ライダーディケイド／ウルトラマンディアス

風上龍夜／仮面ライダーダークディケイド／ティガダーク

風上アムイ／ウルトラマンフアクト

風上光牙／仮面ライダーダークキバ

諸星ラン／仮面ライダーゼロ／ウルトラマンゼロ

諸星レイン／ウルトラマンゼロ2

秋山カズキ／仮面ライダーナイト／ウルトラマンネクサス

秋山和音／ガオフレイム／ウルトラマン・ザ・ネクスト

石黒明／仮面ライダーバース／『元』R5

火野エイジ／仮面ライダーオーズ

左翔悟／仮面ライダージョーカー

南爪／仮面ライダータイガ／ウルトラマンネイル

諸星零夜／仮面ライダーデス／ダークゼロ

カツミ・ストラトス／仮面ライダーエターナル／ウルトラマンライガ

千動ミガト／仮面ライダーネオ

野上健／仮面ライダー電王

ガルナ

李ツバサ／仮面ライダーカリス／ウルトラマンイーヴィル

平成仮面ライダーシリーズ

火野映司／仮面ライダーオーズ

アネク

ロスト

ウヴァ

カザリ

メズール

ガメル

伊達明／仮面ライダーバース

左翔太郎／仮面ライダージョーカー／仮面ライダーW ボディサイド

フィリップ／仮面ライダーW ソウルサイド

城戸真司／仮面ライダー龍騎

秋山蓮／仮面ライダーナイト

剣崎一真／仮面ライダーブレイド

橘朔也／仮面ライダーギヤレン

上條睦月／仮面ライダーレンゲル

黒葉ムツキ／仮面ライダーレンゲル

照井竜／仮面ライダーアクセル

海東大樹／仮面ライダーディエンド

ネガタロス

リリカルなのはシリーズ

高町なのは／仮面ライダーブレイド

フェイト・テスタロッサ／仮面ライダーグレイブ

八神はやて

高町ヴィヴィオ

アインハルト・ストラトス

シャマル

セイナ（星光の殲滅者）

ライハ（雷刃の襲撃者）

ネーナ（闇統べる王）

銀魂

坂田銀八（銀時）／仮面ライダーアギト

志村新八

神楽

志村妙

近藤勲

土方十四郎／仮面ライダーグレイブ

沖田総悟／仮面ライダーG3-X

高杉晋介／仮面ライダーミラージュアギト／ドッグオルフェノク

松平片栗粉

桂小太郎／仮面ライダーアナザーアギト

スーパー戦隊シリーズ

キャプテン・マーベラス／ゴークイレッド

ジョー・ギブゲン／ゴークイブルー

ルカ・ミルフィ／ゴークアイエロー

ドン・ドッゴイヤー（ハカセ）／ゴークイグリーン

アイム・ド・ファミーユ／ゴークイピンク

伊狩鎧／ゴークイシルバー

ドギー・クルーガー／デカマスター

漢堂ジャン／ゲキレッド

シグナルマン・ポリス・コバーン

バン／デカレッド

ブライ／ドラゴンレンジャー

ゲキ／ティラノレンジャー

Fate

衛宮士郎／仮面ライダークウガ

セイバー／仮面ライダーブラッククウガ

アーチャー

バーサーカー

ランサー

コードギアス

ルルーシュ・ランペルージ（本名はルルーシュ・ヴィ・ブリタニア）
／仮面ライダー龍騎

枢木スザク／仮面ライダーリユウガ

カードキャプターさくら

木之元さくら／仮面ライダーオーガ

李小狼／仮面ライダーファイズ／ウルフルフェノク／ウルトラマ
ンガイア

ひぐらしのなく頃に

前原圭一／仮面ライダー響鬼

古出梨花／仮面ライダー歌舞鬼

北条沙都子

とある魔術の禁書目録

上条当麻／仮面ライダーカブト／ウルトラマンダイナ

御坂美琴／仮面ライダーガタック

黒子

らき すた

泉こなた／仮面ライダーネガ電王
柊かがみ

ゼロの使い魔

平賀サイト／仮面ライダーキバ
ルイズ

ギーシュ

魔法少女まどか マギカ

鹿目まどか

暁美ほむら／仮面ライダーオーズ

美樹さやか

キュウベえ

DOG DAYS

シンク・イズミ

ミルヒオーレ・f・ビスコッティ

ユキカゼ・パネトーネ

エクレール・マルティノッジ

ボーボボ

ボボボーボ・ボーボボ

首領パッチ

ところ天の助

スタードライバー

ツナシ・タクト

ツナシ・トキオ

ぬらりひよんの孫

ぬらりひよん

ソウルイーター

エクスカリバー

第16話 『あの悪の戦隊登場！でもみんなキヤラ崩壊』（前書き）

あの人気な悪の戦隊が登場！
ですがキヤラ崩壊してます。

第16話 『あの悪の戦隊登場！でもみんなキャラ崩壊』

此処は悪式学園……、取り合えず一言で言うなら……。

「さあ、アニキ、新しい兄妹を探しに行きましょう……」

完全に地獄に堕ちたメズールが矢車と影山の妹になってこの学園に転校してきていた。

「メズールが地獄兄弟に仲間入りした！！？」

仮面ライダーオーガの木場がツツコム。

後、他に……。

「ゾクレッド！！」

「ゾクブルー！！」

「ゾクグリーン！！」

「ゾクイエロー！！」

「ゾクピンク！！」

『暴走戦隊！！ゾクレンジャー！！！！』

とまあ「カーレンジャー」に登場した悪の戦隊「ゾクレンジャー」が意味も無く名乗りをあげたりしていると仮面ライダーリュウガの裏・城戸が一言。

「チェンジで」

『どついう意味だコラァー！！！？』

続いて「メガレンジャー」に登場した悪の戦隊の「ネジレンジャー」達は……。

「と言う訳、メガレンジャー打倒のため作戦会議を行うぞおおおおー！！！！」

ネジレッドがやけにテンション高めにメガレンジャー打倒の為、作戦会議を行おうとしたら……。

「俺以外、誰もいねえ……」

ネジレッド以外誰もいなかった。

まあ、要するに……だっ……歴代悪の組織や悪の仮面ライダー、悪の戦隊などが集まった学園なのだ此処は。

因みに校長はあのヘタレ殿下。

「誰がヘタレ殿下だ作者！！？」

「というか俺以外のネジレンジャーはどうしたああああ！！！！？」

そこでネジレッドは発して他のネジレンジャー達を探しに行った。

ネジブルーをまず探しに行ったネジレッド。

「あっ、いた！」

ネジブルーの姿は発見出来たが、何故か真の姿のネジビザールになっており、川を冷気で凍らせていた。

「スケート場を俺の冷氣で作るんじゃああああ！！！」

「そんなどうでも良さげな理由で力使うなあああ！！！」

ネジレッドも真の姿のネジファントムになって踵落としてネジビザールの気を失わせた。

「おぐう！！？」

その後、2人ともネジレッド、ネジブルーに戻り、ネジレッドはネジブルーを引きずって一旦学園に戻り、ネジブルーを飼育小屋に閉じ込めた。

「なんで飼育小屋！！？」

ネジブルーの言葉は無視して次はネジブラックを探しに行くネジレッド。

ネジブラックを探して街をネジレッドが歩いていると……。

「「ウツギアアアア！！！！？」」

「んっ？」

突然叫び声が聞こえるかと思えば何故か空から槍が降ってきており、その槍は全てマーベラスとネジブラックに向けて降っていた。

降り注ぐ槍から逃げてる途中、ボーボボの顔をした車にネジブラックとマーベラスがはねられる。

「ひき逃げアタック」

「「ゴフッ！！？」」

ボーボボも手加減したのか2人とも大した怪我は無くすくつと起き上がった。

「「こんのひき逃げアフロオオオオオ！！！！」」

キレたネジブラックとマーベラスはすぐにボーボボを追いかけて行った。

「あいつは後回しにしよう」

ネジレッドは次にネジイエローを探しに行ったのだが……。

「アハハハ！！！！ 女王様とお呼び！！」

薄暗い一通りの少ない場所で鞭で男性の尻を叩いてSプレイしてた。

「見て無い……、俺はなにも聞いて無い……」

ネジイエローも後回しにしてネジピンクを探しに行くネジレッド。

「離せネジレッド！！！！ わたしゃアイドルになるんじゃない！！！！」

「無理無理無理！！ お前鏡見て見る！！ 後真の姿になっても鏡見て見る！！ やめておけって！！」

現在ネジレッドがネジピンクを抑えつけてる所であり、ネジピンクがアイドル事務所に自分を売り込もうとしていた所をネジレッドが発見し、今に至る。

だがネジピンクの意思が固く、ネジピンクは事務所に行き売り込んで来て、数分後事務所から出てきたネジピンクにネジレッドが「どうだった？」と聞くと……。

「受かったぞ」

「受かったんかいいいい！！！！？」

取り合えずなんやかんやでネジレッドは他のメンバーを連れてきて作戦会議をしようとしたが……。

「アレ？　なんの会議するんだっけ？」

ネジレッドが会議内容を忘れていた。

『ダメじゃん！！』

とネジレッド以外のネジレンジャーからツッコまれた……。

「ああ、そうだ、メガレンジャー打倒だったな！」

（うわ、思い出したよ）

「なんか言ったかネジブルー？」

「いえ……」

ネジレッドから黒いオーラが見え、それにビビったネジブルー。

「ならば俺達もやらせるパパ〜ン！！」

ネジレンジャーの作戦会議にゾクレンジャーが入ってきた。

「協力してカーレンジャーとメガレンジャーを倒すパパ〜ン！！」

ゾクレッドがそう提案するがネジレンジャーは全員ゾクレンジャーにこう答えた。

『チエンジで』

『だからどういう意味だコラア!!?』

翌日、メガレッドの健太、メガブラックの耕一郎、メガイエローの千里、メガブルーの瞬、メガピンクのみくのメガレンジャーの5人とレッドレーサーの恭介、ブルーレーサーの直樹、グリーンレーサーの実、イエローレーサーの葉摘、ピンクレーサーの洋子が果たし状を渡され、ある場所に来ていた。

「つて今時果たし状って……」

「なんだろうな？ 俺達カーレンジャーとメガレンジャーに決闘挑む奴……」

上から健太と恭介が喋り、ネジレンジャーとゾクレンジャーがやってくる。

「ゾクレッド!!」

「ゾクブルー!!」

「ゾクグリーン!!」

「ゾクイエロー!!」

「ゾクピンク!!」

『暴走戦隊!!! ゾクレンジャー!!!』

「ネジレッド!!」

「ネジブラック!!」

「ネジブルー!!」

「ネジイエロー!!」

「ネジピンク!!」

『邪電戦隊!! ネジレンジャー!!!!』

そしてゾクレッドとネジレッドが声を合わせ……。

「我等!!」

『悪のスーパー戦隊!!!!!!』

と名乗りをあげるとバックが爆発し、メガレンジャーとカーレンジャーの面々は全員揃って一言。

『誰?』

その言葉にネジレンジャーとゾクレンジャーが全員ずっこける。

「忘れたのかメガレンジャー!!!? ゾクレンジャーは兎も角俺達ネジレンジャーは何度もお前等と戦って苦しめた敵だろうが!!」

そこでメガレンジャー達は「ああ」っと思いだした様な顔をする。

「カーレンジャー!! お前等も俺達の事忘れたのかパパン!!」

カーレンジャー達は一斉に「うん」と頷く。

「まあ、やるからにはやってやるぜ!!」

『インストール!! メガレンジャー!!!!』

『激走!! アクセルチェンジャー!!!!』

健太達と恭介達はメガレンジャーとカーレンジャーにそれぞれ変身。

「メガレッド!!」

「メガブラック!!」

「メガブルー!!」

「メガイエロー!!」

「メガピンク!!」

『電磁戦隊!! メガレンジャー!!!!!!』

「レッドレーサー!!」

「ブルーレーサー!!」

「グリーンレーサー!!」

「イエローレーサー!!」

「ピンクレーサー!!」

『戦う交通安全!! 激走戦隊!! カ・・レンジャー!!!!』

そしてメガレッドとレッドレーサーがそれぞれ声を合わせ……。

「我等!!」

『スーパー戦隊!!』

最後に全員で名乗りをあげた。

そして戦いが始まるかと思っただら……。

「ごめん、やっぱりスケート場作りたいから帰る」

そう言っただけで全速力で逃げるネジブル。

「おいしい!!!!? どんだけスケート場作りたいんだあいつ!!?
ていうか早ッ!!?」

「私もSプレイしたいから抜ける」

「そんな今で無くても良いだろうが!!」

ネジレッドの言葉を無視してネジイエローも去り……。

「ああ、私もアイドル活動の仕事の依頼が入ったから抜ける」
「はぁ！！？」

ネジピンクも去り……。

「俺も詰らなくなったから帰る」

「なんでお前だけそんな理由なんだよ！！？」

結局、ネジレッドとゾクレンジャーしかいなかった。

「俺達も帰るか……」

そう言って残りのメンバーも帰って行った。

「結局なににきたんだあいつ等？」

レッドレーサーがそう言ったのだった。

『ピピーッ！！』

「コラー！！ 本官に許可なく勝手に戦おうと……してない？」

とシグナルマンがやってきたが一同は気にしなかった。

第16話 『あの悪の戦隊登場！でもみんなキャラ崩壊』（後書き）

ゾクレンジャーファン（ファンいるのか？）、ネジレンジャーファンの皆さん、申し訳ありませんでした！

因みにネジイエローですが、彼女は「女王様口調」という事であんな感じになりました。

第17話 『あまりにも暇すぎて、浅倉がきてくれました！』

ある日の事……。

「メズール何処〜!!?」

ガメルがメズールを探して校舎はぶっ壊しまくっていた。

「おわあああ!!! 落ちつけガメルー!!!」

ウヴァとカザリが必死になってガメルを抑えつけようとしたがガメルの突進攻撃で2人ともぶっ飛ばされてしまった。

「「ぎゃああああ!!!?」」

メズールは悪式学園に入学し、矢車と影山の妹になった為今此処にはいない。

因みにその頃悪式学園では……。

「あはは……、良いわよねえ、あいつ等は、私折角復活したのにあんまり活躍せずオースの坊やにコアメダル砕かれて……。カザリは出過ぎだしウヴァも明らかに私より出てるんじゃないの？ ガメルは別として」

とやさぐれていた。

場所を戻し。

「まずいね、メズールを戻さないとガメルずっとこのまま暴走してるよ……」

とカザリがウヴァの方を向くと……。

○<このままでは済まさん！

何故かクワガタメダルだけになっていた。

「なんでッ！！？」

*

「まああいつ等は放っておいてだ……。今日なにする？」

K組で暇を持て余したマーベラスが今この場にいる人達に聞いてみる。

「不幸属性発動したら面白いかもねえ、マベちゃん」

とバスコが提案したが……。

「よし、テメーは屁怒呂の家に今すぐ大砲でブチ込んで酷い目にあつて来い」

と言ってマーベラスがバスコを大砲に突っ込んで屁怒呂の家へ目掛けて発射しようとする。

「えっ？　ちょ、嘘だよなマベちゃん……！」

「この間の仕返した、さあ逝って来い……！」

「字がちが……ぎゃあああああ……！！！」

そのままバスコは屁怒呂の家まで飛ばされましたとさ、

「暇だな、いつその事『リリカルレジエンス』のシロンはロリコンっていう噂でも流すか？」

「誰がロリコンだって……？」

マーベラスの頭にアイアンクロウを喰らわせる「レジエンス」の「ウインドラゴン」状態のシロンがいた。

「いででで……！！？　　嘘嘘、冗談！」

「んっ？」

すると一真が窓から外を見るとそこには……。

「むしゃむしゃむしゃ……」

脱獄犯の「仮面ライダー龍騎」の「浅倉武」が泥を食べていた。

「ぎゃあああああ……！！　　朝倉がいる……！！！！！」

浅倉武、それは家族だろうが誰だろうが殺す事を戸惑わない、さらにイライラするという理由だけで関係無い人をボコボコにする凶悪

な人間である。

いや、もう彼は人間とは呼べないかもしれないが……。

泥を食べ終えた浅倉は不気味な笑みで紫のコブラの様な「仮面ライダー王蛇」に変身。

「此処にすれば強い奴等と戦えるんだろう？ 戦えよ、俺と……」

王蛇は腰にあるカードデッキから3枚のカードを取り出し、蛇の形をした「ベノバイザー」にカードを装填。

『アドベント』

『アドベント』

『アドベント』

すると蛇のモンスター「ベノスネーカー」サイのモンスター「メタルゲラス」エイのモンスター「エビルダイバー」が出現し、暴れまくる。

「コラー！！ テメー此処でなに暴れてんだ！！ 良いか！！ この首領パッチ様が相手してやるから有り難く……」

と言い切る前にベノスネーカーの吐いた毒液が首領パッチにかかり、首領パッチが溶けて行き最終的に、種になった。

「種になったあー！！？」

近くにいた「ボーボボ」のキャラの「ビュティ」がツツコミを入れる。

「飢えてください……」

そついう首領パッチだが王蛇に踏みつぶされた。

「ぎゃあ!!?」

「詰らん……」

その時……。

『シユートベント』

機械的な緑色の「仮面ライダーゾルダ」が現れ、ギガランチャーという大砲で王蛇を撃ち、王蛇は吹き飛ぶ。

当麻を巻き込んで……。

「不幸だあー!!」

「北岡あ!!」

王蛇はゾルダに向かって行き、戦いを挑む。

一方、その頃、ベノスニーカーが蛇が苦手な映司の所に行っており……。

「蛇はいやあああああ!!!!」

変身もしてないのに地面に手をつ込んでメダガブリューを取り出し、メダガブリューをベノスニーカーに投げてベノスニーカーの頭に突き刺さる。

「ギシャアアアア！！！！？」

これを見ていた人達はベノスネーカーに対して「可哀想に」と思ったとか。

*

「さつさと裁判しに行こうよ、死刑してあげるからさ」

ゾルダが銃型の武器の「マグナバイザー」で王蛇を撃ちまくるが王蛇は素早い動きで避ける。

「折角だが遠慮しておこう……」

『ソードベント』

王蛇は剣型の武器「ベノサーベル」を持ってゾルダに飛びかかり、ゾルダを斬りつける。

「ぐわっ！？」

*

その頃エビルダイバーとメタルゲラスは学園内で暴れていたのだが……。

「学校で暴れるな」

と「まよチキ！」の「近衛スバル」が張り手でメタルゲラスとエビルダイバーをぶっ飛ばした。

「グギヤアアア！！！！？」

「なにiiiiiiii！！！！？」

もとよりスバルにはこれくらいの戦闘力がある。

*

「そろそろ決めようか？」

「望む所だ」

『ファイナルベント』

王蛇もゾルダも必殺技を発動。

ゾルダの前に機械的で牛の様な顔をしたゾルダの契約モンスター「マグナギガ」が現れ、その背中にマグナバイザーを当て、マグナギガのの身体が開き、「エンドオブワールド」を発動させる。

王蛇の元に、頭から黄色い血を流してベノスネーカーがやってきたが王蛇は特に気にせず、飛び上がって空中からベノスネーカーの毒液を放つ勢いに乗せて連続蹴りを繰り返す「ベノクラッシュ」を発動。

だが……。

「蛇いやあああああ!!!!」

『プットティラーノヒツサーツ!』

何故かプトティラコンボの時しか使えない筈のメダガブリューバズーカモードから放つ光線、「ストレインドウム」で王蛇とゾルダを同時に吹っ飛ばした。

「セイヤー!!!!!!」

「ぎゃあああああ!!!!?」

その後、メタルグラスとエビルダイバーがスバルに懐いてしまった為、2匹はスバルのペットになったとか……。

第18話 『ペット自慢大会、でもまともなペットいねえ!』（前書き）

ウヴァの事はこれからウヴァさんと表記します。

第18話 『ペット自慢大会、でもまともなペットいねえ!』

この日、学園で生徒や教師のペット自慢大会が体育館で行われていた。

「この学園、なんでもするよなあ」

そう言うのは青い髪にメガネをかけた男性「坂町近次朗」、チキン野郎だ。

「チキン言うなああああ!!!」

まず、最初にスバルが出てくる。

あ、リリなのの方じゃ無くて近衛スバルの方ね。

「えっと、僕のペットは……この子達です」

そう言って出てきたのは、ドラグレッダー、ドラグブラッカー、ボルキャンサー、ダークウイング、マグナギガ、エビルダイバー、メタルガラス、ベノスネーカー、ゴルドフェニックス、デストワイルダー、ブラウンウイング、アビスドン、ギガゼール、バイオグリーザというモンスター達だった。

「ってミラーモンスター!!? お前、近衛!! しかもそれ龍騎ライダーズのミラーモンスターじゃねえか」

近次朗、通称ジローがツツコミを入れる。

「ついでに俺は餌じゃねえって賤けてくれねえかな？」

ボルキャンサーに頭かじられてるマーベラス。

「マーベラスさああん！！！！？」

鎧が必死になってボルキャンサーをマーベラスから引き離そうとしていた。

「上等じゃねえかこのカニ野郎、カニ味噌ご飯にしてやらああああ！！！！」

キレたマーベラスだがスバルは生身シザースアタック（というかスバルアタック？）でそんなマーベラスを撃沈した。

「僕のペットをそんな風にさせないよ」

「なあ、涼月？」

「なにかしらジローくん？」

ジローの前には「まよチキ！」の「涼月奏」は首輪を持ってジローに詰め寄っていた。

「なんだその鎖は？」

「だってあなたは私の犬でしょ？」

「犬じゃねえよ！！ 雑用で雇って貰っただけだろうが！！」

次にほむらが……。

「ほむらちゃんなんかペット飼ってたっけ？」

まどかが首を傾げ、ほむらが連れて来たのは……。

キュウベエの死骸だった。

「なんつーもん持ってきてんだあいつはああああ……!!」

さやかが叫ぶようにツツコミ、まどかは啞然。

「あいつ、どんだけキュウベエに対してドSなんだ？」

「まどかに近づく虫を排除しただけよ」

ほむらがそう答えるとウヴァさんが一瞬「ビクッ!」と振るえたが……。

「アンタじゃないから大丈夫だよ」

とカザリに言われるウヴァさん。

「この虫けらが」

突然そんな事を言い出すウヴァさん。

「どうしたの？」

「なんか言いたくなりました」

「うわ、ウヴァに『』とか似合わねえ!!」

んっ？ この間ウヴァさんメダルだけにされたんじゃないかって？

3分待ったら自力で復活しましたけどなにか？

「カップめん!？」

「てかウヴァさんスゲー!!」

上からジローがツツコミ、その次に「レジェンズ」のウォルフィーが凄いいと言い出す。

因みに、ウヴァはあまり女子に人気が無い。

何故かって？ 虫だから。

この間など、セルメダル足りないのでヤミー作ったらゴキ○リヤミーが誕生してそれも原因でかなり女子に嫌われている。

「アンタは良いわよねえ、グリードの中でも人気があつて」

今一瞬メズールの声が聞こえた気がしたか気にするな！

次にペットを紹介するのにでてきたのは、いかにもバカそうな少年レジェンズの「シュウゾウ・マツタニ」通称「シュウ」である。

「ペットっつーか、ほい、これが俺のペット、かな？」

シュウは懷から白い帽子を被ったネズミを取り出す。

「ガガツ？ ガガガガ!!!(つておい誰がペットだ!!)(」
『きゃああああ可愛い!!!!!!』

女子生徒から人気の白いネズミ「ウィンドラゴン・シロン」。

なにやらシュウの頭の上で騒ぐシロン。

「あ、カムバックしろって？ シロン、カムバック。 リボーン
！！」

「タリスポッド」と呼ばれるアイテムを取り出したシュウは「カムバック」と叫ぶとシロンは「ソウルドール」というクリスタルになり、タリスポッドにはめ込まれ「リボーン」と叫ぶとあのねずみは白い竜本来の「ウインドラゴン」としての姿になった。

シロンはシュウの頭を掴み……。

「おい、誰がペットだって風のサーガ、ああん？」

シュウを近くで凄じ睨むシロン。

「すすすす、すいませんでしたー！！！！」

次にマーベラスが……。

「ペットのナビィ『スターライトブレイカー！！！！』ぎゃあああ
ああ！！！！！！？」

ナビィが口から「スターライトブレイカー」をマーベラスに放った。

「口からスターライト放ったあー！！！！？」

とラン。

「ねえ、光」

フェイトが突然光の名を呟く。

「んっ？」

「私、インターネット番組やりたくなってきた」

「なに言ってるの!!!? 今関係無いよね!!!?」

「おもしろければなんでもOKなやつ」

そこで光は気付いた。

「中の人ネタか……」

と……。

そして最後にペットを紹介するのは……。

「大怪獣バトル」の主人公「レイ」だった。

「まさか……」

「行け、ゴモラー!!」

『バトルナイザー、モンスロード!』

「古代怪獣ゴモラ」を召喚するレイ。

「おわああああ!!! それペットじゃなくねえええ!!!?」

「つかゴモラデカ過ぎて体育ギユウギユウ詰めんだけどおおお
お!!!!!!?」

ゴモラがデカ過ぎて今にも体育館が壊れそうだった。

因みに、ゴモラの足には首領パッチと天の助と田楽マンが踏まれて

いたとち……。

第18話 『ペット自慢大会、でもまともなペットいねえ!』（後書き）

ウヴァさんは復活の天才だと思うんだ……。

因みにフェイトがやりたいインターネット番組ってなにか分かりますか？

第19話 『オースの暴走』（前書き）

暴走と言ってもギャグ的な意味で（笑）

そして再び「彼」に会えたら多分嬉しいアイツも登場。

第19話 『オーズの暴走』

「うわあああん!! アンクうううう!!!!」

映司がオーズタトバコンボ（ロストコア）に変身し、オーズ本編でアンクはいなくなった事で暴走していた。

「オーズの暴走か!？」

「なんか上手い事言つたみたいな顔すんな昆虫野郎」

上からウヴァさんとマーベラスが喋り……。

オーズは片っ端からメダジャリバーやトラクローであちこち切裂きながら暴れまくって……取り乱していた。

「アンクうううう!!!! なんでコアにヒビがあるの教えてくれなかったんだああああ!!!! セイヤアアア!!!!」

『トリプル! スキヤニングチャージ!』

必殺技オーズバッシュを炸裂させながら走って行くオーズ。

「僕と契約して魔法少女に『セイヤああああ!!!!』 ぎゃああああ!!!!?」

今キュウベえがいた様な気がしたが気にするな!

「嫌いじゃ『セイヤああああ!!!!』 ああん、嫌いじゃないわ!!!!!!」

今、泉水水がいた気がしたが気にするな！

「やつくん、ママのお乳飲みましようね」

やつくんという名前の不気味な人形を持ちながら首領パッチが母親の真似ごとをしているが……。

「セイヤああああ！！！！」

オーズがメダジャリバーでやつくんの首を切り落とした。

「や、やつくんんんんん！！！！！！！！！！」

絶叫を上げ、首領パッチをオーズに掴みかかろうとする。

「オラアアアア！！！！ テメー俺のやつくんどうして……」
「スキヤ ニングチャージ！！」

「セイヤああああ！！！！」

必殺キックのタトバキックが首領パッチに炸裂した。

「ギヤアアアアア！！！！！！！！」

爆発が起こるがそこに「オーズ」のDr・真木……では無く、真木のコスプレをしたボーボボが現れ、メダルらしきものを爆発した個所に投げると首領パッチが復活。

正し、ウヴァのコスプレをしている。

「感謝するぞ、ドクター！！」

「なにしてんだあああ!!!!」
『ライトニングソニック』

仮面ライダーブレイドに変身した一真がライトニングソニックという必殺キックをボーボ達に炸裂させた。

「ウギヤアアア!!!!?」

サイトや圭一や土郎などが止めようとしたは良いが、やはり止められず、土郎はセイバーに映司を止める様に言ったのだが……。

「あひよにしてくだしい（後にしてください）」

セイバーはあるシリーズのインデックスや神楽と一緒に食堂で色んな食べ物を食べまくっていた。

「今やる事かそれええええ!!!!」

「ガルナ、ハイパーカブトガルナフォームで止められねえかな?」

「やめておけ当麻、不幸属性発動する可能性大だぞ」

当麻とガルナはそんな会話をしており、映司以外にもアंकが死んでしまった事にショックを受けて暴れているオーズがいた。

「うわあああん!! アंकウウウウ!!!!」

『コブラ! カメ! ワニ! ブラカ! ワニツ!』

オーズブラカワニコンボに変身した誰かは映司オーズ同様暴れまくる。

「あのオーズ誰!? エイジでもほむらでも無いし……」

ビュティが言い、そこへボーボボが田楽マンを連れてやってくる。

「ぐっ、だがこつちには鉄壁のガードがあるぜ」

「えっ！？ それって……」

映司オーズがこちらに向かって来る。

「来たああああー!!」

「心配するな、ビュティ、鼻毛真拳奥義……、『可愛さガード』！
！」

「のらっ」

ボーボボは可愛い表情の田楽マンを盾に使った、だが……。

「ム力つくから田楽ショットー!!」

田楽マンを映司オーズに投げ飛ばした。

「ノラアアアー!!!!?」

「邪魔だああああー!!!!」

バシんつと弾かれてそのままマーベラスに直撃した後、窓を突き破って田楽マンは4階から落下。

「ぐふっ!?!」

ボーボボは苦い顔をしてどうすればオーズを止められるのか考える、そこへ……。

「俺に任せてください、ボーボボさん!!」

彼等の前に現れたのはつけものだった。

「俺に良い方法があります!!」

「ホントかつけもの!!」

「はい、俺に任せてください」

正直、ビュティはつけものがやろうとしてる事に不安があった。

「よし、お前に任せるぜ。ただしつけもの、テメーはダメだッ!!」

そう言つてボーボボはつけものを蹴り飛ばし、オースブラカワニに直撃させた。

「ええええ!!!!?」

「ぶっつ!!!!?」

その際ブラカワニの変身が解け、装着者の正体が明らかに……。

ゼロディアス
作者だった。

『ってオメーかよおおお!!!?』

近くにいた全員がツツコミを入れた。

「なんで出演してんの作者が!?!」

「だってアंक好きなんだよ!!! アंकウウウウ!!!」
「おい誰かこいつ黙らせろ」

当麻がそう言い、そこへ照井がやってくる。

「アंकなら此処だ、受け取れ!」

と言ってアंकを放り投げた。

正しロストの……。

「おめえじゃねええええ!!」

かかと落としをロストに決めるオーズ。

「ぎゃーびー!？」

だがそこへまた新しく誰かがやってくる。

「テムエラアアア！！！！ 勝手に俺を殺してんじゃねええええ！！！！ この小説ではまだ生きてるわ！！！！」

それは紛れも無く本物のアंकだった。

「アंक？ アंकウウウウ！！ 良かったよおおお！！」

因みに何故アंकがいなかったかというところ……。

*

今朝。

「おっしや今日の晩飯は焼き鳥だああああ!!!!」
「うわ!?!? なにするやめ……」

ボーボボがアंकを捕えてそのままアフロの中に閉じ込められ、今さっき自力で抜け出したのだ。

*

現在。

「
テヘ」
『つてオメーが原因かあああ!!!!』
』

第20話 『珍しくバトル中心だけどギャグも入れて青春スイッチ、オンで宇宙』

今回は中の人ネタ多いです（笑）

第20話 『珍しくバトル中心だけどギャグも入れて青春スイッチ、オンで宇宙』

「僕が主役の『仮面ライダーディケイド』異界の旅」と『リリカルなのはHEROS』と『仮面ライダーオーズvivid 魔法と欲望と奇跡の力』をよろしくお願いします！」

「俺が主役の『ウルトラマンゼロStrikers 超銀河大決戦』をよろしくな!!」

「俺もするのか? 『魔法少女まどか マギカNEXUS』をよろしく」

「『海賊戦隊リリカルゴーカイジャーSTSもよろしくな! ド派手だからよ!! 因みにこつちだと俺不幸じゃねえから!!」

「こつち更新遅いけど『ゼロの使い魔 破壊の後継者』をよろしくお願いします!」

「しばらく更新されてないけど『DOG DAYS』銀色の巨人と百獣の戦士』もヨロです」

上から光、ラン、まどネク、ヒメヤ、マーベラス、光牙、和音と喋って行き、それぞれが主役の作品の宣伝をした。

「っていきなりなんで宣伝!!?」

新八がそう尋ね、光が答える。

「いや、なんというか多分読者で『誰? こいつ?』『なんでフェイトと付き合ってるの?』とか思ってる人がいる可能性があるんで、この作品のキャラという事を教えようと思って……。因みに僕はHEROSの方です」

その時……。

「おわわわ！！！？」

ロケットモジュールを装備した白い「仮面ライダーフォーゼ」が突然飛んで来てマーベラスの頭に直撃。

「ギヤアアアア！！！？」

「あー、悪い！！！」

*

その後、マーベラスはガレオンへ帰る途中、何故か空からT2ガイアメモリが降って来て偶然にもマーベラスの体内に入ってしまった。T2ドーパントに変身してしまった。

「つておい！！　なんでT2メモリが！！？」

「絶望がお前のゴールだああああ！！！！！」

「ウギヤアアアア！！！！！？」

いきなり照井の変身した仮面ライダーアクセルの必殺技「エースラッシュ」を喰らったマベちゃんドーパントはメモリブレイクされてマーベラスは元の身体に戻った。

それからなんとかマーベラスはガレオンに帰り、翌日の事。

ゴーカイメンバーは「あけぼの町」という街にやってきた。

昼飯を食べる為に……。

今日は学園は休みである。

「ここに美味しいコロッケ屋があるんですよ!!」

鎧の案内で此処へ来たのだが、突然1つめの紫の怪人「遣い魔」が現れ人々を襲い始めた。

「なんだあいつ？」

「あれって確かジャマンガですよ!!」

「変なの出たな……」

5人はそれぞれモバイレーツとレンジャーキーを、鎧はゴーカイセ
ルラーとレンジャーキーを取り出す。

『豪快チェンジー!!』

『ゴーカイジャー!!』

6人はゴーカイジャーに変身。

「ゴーカイレッド」

「ゴーカイブルー」

「ゴーカイエロー」

「ゴーカイグリーン」

「ゴーカイピンク」

「ゴーカイ……シルバー!」

「海賊戦隊！！」

『ゴークアイジャー！！！！』

ゴークアイシルバー以外はゴークアイサーベルとゴークアイガンを取り出し、ゴークアイシルバーはゴークアイスパイクという武器を取り出す。

「派手に行くぜ！！」

ゴークアイレッドはゴークアイサーベルとゴークアイガンで次々遣い魔を倒して行き、ゴークアイブルーは2本のゴークアイサーベルで遣い魔達を切裂きまくる。

ゴークアイイエローも2本のゴークアイサーベルを使い、ワイヤーで刃を伸ばして遣い魔を切裂く。

「『キジャー！！！！？』」

ゴークアイグリーン、ゴークアイピンクはゴークアイシルバーを援護する様な形で遣い魔を撃ちまくり、ゴークアイシルバーはゴークアイスパイクで遣い魔を斬りつけまくる。

「ギンギンに行くぜ！！」

だがその時、3人の戦士が現れる。

「ゴッドリュウケンドー！！」

「マグナリュウガンオー！！」

「リュウジンオー！！」

「『ライジン！！！！』」

「鳴神剣二」という男性が変身したゴツドリユウケンドー、「不動銃四郎」という男性が変身したマグナリユウガンオー、「白波鋼一」という男性の変身したリユウジンオーと呼ばれる戦士達が現れ、遣い魔達と戦い始めた。

「ダブルショット!!」

「ギャアア!!!? 何処撃ってんだ!!!?」

遣い魔を撃とうとしたが誤って遣い魔もろともゴーカイレッドも撃つ所だった。

「あ、すまん。見えなかったもんで……、遣い魔が邪魔で」

ゴツドリユウケンドーが遣い魔1体を殴り飛ばすとその遣い魔はゴーカイレッドの後ろ頭に直撃。

「あ、ヤベッ!」

「ぐふ!? 今度は誰だ!!!」

「この人がやりました!!!」

ゴツドリユウケンドーはある場所に指をさす。

「擦り付けた!?!」

そしてゴツドリユウケンドーの指差す場所には……。

「アハハハハ!! 俺ともっと戦えよお!!!」

海外版仮面ライダー王蛇である「仮面ライダーストライク」が暴れていた。

さらに……。

「っておいしいiiiiiiii!!!! なんだこの姿!!!? なにコレホワイ?
? どうなってんだ!!!? 俺の身体プリーズ!!!!!!」

そこにはゴーカイジャーに登場したキアイドールがなにやらキャラ崩壊(?)を起こしていた。

「なんだこの格好は? これじゃ遊べないじゃないか……!!!!」

銀八も現れてなにやら様子がおかしい。

実は行動隊長レガエルの能力により、キアイドールがストライクモとい「JTCになり、銀八がキアイドールになり、JTCが銀八になったのだ。

「訳分からん!!! ややこしい!!!」

因みにレガエルの起こした事件はこれだけじゃなかった。

『うわああん!!! ラーン!!! ナビイになっちゃった!!!』

なのはがナビイになってナビイがなのはになったりして、ナビイになったなのはがランに飛び付いた。

「おいおい、つうか違和感ねえ!!!」

他には「仮面ライダーディケイド」の「芦川シヨウイチ」と「仮面ライダー響鬼」のキラメキなど。

「顔が一緒だからそれでも生きてけるんじゃない!!?」

新八が言い、その頃レガエルはというと……。

「オラアアア!!!!」

ロケットモジュールでのパンチをレガエルにフォーゼが決めていた。

「ぎゃあ!!?」

「タイマンはらせて貰うぜ!!」

フォーゼはロケットモジュールを使って空中へ飛び、フォーゼドライバーについている「アストロスイッチ」の1つを押す。

『ドリル・オン』

左足にドリル、『ドリルモジュール』が装備され、フォーゼドライバーのレバーを引っ張る。

『ロケット・ドリル・リミットブレイク』

「へへん、ドリルは男の魂だあああ!!!!」 ロケットドリルキイック!!!!」

必殺キックをレガエルに決めたフォーゼ、レガエルは叫びをあげて爆発を起こした。

「ぐわあああ!!!!?」

「へへ……、宇宙キター……!!!!」

*

そのまた翌日、S組に嵐を呼ぶ転校生がやってくる！！

「俺の名は如月ケンタ！！　そんでもって、仮面ライダーフォーゼ
！！　夢はこの学園の生徒全員と友達になる事だ！！　よろしく！
」

因みに彼の出てる作品は「仮面ライダーオーズvivid」だ。

ケンタは転校生なのだが、転校初日から「仮面ライダー部」という部活を立ち上げりしたとか……。

「謎の敵、ゾディアーツと戦え！！　仮面ライダーフォーゼ！！
青春スィッチ、オン！！」

とか「グレンラガン」のヴィラルが言っており、気配を感じ後ろ見ると「グレンラガン」のカミナが「なにしてんの？」という目で見ていた。

その後、ヴィラルが手を顔に当ててなにか泣いていた。

「仕方ないだろ、俺フォーゼのナレーターなんだから」
「いや、その、悪かったよ。　なんか色んな意味で」

次回も青春スイッチ、オン！！

第21話 『ディケイドスピオンオフ見たいな事してみた、後仮面ライダーのま

今回は、「リリカルなのはHEROS」のキャラ&これから登場予定のキャラを中心にディケイドのスピオンオフ見たいな事をやる事になった為、光やフェイトが9歳に戻っており、早速始める。

「うわあああん!!!」

「いきなりどうしたあああ!!!?」

いきなりフェイトが泣きだすので思わずびっくりしてしまうウルトラマンネクサス&仮面ライダーブレイドである「孤門^{こもん} カズマ」とウルトラマンダイナ&仮面ライダーアギトの「アスカ ショウイチ」である。

「どうしたフェイトちゃん? 飴上げるから泣きやめよ」

ショウイチがフェイトに飴をあげようとするがフェイトは首を横に振る。

「光が、光が帰って来て欲しいの!!! うええええん!!!」

現在光は「リリカルなのはHEROS」の9つの世界を1人で旅してる為。

するとフェイトの肩をディケイドに変身した「門矢 士」が叩く。

「ふえ?」

「そんな時は、『帰ってきたウルトラマン』こと『ウルトラマンジャック』に変身だ」

「アンダナニツデンドー!?」

「活舌悪いなカズマ……」

因みになぜジャックかと言うと「帰ってきた」とタイトルにあるから。

「右手を天に上げる! それだけすれば変身出来るぞ。さあ、やってみろ!」

「えっと……、こっつ?」

「いややらんでいいいい!」

フェイトが言われた通りにするとウルトラ兄弟4番目の戦士「ウルトラマンジャック」に変身した。

「やった! 変身出来た!」

「「どういう理屈で!」」

するとそこに怪獣「スノーゴン」が現れた。

「きゃあああ!?!? この怪獣一度ジャックを氷漬けにしてバラバラにした怪獣でしょおお!?!? もしかして私こいつと戦うのおおお!?!?」

ジャックがデイケイドを見るとデイケイドはサムズアップ。

「ウルトラマンになったが最後、ちゃんと地球を最後まで守らないとな」

「ウルトラブレスレットで復活するとしてもそんな相手と戦うのはいやあああ!?!?」

『ファイナルアタックライド・デイディディアス!』

なにか巨大なディメンションキックがスノーゴンに炸裂し、スノーゴンはかなりの距離まで吹き飛ばされた。

『アタックライド・インビジブル!』

「アレ!!!? 今光いなかった!!!?」

*

その2。

「ほむらちゃんとさやかちゃんってなんで何時も喧嘩するんだろ? 喧嘩するほど仲良いのかな?」

まどかが今言った台詞の事で悩んでおり、傍にはウルトラマンガイ&仮面ライダー龍騎の「高山^{たかやま}シンジ」と仮面ライダー響鬼&ウルトラマンマックスの「トウマ・アスム」がいた。

「まあ、喧嘩するほど仲がいいんじゃないか?」

「そうそう」

上からシンジとアスムが喋り、そこへディケイドがまどかの肩を叩く。

「えっ？」

「そんな時は、仮面ライダー龍騎に変身だ！」

「龍騎いるんですけど此処に」

「ああ、だからお前のカードデッキを勝手に拝借させて貰った」

「おい！！？」

デイクイドはまどかに龍騎のカードデッキを渡す。

「いいか？ まずデッキを鏡に向かってかざす」

「えっと、はい！」

言われた通りにまどかがすると彼女の腰に銀色のベルト「Vバックル」が装着。

「そして仮面ライダー一号を意識したポーズでデッキをバックルの中央に装填して変身だ」

「は、はい！ 変身！！！」

言われた通りにまどかがやるとまどかは仮面ライダー龍騎に変身。

「そして最後に右拳を口元まで持って行き『っしゃ！』と声をあげる！」

「えっと、っしゃ！」

「だからやらなくて良いって……」

すると目の前にあった鏡に龍騎が吸い込まれてしまった。

「きゃあ！！？ な、なに！？」

此処は鏡の世界「ミラーワールド」である。

そこへ仮面ライダー王蛇、仮面ライダーリュウガなどが現れ龍騎を襲い始めた。

「きゃあああ!!?」

「ライダーバトルは過酷だ。そしてそれを止めるのが龍騎の役目だ」

「なにしてんだあああ!!!!」

「音撃打、爆裂強打の型!!」

アスムの変身した響鬼の必殺技を喰らうディケイド。

「ギヤアアア!!!!?」

「もやし焼きの完成だ」

*

その?

仮面ライダーファイズ&ウルトラマンコスモスの「はるの春野 タクミ」と仮面ライダーカブト&ウルトラマンネオスの「かくら神楽 ソウジ」と

ウルトラマンゼアス&仮面ライダー電王の「朝日 リョウタロウ」が普通に歩いていると、突然タクミの肩をディケイドが叩いた。

「そんな時は仮面ライダーフォーゼに変身だ」

「いきなりなんですか!?!?」

ファイズとコスモスなのにいきなり変身する様に言われたタクミ。

「お前は宇宙へ行くのが夢だろ? だったらフォーゼに変身しろ」

タクミの腰にはフォーゼドライバーが装着されていた。

「ええ、まあ夢ですけど……って何時の間に!?!?」

「4つのボタンを押して『変身!』と叫んだあとレバーを引っ張って方手を天に掲げる。」

「えっと……」

タクミは4つのボタンを押す。

『スリー・ツー・ワン』

そしてレバーを引く。

「変身!!!」

タクミはフォーゼに変身した。

「これは、なんの意味があるんだ?」

ソウジの質問にディケイドは……。

「ロケットモジュールを装備してみろ」

「えっ？ これ？」

勘で適当にスイッチを押すと右腕にロケットモジュールが出現し、そのまま空の彼方へ飛んで行った。

『ロケット・オン』

「ギヤアアア！……！」

「おわあああ！……！ タクミさああん！……！」

リョウタロウが呼ぶが気付く筈も無く、そのままタクミは宇宙の果てまで飛んで行った。

「良かったな、夢が叶って」

「そういう問題か！」 ↑ソウジの生身ライダーキック

「ギヤアア！……！」

その後、ソウジが変身したネオスとリョウタロウが変身したゼアスによりタクミは回収されました、無事に。

*

オマケ

リリカルなのはHEROSのジャンクションを考えてみた。

無印編？

右にクウガマイティフォーム、アギトグランドフォーム、龍騎、フアイズ、ブレイド、響鬼、カブトライダーフォーム、電王ソードフォーム、キバキバフォームの9人のライダーが並び立ち、左にティガマルチタイプ、ダイナフラッシュタイプ、ガイアV2、コスモスルナモード、ネクサスアンファンス、マックス、ネオス、ゼアス、メビウスの9人のウルトラマン（等身大）が並び立ち、そしてその真ん中に右に仮面ライダーディケイド、左にウルトラマンディアスが立っている。

「リリカルなのはHEROS!!」

そして一斉にこちらを向き構えを取る。

「このあとスタート!!」

無印編？

ディフェンダーソードを持ってビルの上で朝日の太陽を背に振るうタイムファイヤー。

「リリカルなのはHEROS!!」

「来い、ブイレックス!!」

そしてブイコマンダーでブイレックスを呼び、タイムファイヤーの背後にブイレックスが出現。

「このあとすぐ!」

無印編?

背中あわせに立つウルトラマンゼロとウルトラマンディアス、そして背中合わせに立つなのはとフェイト。

「リリカルなのはHEROS!」

なのはとフェイトはデバイスを構え、ゼロとディアスをファイティングポーズを決める。

「このあとすぐ!」

A'S編?

夜のビルで守護騎士と対峙するのはとフェイトとアルフ。

夜の街でウルトラマンネクスと対峙するウルトラマンゼロ。

なのは達と同じく夜のビルの上にいる仮面ライダーディエンド対峙するディケイド。

「リリカルなのはHEROS!」

そしてシャマルを除く全員が互いに走り出す。

「このあとすぐー!!」

A' S 編？

夜の街でディアスを真ん中に右にゼロ、左にネクサスアンフランスが立つ。

「リリカルなのはHEROS!!」

そして雪が降って来て3人は上を見上げる。

「このあとすぐー!!」

マテリアル編？

マテリアルズはセイナを真ん中に左にネーナ、右にライハが並び、その隣になのはを真ん中に左にはやて、右にフェイトが並び、その中央にはディケイドとダークディケイドが立っている。

「リリカルなのはHEROS!!」

するとセイナは仮面ライダーナイト、ネーナは仮面ライダーネガ電王、ライハは仮面ライダー幽汽スカルフォーム、なのははガオフレイム、フェイトはタイムファイヤー、はやてはドラゴンレンジャーに変身した。

「このあとすぐー!!」

？互いに対峙するディケイドとダークディケイド。

「リリカルなのはHEROS!!」

そして互いに走り出してライドブッカーソードモード同士をぶつけ合わせる。

「このあとすぐ!」

*

「なんでここでやんだよ?」

作者に尋ねるマーベラス。

「いいじゃんいいじゃん、ここでやりたかったんだよ、最近仮面ライダーのジャンクション一覽を見て凄いカッコイイなあ、って改めて思ったから最近自分の小説にジャンクションつけるの楽しくて

っ」

「ふうん」

第22話 『みんなで豪快チェンジ!!』

さて、今回はSC学園では生徒&教師で「豪快チェンジ」しよう
という授業に何故かった。

「さて、そう言う訳で俺達のモバイレーツとレンジャーキー貸すからやってみる。因みにこのレンジャーキーは使用者に合いそうなやつに変身する」

マーベラスが言い、まず最初は光&龍夜の風上兄弟。

「豪快チェンジ!!」

『ゲーキレンジャー!!』

光はゲキブルー、龍夜はゲキバイオレットに変身した。

「まあ、兄弟だかな」

「この2人兄弟ですもんね」

その次に光はティラノレンジャー、ギンガレッドに変身し、龍夜はドラゴンレンジャー、黒騎士に変身。

「これリリカルなのはHEROSでもやりましたよね」

次にボーボボ、首領パッチ。

「おっしやあ!! 俺達だあああ!!!!」

「豪快チェンジ!!」

『カーレンジャー!』

ボーボボはレッドレーサーになったのだが……レッドレーサーの頭の上に黄色いアフロだけが残った。

「なんでだああああ!!!!?」

因みに首領パッチはブルーレーサーになったのだが、身体があの体格のせいか身体の形は変わらず、顔だけがブルーレーサーになってしまっている。

「なんじゃこれ!!!?」

龍夜が首領パッチの姿に驚く。

「うん、まあカーレンジャーだから仕方ないな。 ソラさんもやってみなよ」

「いや、俺は……」

玄野に誘われ、ソラは断るうとしたが強制参加。

「さっさと終わらせるか」

因みに零夜も一緒。

「「豪快チエンジ!!」」
『ジエーットマン!!』

2人ともブラックコンドルに変身した。

「なんだ？ 死亡フラグ、とかじゃないよな？」

「ソラ、大丈夫だ。お前は生き残る。死亡フラグが立ってるのは俺だよ！！ ヤンデレ彼女がいるんだもん！！」

「アハハ、零夜、こんな所いたんですね」

黒笑みのセイナがやってきて変身を解いた零夜を連れ去った後……。

「ギヤアアアアア！！！！！！」

零夜の悲鳴が聞こえたとか……。

その後、零夜が発見されると零夜はこんな事を言っていた。

「綺麗な空だ、目に染みやがる」っと……。

「やめてええええええ！！！！ 零夜、その台詞思いつきり死亡フラグ
ウウウウウ！！！！！！」

だが心配ない、この世界で人が死ぬなど有り得ないのだから。

「うわああああん！！！！ アンクさああああん！！！！ 凱さあああ
あああん！！！！」

近くではハスナがアンクと凱の事で泣いていた。

「大丈夫だハスナ、彼等は俺達の中で永遠に生き続ける……」

進鵜がハスナに優しい言葉をかける。

「グスつ、はい……」

「「って勝手に殺すな！！！」」

突然アंक（右腕だけ）とブラックコンドルの凱が現れた。

それを見た銀八と龍夜は青ざめ……。

「「で、出たああああ！！！！！？」」

因みに此処では死亡キャラは全員生存している。

だが幽霊だと思ってる銀八と龍夜は逃げだそうとするが……。

「「はいよー！！」」

トライドベンダーに乗った進鵜とソウジが銀八『だけ』を弾き飛ばした。

「なんで俺だけええええ！！！！？」

次にこなたが……。

「豪快チェンジー！！」

『ゴーカイジャー！』

こなたはゴーカイシルバーに変身。

「モバイレーツで変身しちゃった。でもなんでゴーカイシルバー

？」

「オタク繋がりだろ」

ランの説明で納得するこなた。

次は新八の番、モバイルーツにレンジャーキーを差し込む。

「豪快チェンジ！」

すると新八は……。

メガネになった。

「なんでだああああ!!!!?」

「しょうがねーよ、だってお前メガネだし」
「うん、しょうがない」

凱と玄野にしょうがないと言われる始末の新八。

次になのはが挑戦。

「豪快チェンジャー!!」

『アーバレンジャー!!』

なのははアバレキラーに変身した。

「だからなんで私アバレキラーなの!!?」

「白い悪魔だか「ウイングペンタクト!!」ギャアアア!!!」

ランがいらん事を言おうとしたためなのははアバレキラーにまたずたずたにされた。

だがその後、下校中にランにキスされたなのはは「ときめく」と言いながらふにやけ顔になっていたとか。

後杏子がマジレッドになったり、当麻がデカブルーになったり、銀八がシンケンレッドになったり、シンクがガオレッドになったりなど。

「ってリリカルゴーカイジャーのネタじゃねえか!!?」

「海賊戦隊リリカルゴーカイジャーSTSS」では杏子は元マジレッド、銀八、というか銀時は元シンケンレッド、当麻は元デカブルー、シンクは元ガオレッドな為。

第22話 『みんなで豪快チェンジ!』（後書き）

ジェットマン詳しくない自分ですが凱さんホントかけえと思う自分……。

ブラックコンドルの変身は視聴者サービスですね。

第23話 『コスプレ登校！！ 中には鼻血出す奴も』

今回もまたぬらりひょんがバカな企画を考えた。

「1日生徒教師全員コスプレ登校日」という企画を……。

因みにコスプレしなかった者は無理やりコスプレさせられる。

SC学園K組。

「ってなんじゃこりゃあああ！！！！？」

例えば銀八の場合は「仮面ライダーキバ」のキバットバット3世の着ぐるみだったり。

「コレコスプレって言えんのか！？」

「まあまあ、いいじゃないですか先生。俺なんてこんなんしてきましたよ？」

と言つのはバカ貴公子の桂。

桂の格好は、同じく「キバ」の「タツロット」の着ぐるみを着せられていた。

「って俺ら声優ネタじゃねえかあああ！！！！」

光に関しては執事服。

「ああ、黒執事とか？ 僕のCVイメージの人出てたし」

「ひ、光……カッコイイよう／＼／」

光の執事服見て鼻血出しながら幸せそうな顔をしているフェイトだった。

「フェイト、鼻血鼻血！！　っておぶう！！？」

そういう光も鼻血を噴射した、何故ならフェイトはナース服のコスプレをしてるから。

「ってオメーも鼻血出してんじゃねえかあ！！？」

新八がツツコミ入れ、銀八はなにやらフェイトを見て考える仕草をする。

「どうせなら子供バージョンの時フェイトが着てたバリアジャケットを今の大人バージョンのフェイトに着せた方がエロい……ぐいばおお！！！！？」

そんな事言う銀八は当然ディケイドコンプリートフォームに変身した光に殴り飛ばされる。

「待て待て待て！！　お前戦い嫌いだったろ！！？」

「リリカルなのはHEROSの設定を持ってこないでください」

そのまま銀八にディケイドがゆっくり近づく。

「……」

「なんか喋ってこい！！　こえーだろ！！？」

「殴るける、蹴る、ぶっ飛ばす。　蹴飛ばし殴り飛ばしぶっ飛ばす」

「すまん！！ 俺が悪かった！！ だから喋るなあー！！」

サイトが早く光を止めて来るようにフェイトに言い、フェイトが光を止めに入る。

「大丈夫だよ、光！！ そういう格好するのは光の前だけだから……
…／／／／」

「おいしいいいいい！！ なんかとんでもねえ事言っただあの娘おおおお！！！！」

自分が止めると言っただがまさかそんな止め方をするとは予想がつかなかったサイト。

そしてそれを聞いた光は仮面の下で顔全体が真っ赤になって気絶した。

「土方さんスゲーや。 犬の餌の格好してくるなんて。 俺にはとても出来やせんね」

コスプレというより沖田はG3-Xを仮面以外装着しており、マヨネーズの格好をしてる土方に言った。

「誰が犬の餌だコラあ、テメー、マヨネーズなめんじゃねえぞ？」
「嫌だな土方さん。 誰もマヨネーズなんてなめてやせんぜ」

少し黙りこみ、沖田が目を見開き、叫ぶ。

「俺がなめてんのは土方さんだけでさああああ！！！！」
「よーし、表出る！！ たたっ斬ってやるから！！！！」

セイナに至っては、「おとぎ銃士赤ずきん」の赤ずきんの鎧を身に纏って無い格好をしているので露出度が高い。

「どう、ですか零夜？／＼／」

顔を赤らめながら、セイナは尋ねる……。

首輪に繋がれた零夜に。

「それなにプレイイイイ!!!!?　なんでこんな事になってんの!!!!?」

美琴がツツコミを入れ、セイナは黒笑みで美琴に「なにか?」と聞き返され美琴は「いえ」と答えて黙った。

「あ、ああ、似合ってる／＼／＼凄く可愛い／＼／＼」
「えへへ／＼／＼」

マーベラスなどに至っては何時も通りの格好だった。

「別にこういう格好でもいいだろ?　地球人から見たらコスプレに見えるんだろ」

「はいダメー」

何時の間にか現れたぬらりひょんが天井に吊るされたひもを引っ張ると幾つものタライがマーベラスに降り注いだ。

「ギャアアア!!!!!!?」

「何時も通りの格好じゃダメじゃろ」

その時、廊下を見るとウヴァ、カザリ、アंक、映司が必死になって誰からか逃げていた。

「あいつらコスプレしとらん。　といつかなにから逃げとる?」
「フハハハ!!!!　君達グリードの身体を調べさせてくれええええ!!!!!!」

「ゴーカイジャー」に登場した「ザイエン」が映司達を追いまわしていたのだ。

「特に火野映司くん、君の体内にある紫のメダルをおおお！！！！」
「俺もうアंकのおかげで人間に戻れましたからああああ！！！！」
「！」

その時、スケボーに乗った黄色いライオン見たいな人がザイエンにぶつかり、ザイエンは吹き飛ぶ。

「ギヤアア！！！！？」

「ああ、悪い悪い」

イエローライオン？いいえ、黄色いライオン見たいな人です。

「圭ちゃん今度コレ着てみてー！！」

「絶対嫌だああああ！！！！」

メイド服を持って圭一を追いかける「ひぐらし」の魅音と必死に逃げる圭一がいたが気にしない。

天使みたいな（様子にまどマギ最終回の格好）格好をしたまどか。

「やあ、まどか。 中々似合……『ガシッ』あー」

喋ってる途中でほむらに頭を掴まれてキュウベえを放り投げるほむら。

「あ、あのう。 光牙にこの格好を見せるのは……／／／／」
「いいからいいから」

アインハルトが恥ずかしそうにしている。

それもそうだろ、露出度の高いネコのコスプレなのだから、無論頭にはネコ耳が装着されてる。

ヴィヴィオに勧められ、アインハルトが光牙の前に立ち、光牙がそのアインハルトの姿を見ると……。

「ぶっつう！！！？　「こばああああ！！！？」

鼻血出して吐血した。

「いやそこまでえええええ！！！！？」

ヴィヴィオがすかさずツツコミを入れた。

*

翌日。

「「「と言っ訳で我慢出来なくなっ たんで結婚する事にしました」」」

銀八に結婚宣言する光と光牙だった。

「いやどついう訳だあああ!!!!?」

「流石、光と光牙、別作品じゃ親子なだけあって行動が早い」

何故か近藤だけが納得している。

「という訳で俺達も結婚しましよ、お妙さ……ギャアア!!!!?」

言いきる前にお妙にアイアンクローを喰らう近藤。

と言う訳で、次回からフェイトは「風上フェイト・テストロッサ」と「風上アインハルト」になります」

「なんじゃそりゃあああ!!!!!!」

誰かがそう叫んだとか……。

えっ?

学生なのに結婚できるのか?

忘れて行けない、この作品そう、「なんでもあり」なのだ!!

第24話 『地獄姉妹誕生！？ いやセーフ！』

さて、今回学園の人気の無い場所なぜか、「まどか マギカ」の「巴マミ」が3人いた。

「いいわよねえ、アンタ達まみられなくて私より出番あつて」

その内1人が今にもメズールの二の舞になりそうな勢いだつた。

実はこの3人のマミ、1人が作者の書いてる「ウルトラマンゼロ2 1 まどか マギカ」のマミで、もう1人が「魔法少女まどか マギカ―NEXUS―」のマミであり、そして最後は「二人の光の巨人外伝 仮面ライダーエターナル まどか マギカの世界」のマミだつた。

「……………（汗）」

「特にさ、まどネクの私」

「はい……………」

「あなたなんて彼氏いるんだもんね。 どうせ私なんて1回の出番でまみられて終わりよ」

「いやまだ彼氏じゃ……………」

そこでゼロまどのマミが手を挙げる。

「あの、それなら美樹さんや春風さんや杏子はどうなるんですか？ 死んでしまいましたけど……………（最終話で生き返ったけど）」

「あの3人なんてまだ良いわよ！！ まだ出番あるし活躍したし！

！ しかも最終話で再登場かと思つたら名前しか出て無いじゃない！！」

色々と愚痴を溢すエタまどのマニ。

とそこへ……。

「あなたも、地獄に堕ちたのね？」

メズールが現れた。

「私と一緒に地獄へ……」

「ええ」

「「地獄姉妹が結成されたああああ！！！！？」」

*

その頃教室では……。

「いやよお、光牙とアインハルトの所もそうだろうけどよお。光とフェイトもそうだけど。なんでウチの学園にいるカップル共が殆ど結婚して性を変えてんのおおお！！！！？」

そつ、今回と前回の間で既にこの学園殆どのカップルが結婚してし

まっただのだ！

あ、バカップルもね。

なのはの場合だと「諸星」なのは、はやては「秋山」はやて、ヴィオは「李」ヴィヴィオといった感じで。

「アレ？ エクレと南瓜は結婚してないの？」

シンクが何時の間にかいたエクレと南瓜を見てエクレに尋ねるとエクレの顔が真っ赤になり……。

「なに言ってるんだこのへっぽこ勇者！！／＼／／／」

シンクの顔面を思いっきり殴った。

「おぶう！！！？」

「エクレ、お腹空いたよ」

南瓜がエクレにそう言って来る。

「ああ、もう昼時だな。先生、私達食堂行ってきますので」

「おい、お前等」。あいつ等はカップルじゃねえ。『親子カップル』だ」

その瞬間エクレの投げた短剣が銀八の頭に突き刺さった。

「ギヤアアアア！！！！？」

「親子でも無いしカップルでも無い！！／＼／／」

「エクレ」

「あー、分かった分かった」

エクレは南爪の手を引いて食堂へ向かった。

（完全に親子みたいじゃん）

心の中で全員がそう思った。

「アンタ等はいいいわよねえ。 幸せそうで楽しそうで」

そこへメズールとエタまどのマミが入ってきた。

「うわっ、なにこのドス黒いオーラ!？」

「どうせ私なんてまみられるだけなんです」

「どうせ私なんてシャウタの曲テレビで流れなかったのよ、オーズ本編で」

「いやいやなんでシャウタの曲がオーズ本編で流れなかったからって地獄堕ちるんだよ!？」

新八がツツコミ、メズールが答える。

「そりゃ、他のグリードのメダルを使つてのコンボのテーマソングあるのに、唯一無いのよ私!？ これじゃ私だけ顔立たないじゃない!?!」

その時、メズールの肩をチョンチョンと誰かがつつく。

「んっ?」

「曲も無いし映画だけの出番ですがなにか?」

そこにはオーズブラカワニコンボがいた。

「スイマセンでしたぁー!!」

「兎に角、アンタ等いいわよね。毎日楽しそうで、どうせ私なんて……」

「いい加減にしろ」

その時、マミになにか光の球体が直撃し、マミの身体から黒い生物のようなものが現れ消滅した。

「お前、ビーストにとり憑かれてたぞ？」

マミの後ろにいたのは「ブラストショット」という銃を持ったまどネクの「ウルトラマンネクサス」「ヒメヤ・シュン」だった。

取り合えず、このマミは元に戻ってエタまどの世界に送り返した。

「あつ、ヒメヤさん」

因みにこの世界のマミは「まどネク」の方のマミ。

そしてそのマミがヒメヤを呼ぶ。

「今日は昼までですし学校は、一緒に帰りませんか？」

「ああ、いいぞ」

えっ？これ完全お前等カップルだろって？

いいえマミの片想いです。

「よう、ママじゃなーか」

そこへ赤い髪の「まどマギ」の「諸星杏子」がやってきた。

えっ？　なんで「諸星」かって？

ゼロまどで杏子はランとなのはの養子で光とフェイトの息子の彼女だから。

「娘もいまーす」　因みにランさんとなのはさんの息子のレインと私の双子の兄の光牙が大好きでーす」

今、光とフェイトの娘の「風上奈美」がいた気がしたが気にしない。

「あら、杏子どうしたの？」

杏子はママの耳元で、ある事をささやいた。

「コイツ、鈍感だからさっさとしないと他の奴に盗られんぞ」
「ッ／＼／」

ヒメヤは杏子の言葉が聞き取れず頭に疑問符を浮かべていた。

「アムイ見たいに鈍感じゃなかったらよかったのになあ」

ニヤニヤしながら言う杏子に顔を真っ赤にするママだった。

第24話 『地獄姉妹誕生！？ いやセーフ！』（後書き）

レビン・マーベラス

「ここで俺から『魔法少女リリカルなのはA's×スーパー戦隊ヒーロー大決戦』もよろしく頼む！！」

第25話 『部活作りが簡単だと思うな』

「よし、仮面ライダー部作るぞ」

ケンタがいきなりツバサとヴィヴィオに向かってそんなことを言うてきた。

「「はっ?」」

「この学園を守る部活、その名も仮面ライダー部だ!」

腕を組んで言うケンタだが……。

「いや、この学園どっちかって言うと狙われても逆に狙ってる人を
返り討ちにしようなんだけど」

「そうと決まれば早速部活作りだ!! まずは顧問の先生を探すぜ
!」

「「聞いてないし!」」

ケンタがツバサとヴィヴィオを巻き込んで担任になってくれる教師
を探しに行く。

「どっかにやってくれそうな人いねえかな?」

とそこへガンツが転がってくる。

「おっ、アンタ仮面ライダー部の顧問になってくれねえか!」

「「待てえええええ!」」

当然ツバサとヴィヴィオがケンタを止める。

「なにすんだよ!？」

「『なにすんだよ』じゃないですよ!」

「アンタ教師なら誰でもいいのか!? ガンツとか絶対ダメだから!」

ケンタは舌打ちした後、別の教師を探すことに。

そこへ浅倉が歩いてくる。

「おつ、アンタ仮面ライダー部の顧問に……」

「だから待てええええ!!!」

再びケンタを止めるヴィヴィオとツバサ。

「今度はなんだよ」

「やっぱアンタ誰でもいいんだろ! あの人は絶対ダメ!!」

「ていうか教師ですらないよ!？」

ここでケンタは考えを改めることに。

「取り合えず、他の部の奴等の話でも参考にして部活を作るか」

という訳で仮面ライダー部作りは後にして色んな部活を見回ることに。

最初は「鍛える部」という変わった名前の部活、活動は運動場でしており、3人は運動場に行くところでは……。

「ほらほら! 裕理さんもっと早く走りなさい!!」

「ハッハッハ、頑張れカブキ〜！」

「タユタマ」の「泉戸ましろ」とカブキと呼ばれた青年「泉戸裕理」が物凄い汗だくな上に「ぜえぜえ」と息を上げながら走り、「仮面ライダー響鬼×タユタマ 戦鬼と太魂依」の主人公「ヒビキ」がカブキを応援していた。

「あ、あの、止めなくていいんですか？　なんか凄い疲れてますけど」

ツバサがましろに尋ねてみると……。

「大丈夫です、なにせ私の婿ですから、それにヒビキさんの弟子ですし」

「因みに何周くらい走ってるんですか？　裕理さんは？」

ましろとヒビキは顔を見合わせた後、ツバサに向かってとんでもないことを言った。

「「ざつと3000周」」

「3000って死ぬでしょ！？　幾らなんでも！？」

そしてとうとうカブキはバタツと倒れてしまった。

「も、もうダメ……」

「もっと頑張れ少年、僕の弟子なら出来るでしょ？」

「休んでる暇はありませんよ裕理さん、何のためにこの部立ちあげたと思ってるんですか！？　好き放題暴れる太魂依達と戦つて……！」

この時カブキもツバサもヴィヴィオも、ケンタまでもが思った。

『この人達鬼嫁と鬼師匠だ……。鬼なだけに』と……。

*

他には「隣人部」などがあつたり。

「この部の活のポスターみたけどな、これよく見たら『友達募集』
って書いてあるの気付いたか？」

ケンタがその説明をヴィヴィオとツバサにして2人は「嘘オ!？」
と驚く。

そして隣人部に行つてみると……。

「リア充は死ね」

「僕は友達が少ない」の「三日月夜空」にケンタは蹴り飛ばされ扉
を閉められて追い出された。

「お、俺はただ聞きたいことがあつただけなのに……」

ツバサとヴィヴィオがケンタに駆け寄り「大丈夫か」と尋ねる。

だがその時扉がバンツと開き同じく僕は友……、めんどくさいから「はがない」でいいや。

「おい、放棄すんな」

という訳で同じく「はがない」から「柏崎星奈」が出てくる。

「ちょっと、幾らリア充でも私の出番ないとかありえないんだけど！？」

「黙れ肉、貴様なんて出る価値も無いくせに」

「なんですってえ！！？」

そこでケンタが余計な一言を……。

「あ、アンタ等よく見たらいきなりヒロインなのにアニメでゲロ吐いた2人……」

倒れこんでるケンタがそんな発言をした為、腹に星奈と夜空のWキツクが炸裂した。

「「悪かったなあ！！」」

「ぐばおお！？」

この時ケンタは思った、本当にこの学園の生徒全員と友達になれるんだろうかと……。

その後、ケンタを心配して同じ部室から金髪の「羽瀬川小鷹」がケンタに駆け寄るが……。

「なんで不良みたいな格好自分の意思でやってるお前に友達いて俺には友達いねえんだあああ！！！！！」

ドロップキックをケンタに喰らわせた。

「ギャアア！！！！？」

*

その後、ボロボロになったケンタ。

「もういい、聞きこみはいい、顧問を探そう」

結局顧問を探すことに。

「あの人なら、やってくれそう」

ヴィヴィオの言葉に「えっ？」となり、ツバサとケンタは「誰かと尋ねるとヴィヴィオはこう答える。」

「『マドカ・ダイゴ』さん」

という訳でダイゴを探し、ある教室に入った時……。

等身大のウルトラマンティガの石像（ガタノゾーアにやられた時の格好の）があった。

「「「ダイゴさああああん！！！！？」」「」」

色々慌てる3人。

「ちょ、これどういうこと！？」

「また石像にされちゃったのか！？」

とその時、教室に「ウルトラマンティガ」の「マドカ・ダイゴ」が入って来る。

「アレ？ どうしたの君達？」

「えっ！？ アレ！？ じゃあこれは！？」

ティガの石像は一体なんなのかと聞いてみる。

「ああ、それは……アレだ」

「「「だからアレってなに！？」「」」

結局この石像がなんなのか最後まで分ならず、一応ダイゴは仮面ライダー部の顧問になってくれた。

「という訳でツバサにヴィヴィオも仮面ライダー部に……」

とケンタが言いかけた所でウルトラマンイービルに変身したツバサがヴィヴィオを手に乗せて飛行してケンタから逃げ去った。

「逃げんなあああ!!!!」

第25話 『部活作りが簡単だと思うな』（後書き）

「仮面ライダー響鬼×タユタマ 戦鬼と太魂依」も感想などよろしくお願いします。

番外編 『解説』

作者

「ちよいSC学園の作品紹介を」

マーベラス

「なぜに？」

作者

「やつとかないと、色々勘違いされそうだから……！」

SC学園物語、作者の「リリカルなのはヒーローズシリーズ」「ウルトラマンゼロシリーズ」「ダークデイクイドシリーズ」とその他の作者の他作品を中心のキャラ達が出てくる作品で、他の作品を見てないと分からないネタなどがある。

例・杏子がマジレッドになったり。

なんでマミさんが3人も出てきたのかということだったり。

銀八が何故アギトかだったり（これはダークデイクイドシリーズでアギトな為）

オリ×原作キャラのカップリングの一覧も載せておく（既に登場しているキャラ）。

光×フェイト

ラン×なのは

カズキ×はやて

ツバサ×ヴィヴィオ

光牙×アインハルト

ヒメヤ×マミ

アムイ×杏子

龍夜×ライハ（雷刃の襲撃者）

零夜×セイナ（星光の殲滅者）

ミガト×ネーナ（闇統べる王）

翔悟×ユキカゼ

南爪×エクレ（親子カップル）

大体このくらいである。

ちなみに同性愛カップルはいない、ここ大事。

なお、前回登場したヒビキはオリキャラである。

前回登場したカブキもオリキャラでは無い、「タユタマ」の原作主人公である。

ただし性格を少し弄ってる。

作者

「後さ……」

マーベラス

「なんだ？」

作者

「まどネクの続編考えてみようと思うんだ」

マーベラス

「続編？ つてことは……」

作者

「マミさんが主役です」

マミ（まどネク）

「……！」

マミ（エタまど）

「ほんといいわよねえ、アンタは優遇されててさ……」

マーベラス

「あいつは無視してどんな感じに？」

作者

「まだ決まってるません、リリレジエでも終わったらやろうかと。
クロスするものも決まってるないし。 因みに……」

マーベラス・マミ（まどネク）

「「？」」

作者

「リリカルなのはHEROS外伝に出します、マミさんを」

マミ（まどネク）

「！！！！！！」

ウヴァさん

「俺が主役のは無いのか！？ 作者お前俺が主役の小説書きたいな
とか思ってただろ！？」

作者

「気が変わった、気に入ってるし、ネクサスマミさん」

ウヴァさん

「なん……だと！？ ちくしょおおおお！！！！」 ↑頭から電撃。

マーベラス

「ギヤアアアア！！！！！？」 ↑電撃直撃。

作者

「マミさんお願いしまゝす」 ↑天の助ガード。

天の助

「おわあああああ！！！！！！？」

マミ（まどネク）

「分かりました、うおおおお！！！！」 ↑エボルトラスターから鞘を
引き抜きウルトラマンネクサスに変身。

ネクサス

「ヘア！！」 ↑ジュネッスシルバーチェンジ。

ネクサス

「オーバーネオクロスレイ・シュトローム！！」

ウヴァさん

「ウヴァアアアア！！！！！！？」 ↑直撃。

第2回人気投票

作者

「第2回、人気投票」！！ ルールは前回と同じ！！」

マーベラス

「投票できる大体のキャラ一覧！！」

オリキャラ組

風上光

風上龍夜

風上光牙

風上アムイ

風上奈美

諸星ラン

諸星零夜

諸星レイン

秋山カズキ

秋山和音

石黒明

ヒビキ

如月ケンタ

火野エイジ

左翔悟

南爪

千動ミガト

李ツバサ

ガルナ

カツミ・ストラトス

マドカ・ユウスケ

アスカ・シヨウイチ

高山シンジ

春野タクミ

弧門カズマ

トウマ・アスム

神楽ソウジ

朝日リョウタロウ

ヒビノ・ワタル

野上健

ヒメヤ・シュン

リリカルなのはシリーズ

諸星なのは

風上フェイト・テストロッサ

秋山はやて

諸星セイナ

風上ライハ

千動ネーナ

シャマル

李ヴィヴィオ

アインハルト・ストラトス

平成ライダーシリーズ

火野映司

アーク

伊達明

ロスト

ウヴァ

カザリ

メズール

ガメル

城戸真司

秋山蓮

剣崎一真

橘朔也

上條睦月

JTC

浅倉威

北岡秀一

左翔太郎

フィリップ

照井竜

木場勇治

裏・城戸

ウルトラマンティガ

マドカ・ダイゴ

スーパー戦隊シリーズ

キャプテン・マーベラス

ジョー・ギブゲン

ルカ・ミルフィ

ドン・ドッゴイヤー（ハカセ）

アイム・ド・ファミーユ

伊狩鎧
バン

ドギー・クルーガー

漢堂ジャン

結城凱

ゲキ

ブライ

シグナルマン

陣内恭介

土門直樹

上杉実

志乃原菜摘

八神洋子

伊達健太

遠藤耕一郎

並樹瞬

城ヶ崎千里

今村みく

ゾクレッド

ゾクブルー

ゾクグリーン

ゾクイエロー

ゾクピンク

ネジレッド

ネジブルー

ネジイエロー

ネジピンク

ネガタロス

ナビィ

銀魂

坂田銀時

志村新八

神楽

志村妙

土方十四郎

沖田総悟

近藤勲

松平片栗粉

フェイト・ステイナイト

衛宮士郎

セイバー

ランサー

アーチャー

バーサーカー

コードギアス

ルルーシュ・ランペルージ

枢木スザク

カードキャプターさくら

李小狼

木之本さくら

ひぐらし

前原圭一

園崎魅音

古出梨花

北条沙都子

とある魔術

上条当麻

御坂美琴

黒子

らき すた

泉こなた

柊かがみ

ゼロの使い魔

平賀サイト

ルイズ

ギーシュ

天元突破グレンラガン

シモン

カミナ

ヴィラル

僕は友達が少ない

羽瀬川小鷹

三日月夜空

柏崎星奈

まよチキ!

坂町近次朗

近衛スバル

涼月奏

まどか マギカ

鹿目まどか

美樹さやか

バマミ（まどネク）

バマミ（エタまど）

バマミ（ゼロまど）

佐倉杏子

暁美ほむら

インキュベーター

スタードライバー

ツナシ・タクト

ツナシ・トキオ

DOG DAYS

シンク・イズミ

ミルヒオーレ・f・ビスコッティ

エクレール・マルティノッジ

ユキカゼ・パネトーネ

タユタマ

カブキ（泉戸裕理）

泉戸ましろ

ボーボボ

ボボボーボ・ボーボボ

首領パッチ

天の助

ビュティ

ぬらりひよんの孫
ぬらりひよん

ソウルイーター
エクスカリバー

レジェンズ
マツタニ・シュウゾウ
シロン

作者

「ざつとこの位」

マーベラス

「オリキャラ組と特撮組多いな」

作者

「ですなあ、ではここまで！ 人気投票と『天元突破ウルトラン
ネクスス マギカ』も感想などよろしくお願いしまーす！」

第26話 『グランセイザー』の小説、書きたいなあ』

「大樹さん、ぶん殴っていいですか？」

「なんで!？」

何故か海東…… というよりディエンドを無性に殴りたいフェイト、その後、フェイトはタイムファイヤーに変身してブイレックスを呼び出してディフェンダーソードとバルディッシュで大樹を追いかけてまわしたり。

「ヒギヤアアア!!!？」

「そんなことしたら、光に嫌われますよ？」

そこでピタッとタイムファイヤー（フェイト）は動きを止め、振り返るとそこには「リリカルなのはHEROS」の「海原奈々」が椅子に座って爪切りをしていた。

「なんで爪切り!？」

大樹のそんなツツコミはスルーしてフェイトは変身を解き、奈々を睨みつける。

「ポツと出の癖に光の彼女とか笑わせますね」

黒笑みを浮かべる奈々にカキンツとくるフェイト。

「そんなこと言っただって光は私のこと好きって言うてくれたもん!」

「じゃあ一緒にお風呂とか入ったことあります? 私光と一緒に

お風呂入ったことありますよ？ 中学の時とか」

100%嘘です。

それを聞いたフェイトは固まり、無言で光の元へと走って行った。

「アレ？ フェイトどう……」

「光の……バカアアアアア……！！！！」

「げほう！？」

その後、光にビンタを喰らわせた後、プラズマザンバーブレイカーにDVリフレイザーにブイレックスを呼び出してレックスレーザーにブイレックスロボでレックスパンチにリボルバーミサイルにマックスブリザードを光に放って「超星神ガルーダ」に乗り込んで必殺のファイヤーバードクラッシュを光に炸裂し、5体の超星神ドルクルス、ガンシーザー、リヴァイアサン、ガントラスの合体した「ダイセイザー」の必殺技のハイパーバーストを放った後、ぶんすか怒ってフェイトはそこから走り去った。

「なんか幾つかおかしいのあるんだけどおおおおお……！！！！！！」

光はそう叫びながらオデノカラダハボドボドグァー状態にされたとか。

「姉貴、あいつ私達の弟にしようよ」

「いいわねえ、それ」

メズールとマミ（エタまで）が光を弟に引き込もうとするが……。

「何してんだコラ！」

ランが2人にチョップを喰らわせ、ゼロに変身して2人の闇をウルトラゼロレクターという技で浄化しようとその技を使用したのだが……。

「はん、私等にその程度の光が通用する訳ないじゃない」

「要するに光はとことん私達を嫌ってるってことよ、どーせ私達なんて……」

「ウルトラゼロレクターが全く効かねえ!？」

そしてマミはダークエボルバーを取りだして「闇の巨人ダークメフイスト」等身大に変身し、メズールは怪人体に変身する。

「汚してやる、太陽なんて!!」

「行くわよ? マミ」

「っておわあああ!!!!?」

その後、地獄姉妹に弟にさせられようとされたランと光でしたが駆けつけた「まどネク」のマミがネクサスになって蹴散らしてくれました。

*

その頃、ゴーカイガレオンでは……。

「みなさーん！ 朝ごはん出来ましたよー！！」

鎧とハカセが朝食が出来た為に各自今は自分の部屋にいるマーベラス達呼びに行き、何時も朝食などを食べるリビング的部屋に行くところでは……。

「ウマウマ」

「グランセイザー」に登場した「ボスキート」が朝食を食べていた。

「「「なんか変なのいるうつうつ！！！！？」」「」」

鎧、ルカ、ハカセが叫ぶがジョーに至っては啞然としており、アイムは……。

「まあ、変わった感じのお客さんですね」

「いやアイム違うから！！ どう見ても不審者だし怪人だから！！」

マーベラスの場合だと。

「俺の飯を勝手に食うんじゃねえええ！！！！」

「いやそこ！？ それもそうだけど！？」

マーベラスがボスキートに飛びかかったが「レムルズトルネード」という技で窓を突き破り、ガレオンから落下して地面に上半身が突き刺さるマーベラスだった。

「邪魔」

「ギャアアアア！！！！？」

*

泉戸家では……。

あつ、カブキの実家ね。

「なあ、今回どうしてこうなった？」

「ゆ、ゆーりしゃあん」

涙目の子供の姿になってしまったましろは涙目でカブキを見上げる。

「コレはアレだ。 作者の趣味だ……」

「どーいう趣味だよコレ!？」

真顔で言うヒビキ。

因みに此処ではボスキートがテレビの前に座り込んでテレビを見てたとか……。

「ってなにしてたデメーは!!」

といきなり人の家に上がり込んで来た青年「工藤天馬」は腕に「ナツクルライザー」と呼ばれるものを出す。

「装着！！」

すると天馬は「グランセイザー」と呼ばれる戦士の1人「セイザータリアス」に変身。

「セイザータリアス！！」

人様の家の中で戦闘をおっぱじめるタリアスとボスキート。

「お前等ここが人の家だって分かってるのかぁー！！？」

「ゆーりしゃん！ どとど、どうしよう……、今は神気がまともにつかえないし」

「はうう……」と狐耳を垂らすましろ。

うん、可愛いね。

その後、この家に居候してるイブキとトドロキにより2人とも追い出された。

「てかよくあんなのいたのに気付かなかったな、ヒビキ？」

イブキがヒビキに言う。

「いやあ、今は気付いた所なんだよねえ」

「そーいやましろの姉さんちびっ子の姿だな、いつそのことずっとそのままでしたら？」

笑いながら言うトドロキ。

「トドロキさん、アンタは俺を犯罪者にするつもりですか？」

ジト目でトドロキを見るカブキ。

*

そしてその後のタリ阿斯とボスキートは、草むらで体育座りえなにかを話していた。

「つつかなんでお前言葉発せられんだよ」

「気にするな、それより……作者がグランセイザーの小説書きたいらしい……」

「知るか」

うん、なにこれシュール。

*

翌日の学園で……。

「あり？ 光とフェイトいねえのか？」

銀八が出席をとっていると言っていると光とフェイトがいないのに気付く。

「あー、なんか仲直りする為の旅行に行くと言っていましたよ」

サイトがそう説明し、銀八は少し考える仕草をする。

「なんかあいつ等【ピー！】とか【ピー！】とかしそつだな」

「なんつうこと言うんですかアンタは！？」

実際そんなことしません。

因みに次回は光とフェイトの旅行先の話です。

「おい、まさか光とフェイトのイチャつくシーンじゃねえだろうな
！？」

大丈夫大丈夫、では！

第26話 『グランセイザーの小説、書きたいなあ』（後書き）

グランセイザーの小説を書くとしたらまどマギかりりなのSTSで行くかと。

りりなのSTSの場合だと「りりなのA'S VS スーパー戦隊」の続編になります。

第27話 『牙狼と牙狼と牙狼』（前書き）

さあ、今回話についてこれる人が何人いるか……。

第27話 『牙狼と牙狼と牙狼』

SC学園前回の3つの出来ごと！

1つ、奈々に吹き込まれた嘘を信じたフェイトが光ををフルボッコ！
2つ、地獄姉妹が光を弟にしようとするも駆けつけた蘭が変身したセイザーヴィジュエルとマミ（まどネク）ウルトラマンネクススによって阻まれる！

そして3つ、なんやかんやで光とフェイトは仲直りの為の旅行に行った。

「いや俺の所おかしくねえ！！？ ヴィジュエルじゃねえだろうが！！ ラン違いだよ！！」

ランがツツコミを入れるが、兎に角本編にレッツラーゴウー。（オナー風）

*

そして光とフェイトは電車……というかデンライナー・ゴウカに乗っていた。

「なんでデンライナー？」

そんな光の呟きは兎も角、周りを見ると普段ならここに「電王」の「イマジンズ」やオナーなどがいる筈なのだが……。

「やつとこの芸術が分かってくれる人間に出会えたんだ!!」

「仮面ライダーW」の刃刑事がなにやら不気味な絵が描かれたマンホールを大量生産していたり……。

「どうやってデンライナーの中で作ったの!？」

フェイトがツツコミを入れるが他にはも色々いる。

次に光達の前に「仮面ライダーファイズ」の「北崎」がやってくるのだが、黒いコートを着ており、本来の北崎の雰囲気がるでないのだ。

「お前はガロだ!! 暗黒騎士なんかじゃない!」

「はっ?」

いきなりそんな事を言われて戸惑う光とフェイトだが北崎はすぐに何処かに行ってしまった。

さらに「ウルトラマンティガ」の「ハヤテ」が馬に跨り剣を掲げながら通路を歩いている。

「馬どっから持ってきたああああ!!!??」

「我が名はキバ!! 暗黒騎士!!」

などと言いだして何処かに去って行ってしまった。

次に「仮面ライダーファイズ」の「草加」がポーカーを他の乗客としており、最後の最後でワザと負けた。

「言っておきますけどねえ、私はこの男にワザと負けたんですよ。おかげでこの男は最高の喜びを味わえた筈だ。そういう人間はね、美味いんですよ」

とか言いながら仮面ライダーカイザなのに仮面ライダーシザースに変身して鏡の世界「ミラーワールド」に入ってしまった。

「あつ、首の……」

なぜ龍騎ライダーズでシザースをチョイスしたのなんとなく分かったフェイト。

そこへ白いコートに厚着の格好をした若い青年が光とフェイトの横を通り去る。

数分後、黒いトゲトゲした怪物「ホラー」が隣の車両から飛び出す様に光達のいる車両にまで吹き飛んで来た。

「グガアア!!?」

「うえええ!?!? なにこれ!?!」

「ていうか、これ首領パッチじゃ……」

そう、その怪物の見た目は……思いつき首領パッチで身体全身を黒くしており、なにやらラジコンに使うリモコンの様なものを持っている。

「人を惑わすホラーか」

先程の青年が出て来て剣を首領パッチ(?)に向ける。

「くそおおお!!! この装置を使って人々をキャラ崩壊させて今度の人気投票1位になろうとしたのをよくも邪魔しやがったなあああ!!!!」

「首領パッチだったコレ!?」

ホラー・首領パッチは牙をむき出しにして青年に襲い掛かってきたが……、剣でバット如く撃ち返された。

「あーれー!?」

そのまま屋根を突き破り「宇宙キター!!!」した後、再びデンライナー、しかも同じ車両に落下した。

「ぶへええ!!!?」

【鋼牙、大したことないぜこいつ】

鋼牙と呼ばれた青年の指には人の顔をした銀色の指輪がはめられていた。

「ああ」

だが首領パッチの背中に翼が生え、本気で首領パッチは怒りだした。

「そちらが本気ならこちらも行かせて貰うぞ」

剣を掲げて円を描き、振り下ろすと鋼牙の姿が変わり、黄金の狼の鎧を纏った「牙狼^{ガロ}」の姿へと変わり、剣は黄金の「牙狼剣」へと変化。

因みにホラーというのは人間に憑依するものなのだが、首領パッチはその不思議な能力で逆にホラーに憑依していたのだ。

そして流石はボーボボのキャラというか、首領パッチにあったホラーの力だけが消滅しており、首領パッチ自身は気絶しただけであった。

目的地につき、デンライナーから降りる光とフェイト。

そこでふと疑問に思う事があった。

首領パッチの発言からして自分達以外の乗客の様子がおかしかったのは首領パッチが持っていたあの装置（既にぶっ壊しました）のせい。

ならば何故自分達は無事だったのか？

それはあの装置が……「牙狼」に関係あるし人にしか発動しないからさー！！

「いや殆ど関係無かったと思うんだけど？」

中の人的意味だ！！（ドヤア

その日の夜、なんかフェイトがお茶と間違えてお酒を飲んでしまい、酔っぱらったフェイトが光を押し倒して強引にキスしていたりした。

「またこのネタ「光／＼／＼／＼んきゅ！／＼／＼」んむう！？／／／」

第27話 『牙狼と牙狼と牙狼』(後書き)

他の作品の感想共々感想お願いします。

第28話 『途中から話が脱線してきた件』（前書き）

投票結果は今月中に。

第28話 『途中から話が脱線してきた件』

「えー、今日はリリカルなのはHEROSの主人公、光が9つの世界から元の世界に帰って来た時、どんな酷い目に合うかという喜劇……じゃなかった悲劇を想像しようと思いまーす」

銀八がダルそうな声で今回の授業の内容を言い出す。

「いやなんでそんな授業！？ 後明らかに喜劇って言おうとしましたよね！？」

しかし、光のツツコミなど銀八はスル・する。

「まあ、いざとなったら……あなたの将来の妻である私が守ってあげますよ（笑）」

奈々が爪切りしながら光に言う。

「なんでまた爪切り！？ ていうか奈々は黙っててくれないかな！ 状況悪化するし、そもそも奈々のせいだしこれええええ！！」
「仲がいいね、光達」

ニコニコ笑顔のフェイトだが、殺気立っておりブイコマンダーとバルディッシュを構えている。

「なんで怒るの！？ 僕なにか悪いことした！？」

涙目の光に少しキューンっとなるフェイトだが、それくらい許して貰える筈が無い。

そこでマーベラスが手を挙げる。

「はい、最近出番が光に喰われ気味の不幸宇宙海賊キャプテン・マーベラス」

「いや長げーよー!!」

マーベラスのツツコミはスル・されたが、マーベラスは続ける。

「取り合えず、銀八の言う通り俺は最近光に喰われ気味だ。だから、今ここでぶっ潰せばいいと思う」

「マーベラスさああん!? それ僕じゃ無くて作者のせい!!」

「知るかああ!!! 幾ら作者が一番気に入ってるオリキャラだからって俺の主役の座を奪ったぁいい度胸だなあああ!!!」

別に、奪ってはいないし、彼はまだこの作品の主人公だ。

ゴーカイレッドに変身しようとしたマーベラスだが……。

「あなたなんてまだ良いじゃない!!」

マミ（地獄）が入ってきた。

「この人達を見なさい!!」

マミが指差す方には士郎とセイバーとルルーシュとスザクと圭一と魅音とレナと梨花「orz」と体育座りしていた。

「彼等、リメイク版ダークデイクイドで士郎達はクウガとブラッククウガの資格を、ルルーシュ達は龍騎とリュウガの資格を、圭一達

は響鬼、轟鬼、威吹鬼、歌舞鬼の資格を？奪されたのよ！ 作者から！」

さらに圭一達の隣にはフェイト・ゼロのランサーに似た「騎士鏡太」が体育座りしていた。

「ミラーナイ……じゃなかった、いやそうだけど、鏡太アアアア！！ なにがあったあああ！！！！？」

ランが鏡太を心配して尋ねてみると、なんでも先程「カイザーベリアル」先生が歩いていたら、つまりいてしまい、その時偶然ベリアルの前を歩いていた鏡太の後ろ首にベリアルが爪が突き刺さり、ベリアルウィルスを注入された為に今に至る。

「なにしてたあいつうううう！！！」

「ちょっとO H A N A S Iだね」

取り合えず鏡太を浄化した後、ランとなのははベリアルを探しに行った。

「えーっと、話を戻すがサイト、カフキのこと裕理、チキンジローの共通点は声と一緒に上に2人以上の女性にモテる話だっけ？」

「先生！ 全然違うんですけど！」

サイトがツツコミを入れる。

「ついでに言うけど、オメーもキバの資格、？奪されちゃったからな」

「マジで！？」

「次からシンクがキバだ、でもってダークキバは姫様」

それを聞いたシンクはダークキバに変身するミルヒを想像してみる。

『キングは1人！ この私だぁ！！』

「それ違うわバカ勇者ああああ！！！！」

エクレのドロップキックがシンクに炸裂する。

「おぼお！？」

「んっ？ じゃあこんな感じ？」

サイトが今度は想像してみる。

『この世に必要な無い人間などいない！！ 貴様の陰我、私が断ち斬る！！』

『夢を踏みにじった貴様の陰我……俺が断ち斬る！！』

『どうする？ 後90秒は遊べるぞ？』

想像終了。

「どんな想像だ！？ ていうかこれ全部『牙狼』の台詞だろうがあああ！！？ しかもなんかカッコイイな姫様！！」

因みに本人は仕事がある為今日は欠席。

「アレ？ 話変わって無い？」

と呟く光だったが、フェイトに誤魔化しは通じない。

光はフェイトの腕を掴んで自分の膝に乗せる。

「ひゃあ!?!?!」

「大丈夫だよ、僕はフェイトじゃないとダメだし、他の女性に惚れるなんてこと有り得ないから」

光の微笑みを見てフェイトは「う、うん／＼／＼」を顔を赤くしながらも頷き、それを見ていた奈々は……。

「チッ」

（舌打ち!?!）

結果発表

作者

「お待たせしました、人気投票の発表です!!」

美咲撫子

「発表〜♪」

如月弦太郎

「撫子おおおお!!!!!!」↑撫子抱きつく。

作者

「メガマックスの最後はアレなんで、彼女を今登場させました」

ストロンガー

「天が呼ぶ地が呼ぶ人が呼ぶ……悪を倒せと俺を呼ぶ。俺はメガマックスで唯一名乗れなかった仮面ライダーストロンガーアアアア!!!!!!」

土方

「でもグリードやヤミーとの戦いはカッコよかったからいいじゃないか」

作者

「では最下位から発表しましょう」

最下位

零夜、セイナ、ヴィヴィオ、ライハ、ネーナ、黒子、ミルヒ、エクレ、南爪、士郎、アーチャー、ジロー、スバル（まよチキ）、新八、

エイジ、翔太郎、フィリップ、照井、剣崎、城戸、蓮、銀八、カズキ、ランサー、ジャン、カズキ、ガメル、カザリ、伊達、ましろ、ドギー、龍夜、カブキ。

カズキ

「前より凄い下がったあああああ！！！！！」

撫子

「下がった〜」

銀八

「順位ひきいいいい！！！！！」

光

「えっと、実は6位の発表です」

第6位はやて、ナビィ、ガルナ、ミガト、フェイト。

はやて

「なん……だと？」

カズキ

「はやても下がった！？」

仮面ライダーポセイドン

「戦え！！ 仮面ライダー、俺と戦え！！」

王蛇

「俺が相手してやるよ、ははあ……」

新八

「今、なんかいませんでした？」

作者

「気のせい」

光

「フェイト……残念だね」

フェイト

「うん……」

作者

「はい5位の発表ー!!」

ライハ

「唐突だね」

第5位ケンタ、小狼。

アंक

「2人だけか!？」

作者

「うん、はい次!」

第4位美琴、カーレンジャー全員、ジョー、ルカ。

美琴

「えっ!?! 私!?!」

レッドレーサー

「よっしゃ4位だぞおおお!!」

レッド以外のカーレンジャー

「おおおお!!」

カーレンジャー

「戦う交通安全!! 激走戦隊!! カーレンジャー!!」

第3位上条当麻、ハカセ

美琴

「いきなり!? しかも当麻!？」

当麻

「んっ? マジで?」

作者

「さ〜てお次は……僕が最も気に入っているオリキャラ……、風上光です!!」

第2位風上光、アインハルト、ダイゴ、ラン、アイム、鎧。

光

「えっ僕?」

フェイト

「やったああああ!! 光が2位!! 光が2位!!」

鎧

「やりましたよ皆さん!! 俺2位です!!」

マーベラス達

「ふん」

鎧

「反応薄!!?」

作者

「そして第1位は……」

第1位マーベラス。

一同

「またかよ!!?」

ボーボボ・首領パッチ・神楽

「「「……」」」

マーベラス

「……ギアアアア!!!!?」

作者

「なにがあつたかは御想像にお任せします」

結果発表（後書き）

あんまり関係無いんですけど、リリカルなのはHEROSとメガマックスサーガ、響鬼×タユタマ、ネクサスSTSの内皆さんはどれがお好きですかー？

第29話 『どうしてこうなった』(前書き)

SC学園のタイトルが最近適当になってる件。

第29話 『どうしてこうなった』

SC学園のグラウンド、そこではなにか巨大なロボットがうつ伏せになって倒れていた。

「という訳でポセイドンさん、戦ったらサインくれますか!？」

ハスナの変身した仮面ライダーイクサDがポセイドンに戦いを挑んでおり、進鵜は遠くから様子を伺っている。

「まあ、ハスナになにかあつたら即……」

何やら恐ろしいことをぼやいている進鵜。

(まあ、負けるとも思わないが)

「良いだろう!! 全てのライダー達と戦い、勝利してやる!!」

だがそこに割って入る者が。

「いやいやいや!! 気付け!! あのロボットに!!」

ギルガメッシュ似の青年がなにかツツコミを入れてきた。

「んっ? 誰ですかあなた?」

「我等の戦いの邪魔をするな、ライダーでも無い癖に」

イクサDの問いにギルガメッシュ似の青年は髪をかきあげる仕草をする。

「俺か？ 岬炎斬、本当の名前はグレンファイヤーだがな」

「グレンファイヤーさんサインお願いします！！」

と速攻でグレンにサインを求めるイクサD。

「グレンファイヤーって人間になれたんだな……」

その後、倒れているロボットらしきものを眺めている進鵜とハスナ、奈々にぬらりひょん、健太、ルルーシュが見ている。

「光さんとフェイトさんの邪魔したら八つ裂きにしますよ？」

黒笑みを奈々に向け、周囲の者がビビるくらい殺気を放っているハスナだが……。

「光を弄るのは楽しいので、これをやめるつもりはありません」
(キレてるハスナに反論しやがった……！ しかも全く動じて無い)

少々奈々に驚く進鵜だった。

「で、これはなんじゃ？ こんな所にあつたら邪魔で仕方ないわい」
「それにしても、この格好は……」

ルルーシュがロボットの格好を見て少し啞然としていた。

それもその筈、そのロボットは頭に巨大なわかめを被っており、なぜかパツツンパツツンの体操服を着ており、さらには身体にやけにリアルな龍の絵が落書きされており、何故か左腕がアंक見たいになっついて右足にこれはまたバカでか過ぎるサメがロボットの足を噛んでいた。

(どうなったらこうなる……?)
『うっ……』

ロボットが起きて、座り込むとぬらりひょん達を見渡す。

『……僕はどこ?』
「僕だと……?」

何時の間にかアंकが来ており、そのロボットを睨みつけている。

『僕でしょ?』
「ふざけるな……お前は俺だ!」
「いや、なんだよコレ!」?

健太がツツコミを入れる。

「うおおおお!!!!」

すると突然首領パッチが物凄い勢いで走って来てスザザザッと地面をスライディング。

「トマトォ!! トマトォ!!」

となにか訳の分からないことを言い出す首領パッチ。

「鬱陶しい!!」

そこに現れたボーボボが首領パッチを蹴り飛ばし、進鵜の方に向かってきたので進鵜はバットで首領パッチをホームラン!

「ぐへえ!？」

「進鵜さん素敵です!」

「んっ? ああ、有難うハスナ」

首領パッチはロボットの頭にブチ当たり地面に落下してベチャッと音を立てて倒れこんだ。

『イタッ』

「このロボットところでん食えるかな?」

天の助がロボットの口元までよじ登り、ところてんを無理やりロボットに食べさせようとしている。

「オラ食えやあああ!!! たらふく食えやあああ!!!」

「なにしてんだテメー!!!」

「ぶほお!？」

そこでボーボボが天の助の後ろ頭から天の助を蹴りつけ、ベチャリとロボットの顔面がところてん塗れになってしまう。

「ボーボボ、テメー、ゼツテ潰す……!」

首領パッチがボーボボにしがみ付き、呪いの言葉をボーボボにけるが……。

「まだ息の根があつたかああああ!!!」

マーベラスを持ち上げるボーボボ。

「おい、なにするつもりだ!？」
「1位の恨みいいいい!!!」

ボーボボはマーベラスをそのまま首領パッチにぶち当てた。

「「ギヤアアアア!!!」」

『ハッ! 思い……出したぞ!』

「おっ、なんか思いだしが!」

ロボットはどうやらなにかを思いだしたらしく、立ち上がる。

『有機生命体を抹殺する。 俺の名は……ジャンキラー』

それを聞いた途端一同は『えっ?』となり、ジャンキラーが腹部から光線を健太達に放ってきた。

「おわあああ!!!?」

「なんの! バカ&海賊ガード!!!」

ボーボボは首領パッチと天の助とマーベラスを盾にする。

「「「ボーボボテメええええ!!!?」」」

ギャグ補正があるので3人とも死にはしないが、その隙に健太がメガレッドに変身し、デルタメガというロボを呼びだす。

「インストール・メガレンジャー!!! デルタメガ、インストール!!!」

デルタメガがロボット形態で空から降り立つ。

「デルタメガ！！ ジャンキラーを止める！！」

デルタメガはジャンキラーを抑えつけるが、暴れて中々大人しくしてくれない。

「ガトリングブラスター!!!」

ガトリングブラスターを撃つもジャンキラーは全く動じない。

「有機生命体を抹殺する」

「俺に任せろ！！ 鼻毛真拳奥義……」

ボーボボがそう叫び……。

「子守唄でお寝んね！！」

ボーボボはマイクを取りだし、子守唄を歌い始める。

「いえええええい！いいい！……わお！！」

「しゃあああああ！！！」

「全然子守唄じゃねええええ!!!!? しかもうるさい上になにを言ってるのか全く分からん!!!! こんなで誰が寝るんだよ!」

と健太がツツコミを炸裂し、ジャンキラーを見ると……。

「グオー、グオー」

「寝てゐる……?」

再びジャンキラーが目覚めた時、また彼は記憶を失っていたとか。

第30話 『メリー……カオスマス!』 (前書き)

色々カオスだと思っんだ……。

第30話 『メリー……カオスマス!』

さてさて、今日はクリスマス……。

だが、この作品で普通にクリスマス過ごすなど無理な人物もいれば普通に過ごせる人もいる。

「メリークリスマス!!」

SC学園でバトルフィーバーのバトルケニアと鎧が変身したゴーカイクリスマスがプレゼントを配っていたり。

因みにゴーカイクリスマスがマーベラスにプレゼントを渡す時……。

「メリー苦しみマーベラスさん!!」

と鉄球が幾つか入った箱をマーベラスにぶん投げてマーベラスの顔面に直撃した。

「ゴフウ!? 鎧デメーなにしゃがる!!」

きつとアレだ、ゴーカイメンバーで唯一彼女候補がいるからだ。

因みに、ガオレンジャーのガオレッドこと「獅子走」は……。

「どの面下げてきやがったゴルアアアアア!!!!」

ガオレッドに変身した走が偶然発見したクリスマスオルグ、まあ、本当は「クルシメマスオルグ」だが、そのオルグをガオレッドに変

身した走がフルボツコにしており、今の姿はクリスマスオルグの姿だがガオレッドに殴られまくって顔の形が変形して本来のクルシメマスオルグに戻っていた。

「ウギヤアアア!!!? ごめんなさいごめんなさああああい
!!!!!!」

光ファイカップルなどかというと……。

「あの女入って来ない様に光を監禁でもしようか?」

徐々にヤンデレっぽくなってきているフェイトに、光は冷や汗を流す。

「なんて、冗談だよ冗談♪」

「なら、よかったあ」

因みに前回登場したジャンキラーは「ウルトラマンゼロ」のエメラナが……。

「ジャンボ・グ9をモチーフにしたロボットなんですから『ジャンナイン』という名前にしましょう♪」

「姫様!? その発言はちよつとメタいのでは……!?!?」

と「鋼ナオキ」こと「ジャンボット」が言っていたがエメラナはそこはスルーし、ジャンキラー改め「ジャンナイン」という名前に改名された。

『兄よ、クリスマスとはなんだ?』

兄であるジャンボット……今は鋼ナオキという人間態になっているが……、ジャンナインはナオキにそう尋ねる。

「クリスマスというのはな……」

「「ところでん／ちくわを食わせる日だ！！！」」

どこから首領パッチと天の助が現れ、ジャンナインに嘘を吹き込む。

「嘘を吹き込むなあああああ！！！！！」

等身大のジャンボットがジャンナックルで首領パッチと天の助をぶっ飛ばす。

「「ぎよえええええ！！！！？」」

「そうか、ところでんとちくわを……」

ジャンナインは何処からかちくわとところてんの入った箱を取りだし、さらにところてんグッズを身につけていた。

「だから真に受けるな！！？」

因みにジャンナインも等身大能力がある為等身大になっている。

「所でジャンナイン、人間態にはなれないのか？ 私の弟なのだからなれるだろ？」

「出来ないことは無いが、やはり人間態になった方がいいか？」

「いや、まあ、ネジレンジャーとかずつとあのままだから問題ないのだが……、ウルティメイトフォースゼロのみんなは普段人間態で過ごしてるからな、お前以外」

ジャンナインは「分かった」と頷き、ジャンナインの人間態はガンダム〇〇の「沙慈・クロス・ロード」似の青年になった。

「これで、いいか？」

「ああ」

次にある部屋ではミニスカサンの格好をした美琴やセイバーに杏子やマミ（ネクサス）が着ており、杏子と美琴のツンデレコンビは恥ずかしそうだった。

着替え終わったのが分かり、当麻やアムイに士郎、ヒメヤが入ってくると……。

「「み、見るなアアアア！！！！／／／／／」」

杏子は槍で、美琴はレールガンで恥ずかしさのあまり当麻とアムイをぶっ飛ばしてしまった。

「ウギャアアア！！！！？ 不幸だああああ！！！！？」

「なんで僕までえええええ！！！！？」

セイバーは少し恥ずかしそうにしながらも士郎に似合ってるか尋ねる。

「あの、どうですか士郎？／／／」

「ああ、スゲー似合ってるぞセイバー！！／／／」

サムズアップする士郎、マミも同じくヒメヤに尋ねるとヒメヤはマミの頭に手を置いて微笑みながら「似合ってるぞ、可愛いしな」とだけ言い、マミは顔を赤くした。

「まあまあ、折角可愛い格好してるんだから僕に見せてあげなよ、恥ずかしがらず」

突然現れて杏子の頭を優しくポンポンと叩くヒビキ。

あつ、ヒビタユの方ね、本家は本名で呼びますので。

因みにこのヒビキは未来のアムイ。

「うつ………だけだよ／＼／＼」

こつちのアムイ………もといヒビキは大人びている為かアムイ見たいには恥ずかしがらなかった。

因みに、この場にははやてもいたのだからなぜかメイド服。

「いや、こつちの方がカズキ喜ぶかな思つて………」

「もちのろんです／＼／」

サムズアップしながらカズキが出てきた。

「うおッ！？　びつくりするやないか」

「ごめんごめん」

その頃、校舎の裏では……。

「どうせ私達なんてずっと影の住人なんだわ。　姉貴なんて映画でシャウタのテーマソング流れたから光に戻ってしまったし」

地獄マミがそう愚痴っている時。

そこに2人の人影が現れる。

「そうさ、影の住人にクリスマスなんて必要なか無いんだ」

「お前、俺達の妹になれよ」

上から順にあの有名な地獄兄弟である「仮面ライダーパンチホッパ
ー」「影山瞬」と「仮面ライダーキックホッパー」「矢車総」が現
れる。

当然このマミは承知する訳である。

泉戸家ではチビましろもミニスカサンの格好をしており、カブキ
の膝に座っていた。

「どーですかゆーりちゃん!？」

「んっ? ああ、似合ってるよ、可愛い」

「えへへ……うれしいですノノノ」

他社から見ればカブキは「ロリコン」と見られるだろうが、実際は
カブキと同じくらいの女性である。

まあ、読み切り漫画ではチビましろにキスしていたので何も知らな
い人達が見たらきつとロリコンと思われる可能性はあったが。

（あの時人がいなくて良かったあ）

マジレンジャーのマジマザーやらスノーゴンという怪獣が雪を降ら
してホワイトクリスマスにしたりなどしていたが、寒さに非常に弱

いランは少し迷惑したとか。

「じゃあ私がランを温めるよ!」

なのはがランに抱きつき、顔を赤くするラン、その為寒さを結構マシになったとか。

(温けえ)

*

光とフェイトは外に出て2人で一緒に買い出しに行っていた。

「本編じゃ私達、しばらく会えないから思いっきりその…… / / / /
/ こういうことしよ? / / / /」

フェイトが光の頬にキスし、光は顔全体が真っ赤に染まる。

とそこに、巨大な買い物袋を掲げたあのジャンナインの生みの親である「ビートスター」がズシンズシンと歩いていた。

「「なんかデカイのが歩いてきたああああ!!!!?」」

光が何気に「なにしてるんですか?」とビートスターに尋ねると……。

『んっ？ いやあ、息子達にクリスマスプレゼントを……』

ジャンナインの生みの親ならばジャンボットの親とも言える、その為ビートスターはジャン兄弟を実の息子のように思っているのだ。

だがそこで光はあることに気付く。

（アレ？ この人（？）本編で僕とアスカ・シヨウイチさんをボツコボコにしたデスフェイサーじゃ……？ えっ？ どういうこと？
なんだか微妙に違うけど……）

なにか光は勘違いしてる様子だが、ビートスターはそのままデカイ為足元を気をつけてジャン兄弟の元に向かった。

本来は「有機生命体を抹殺する」など物騒なことを言っているが、ここではあんな感じ。

「行こうか、フェイト」

「うん！」

指を絡みあわせた状態で手を繋ぎ、光とフェイトは歩き始めた。

「そう言えばフェイト、クリスマスプレゼントとかなにかいる？」

「光がいればそれでいいよ」

フェイトは微笑みながら光に抱きつき、光はそれを抱きしめ返す。

「僕も、フェイトがいればそれでいいや……」

幸い、周りに人はいないので光とフェイトは静かに唇を重ねる。

「んっ／＼／＼」

「んんっ／＼／＼」

さて、その様子を伺っていた奈々はというと……。

（流石に今回はからかうのはやめましょうか……、それにしてもホント仲いいですね、あの2人）

因みに……。

「ゴークイジャーに出れることは自分にとってのクリスマスプレゼントだあああああ……！」

とカクレンジャーの「ニンジャマン」が叫んでいたとか。

*

さらに別の場所で仮面ライダーやウルトラマンの両方に変身出来るウルトラライダースは昭和ライダーメンバーと一緒にクリスマスパーティーをしていた。

「じゃあ、ケーキ斬るぞお」

と言いながらアスカ・シヨウイチが変身した「仮面ライダーアギト・

フレームフォーム」がいた。

「いやお前はなにで斬ろうとしてんだ!？」

ストロンガーである城茂がツツコミを入れる。

「そつだぞ、ショウイチ。 ケーキを斬るのはケーキを焼いてからだ。 まだこれ焼いて無いだろ。 だから……その後には斬るんだ」

真顔で言うスーパー1である沖一也。

「そついう問題でも無い!」

そこで1号ライダーである本郷猛があることに気付く。

「そつ言えば、カズマはどうした？」

弧門カズマ、ネクサスとブレイドに変身する人物であり、彼だけいなかった。

「ああ、なんだか入院中の人に会いに行くとか言っただけ来れないそうです」

ショウイチが言い、取り合えずここにいるメンバーだけでクリスマスパーティーを行うことにした。

第30話 『メリー……カオスマス!』（後書き）

因みにこのSC学園のコラボ禁止令は既に解除しましたが、あまりにコラボ依頼多すぎると困るのでなるべく控えめをお願いします。

それと次回は既にコラボ決定しています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7343q/>

SC学園物語

2011年12月25日21時47分発行